

ラザルト思料スルモ其逃亡ヲ拒グ爲メ拘留狀ヲ發シテモ可ナルガ如クナレモ決シテ然ラズ其所以ハ禁錮以上ノ刑ニ該ラザル者ハ裁判確定トナルモ多ク金刑ヲ科ス微罪ニテ決シテ自由ヲ拘束スル性質ノ刑ニアラズ果シテ然ラバ若シ拘留狀ヲ發シ未決中拘留スレバ却テ本刑ヨリモ重キ痛苦ヲ受クルコト、ナレバナリ然ラバ豫審判事ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルベキモノナレバ常ニ拘留狀ヲ發セザルヲ得ザルカ曰ハク逃亡スル虞ナキカ罪證ヲ湮滅スルノ虞ナキモノト認ムルハ一旦歸宅セシメ取調ベノ都度召喚スルモ可ナルベシ去リナガラ爰ニ注意ヲ要スルハ豫審終結シ重罪ノ公判ニ付スルモノト決定セバ是非其之ヲ拘留セザルヲ得ズ何トナレバ重罪ハ大罪ナリ若シ放還シ一朝逮捕スルヲ得ザルニ至レバ其危険ヤ大ナレバナリ

第四項 令狀ノ執行

召喚狀ハ強制執行スルヲ得ザル事ハ既ニ之レヲ講述セリ乍併拘引拘

留ノ二狀ハ強制執行力ヲ有セリ乃チ令狀ナルモノハ一面ヨリ見レバ命令的ノ性質ヲ具有スルヲ以テ其命令ノ通り執行スルモノナリ乃チ拘引狀ハ如何ナル事ヲ命令セルヤト云フニ裁判所ニ引致スルコトヲ命シ拘留狀ハ監獄ニ拘留スルコトヲ命シタルモノナルヲ以テ其被告人ヲ裁判所ニ引致シ又監獄ニ拘留スルニアラザレハ未ダ以テ執行ヲ終了セリト云フベカラズ而シテ其執行方法ハ如何スルヤト云フニ七十一條ニ依ルニ被告人ニ正本ヲ示シテ其謄本ヲ下付ス而シテ此場合ニ於テハ正本謄本ニ執行ノ場所年月日時等ヲ記載シ而シテ被告人ヲシテ其正謄本トモニ署名捺印セシムルナリ若シ署名捺印スルコト能ハザルハ其理由ヲ記入スルモノトス

拘引狀拘留狀ハ固ヨリ被告人ノ所在ニ就キ執行スルモノトス然ルニ彼ノ浪々漂泊所在ヲ定メザルハ被告人ノ常ナレバ只一通ノ令狀ノミニテハ到底逮捕ノ急ニ應ズルコト能ハズ仍テ七十七條ヲ見ルハ時

宜ニ仍リ正本敷通チ作り巡査憲兵卒ニ分付スルコトアルベシト云フ  
明文アリ然ルニ令狀ヲ執行セントスルニ際シ若シ被告人自宅又ハ他  
人ノ家宅内ニ潜匿シタルコトヲ聞知シタルハ如何七十八條ニヨレ  
ハ其地ノ市町村長ニ又其差支アルハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之  
ヲ搜索スベシトセリ元來巡査憲兵卒ニシテ何故ニ立會ヲ求ムルニア  
ラザレハ家宅搜查ヲ爲スコトヲ得ザルヤト云フニ人ノ家宅ナルモノ  
ハ人民ノ安寧ヲ保持スル城廓ニシテ此城廓ニ依リ高枕安臥スルヲ得  
ルモノナリサルニ其金城鉄壁ト頼ム處ノ家宅ニ侵入サレ令狀ノ權力  
ヲ妄用セラルハ如何キハ豈迷惑ノ至リナラズヤ故ニ立法者ハ一面ニ  
ハ其執行ノ止ムヲ得ザルニ出デタルコトヲ證明シ且一面ニハ令狀ノ  
効力ヲ濫用セシメザルコトヲ知ラシムル爲メニ隣佑ヲ立會セ執行ス  
ルコトヲ規定シタルモノナリ  
然ルニ此規定ハ都會ニ適用セラルベクシテ彼ノ酒屋ニ三里豆腐屋ニ

五里ト云ヘルガ如何キ片田舎ノ如何キハ態々村長ノ立會ヲ請ハント欲セ  
ハ半日ノ行程ヲ往復セザルベカラズ果シテ然ラバ其立會ヲ求メント  
スル間ニ既ニ々々被告人ハ遁逃シテ其形跡ヲ失フノ恐アリ故ニ云ハ  
ク人戸稠密ノ都會ニアラザル以上ハ遂ニ適用ヲ見ルコト無カルベシ  
ト將又隣佑ノ立會ヲ乞ハシメニ山又山ヲ越ヘ川又川ヲ涉リテ行ク  
モ隣佑若シモ之ニ應ゼザラシカ法律ニ明文ナケレバ之レニ制裁ニ加  
フルヲ得ザルヲ如何センヤ此等ハ何レモ法律ノ缺點ナルガ如何シ然レ  
モ退イテ考フルニ此等ノ缺點ハ立法者ノ杜撰不注意ヨリ出デシニア  
ラズ寧ロ法律其物が到底満圓ニ具備スルヲ得ザルノ條件ニシテ又止  
ムヲ得ザルベシ  
右ニ述ブル如ク被告人ガ潜匿シタルハ家宅搜查ヲ爲スモノトス而  
シテ其搜查ノ爲メニ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ラズ搜查調書ヲ  
作り立會人ト共ニ署名捺印スルヲ要ス但シ此家宅搜查ヲ爲スニ付テ

モ制限アリテ日出前日没後之レヲ爲スコトヲ得ズ此規定モ固ヨリ深意アルニアラズ唯ダ人民ノ安息ヲ妨害セザルニ出タルモノナリ是ヲ以テ夜間多人數ノ出入スル場所假令ハ劇場興行席飲食店料理屋宿屋等ハ別ニ人民ノ安息ヲ害セザルガ故ニ其公開時間内ニ限り何時ニテモ家宅搜索ヲ爲スコトヲ得ベシ是レ七十八條ノ末項ニ示ス所ナリ七十九條ノ規定ヲ見ルニ令狀ノ執行ヲ受クベキ被告人他ノ管轄内ニ隱匿シタルモ又ハ其疑アル場合ニ於テ其事件重大且ツ急速ヲ要スルモハ豫審判事ハ巡查又ハ憲兵卒ヲシテ令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得而シテ其帶行スル處ノ巡查憲兵卒ハ被告人所在地ノ豫審判事檢事又司法警察官ニ令狀ヲ示シ而シテ即時ニ執行ヲ求ムルモノナリサレバ巡查憲兵卒ハ此場合ニ於テハ自ラ執行スルヲ得ズ此規定ハ予輩舊治罪法ニ於テモ又之レヲ見タリ然レドモ退テ考フルモハ良善ノ規定ニアラズ元來立法者ハ豫審處分ハ凡テ至急活潑ヲ要スルニヨリ之レニ應

ズルニ簡便迅速ヲ方針トシテ規定ヲ設ケタルニモ不拘獨リ此ノ七十九條ニ限り何故ニ之レガ執行ヲ巡查憲兵卒ニ許サ、ル乎殊トニ彼ノ令狀ナルモノハ日本全國ニ通ズルノ力ヲ有スルニヨリ管轄ノ内外ニ依テ制限セラル、ノ理ナシ立法者ハ何ヲ苦ソデカ迂遠ニモ其地ノ管轄官吏ニ執行ヲ委任セシムルコト、セシカ方今道路交通ノ便益々開ケ犯罪者ハ出沒變幻極マリナシ予輩殊更ニ不便不利ヲ感ズル甚ダシ此點ニ於テハ我刑事訴訟法ハ佛國治罪法ニ一籌ヲ輸セザルヲ得ズ同法七十八條ヲ見ルニ如此場合ハ被告人ヲ逮捕シタル後チ其地ノ管轄官吏ノ面前ニ連行シ而シテ令狀ニ捺印ヲ請求スルコト、ナレリ此規定ハ直チニ逮捕ニ着手スルヲ得テ犯罪人ノ逃走ヲ拒グコトヲ得ベキナリ然レモ予輩ノ見ルトコロニヨレバ之レ亦完全ト云フベカラズ何トナレバ其被告人ヲ逃走セシムルノ處少キニモセヨ其地管轄官吏ノ捺印ヲ受クルガ如キハ抑モ何ノ必要カアル

七十九條ニ付一ノ注意スベキ事ハ素ト本條ハ事件重大急速ナル場合ニ限り許サレタルモノナルガ故ニ若シ事件輕微ニシテ急速ヲ要セザルモ其地ノ檢事ニ執行ヲ囑託スルモノトス  
 上來ニ解シ來リタルモノハ多ク被告人ノ所在分明ナル場合ヲ豫見シタルモノナリ然ルニ之レニ反シテ被告人ノ所在地分明ナラザルモ如何スベキヤ決シテ之ヲ放棄スベカラザルハ勿論飽迄モ手段ヲ盡クシテ逮捕ノ術ヲ求メザルベカラズ故ニ八十條ハ示シテ此ノ如キ場合ハ豫審判事ハ各檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送り捜査及ビ逮捕方ヲ依頼スルモノトセリ此依頼ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ各檢事ニ命令ヲ發シ捜査及ビ逮捕ヲナシムルトセリ然レモ檢事ナルモノハ通常ノ場合ニ於テハ令狀ヲ發スルノ權利ナシ既ニ其權利ナシトスルモハ假令其人相書ニ適合スルモノヲ發見スト雖モ苟クモ令狀ヲ有セザルニ於テハ之ヲ逮捕シ能ハザルガ如キ不都合ヲ生ズルヲ以テハ

十條ハ併セテ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ拘留狀ト同一ノ効力ヲ有スルコトヲ示セリ故ニ此規定存在スル限りハ見ス々々被告人ヲ逃亡セシムルガ如キ不都合ナカルベシ  
 又令狀ノ執行ヲ受クルモノ常人ニアラズシテ陸海軍人軍屬ナルモハ令狀ノ執行方モ異ニセザルベカラズ蓋シ此軍人軍屬ハ常ニ嚴然侵スベカラザル軍規ノ下ニ存在スルモノトス抑モ此規律ナルモノハ一國ノ干城トモ稱スベキモノナルヲ以テ立法者ハ可及的之レヲ尊重セザルベカラズ故ニ令狀ノ執行權モ直チニ軍人軍屬ニ及スベキモノニアラズトシ八十一條ニ此レガ規定ヲ設ケタリ本條ニ依ルニ先ヅ所屬ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示スベク長官又ハ隊長ハ止ムヲ得ザル差支アル場合ノ外ハ必ズ之レニ應ゼシメザルベカラズトセリ  
 巡查憲兵卒ハ令狀ヲ執行シ得タルモ如何スベキヤ即チ執行シタル事柄ヲ令狀ニ記入スベキモノトス又若シ執行シ能ハザルモ亦タ正

本ニ其理由ヲ記入スベキナリ且ツ令狀ノ正本ハ之レヲ檢事ニ返還スベキモノナリ又八十二條ニヨルニ拘留狀ヲ受ケタル被告人ハ如何スベキヤト云フニ其拘留狀ニ記載シタル處ノ監獄署ニ送ルモノトス若シ其指定シタル監獄署ニ引致スル能ハザルハ其地ノ最近ノ監獄署ニ送致シ其監獄署ハ之レニ對シテ受取證ヲ交付スベシ但シ其拘留狀ヲ發シタル被告人既ニ監獄ニアルハ巡査憲兵卒ヲシテ之レヲ執行スルヲ要セズ執達吏ニ依リテ執行スルモノトス

此他尙ホ令狀執行ノ事ニ付テハ二三ノ箇條アレヒ意味單純ニシテ別ニ深遠ナル法理ヲ含ミタルモノ無シ讀者一度法文ヲ緝ケバ自カテ瞭然タルモノアラント信ズルヲ以テ之レヲ贅セザルベシ

第二節 保釋責付

前段ニ於テ強制手段ノ事ヲ説明セリ抑モ此手段ハ被告人ノ逃亡ヲ防キ證據ノ湮滅ヲ防グヲ目的トスレモ被告人ノ自由ヲ拘束スルコトノ

少々ナラザルハ言ヲ待タズ故ニ法律ハ被告人逃亡ノ虞ナク證據ヲ湮滅セシムルノ恐レナキハ彼ノ裁判確定マデハ人ハ無罪視セラルベシト云ヘル格言ヲ遵奉シ拘束シタル自由ノ幾部分ヲ回復セシムルハ頗ル緊要ト云ハザルヲ得ズ凡ソ社會ノ事物剛柔并ニ行ハレテ始メテ全シ治罪手續何ク此理ニ洩レン強制手段アツテコ、ニ保釋責付等ノ緩和手段アルハ相待ツテ宜シキヲ得タルモノトス

然ラバ保釋トハ如何未決拘留ニアル被告人ヲ假リニ釋放スルニアリ乍併爰ニ言フ處ノ釋放トハ被告人ノ罪ヲ免シタルノ意ト解スベカラズ即チ監獄ニ繋留スルコトヲ許シタルノ意味トス

責付トハ如何此レ又未決拘留ニアル被告人ヲ假リニ釋放スルモノナリ然ルニ何故ニ此二者ヲ各別ニ規定セシヤト云フニ其販スル處ハ一ナルモコレヲ組成スル條件ニ差異アルヲ以テナリ

保釋ヲ請求スルニハ左ノ三種ノ條件ヲ要ス

(甲) 拘留狀ヲ受ケタルコト

(乙) 呼出ニ應ジテ出頭スベキ證書ヲ差出スコト

(丙) 保證ヲ立ツルコト

以上ノ三條件具備スト雖モ豫審判事ハ獨斷ニテ之レヲ許スコトヲ得ズ必ズ檢事ノ意見ヲ聞カザルベカラズ而シテ此條件中就中乙丙ノ條件ハ大切ナルモノナリ(百五十條參看)

保證ハ金錢若クハ有價證券又ハ金額ニ充ツベキ保證書ノ類ヲ以テスルモノトス何故ニ金錢ヲ以テ保證ヲ立テシムルヤト云フニ金錢ナルモノハ各自ノ最モ貴重スル處ナリ若出頭セザルハ此貴重ナル財産ヲ沒收セラル、ノ虞アルヲ以テ暗々冥裡ニ被告人ノ野心ヲ制シ自カヲ逃亡スル等ノコトヲ拒クヲ得ベシ畢竟何時ニテモ出頭ス可キ約束ノ擔保トシテ裁判所ハ領置スルモノナリ而シテ右保證ナルモノハ百五十二條ニ依ルニ獨リ被告人ノミナラズ法律上ノ代理人ニ於テ出ス

モ可ナルベク若シ此二者共ニ無資力ナルハ其裁判所管轄區域内ニアル資産ヲ有スル者ヨリ金額ニ充ツベキ證書ヲ以テスルコトヲ得ルナリ

而シテ保證金額等ハ豫審判事職權ヲ以テ適宜ニ之レヲ定ムルモノニシテ法律ハ一定ノ額ヲ定メズ又定ムル能ハズ何トナレバ事件ノ大小輕重被告人代理人其他ノ貧富位地ニ依テ大ニ斟酌セザルベカラザレバナリ

若シ被告人ハ保釋中裁判所ノ呼出ニ應セザルハ豫審判事ハ百五十五條ニ從ヒ檢事ノ意見ヲ聞キテ保證金額ヲ沒收スルモノトス百五十六條ニ依ルニ豫審判事が保證金ヲ沒收シタルハ保釋ノ言渡ヲ取消スベシト規定セリ此レ素ヨリ當然ノ事ナリ保證金ヲ沒收スル等ノ場合ハ被告人ガ呼出ニ應セザルカ又ハ逃亡セシカノ場合ナルヲ以テ彼ノ保釋ヲ許シタルノ主意ニ悖ルモノナレバナリ然ルニ一旦沒

收シタル保證金ハ其被告事件ガ公判ニ付シタル曉ニ於テ免訴トナル  
カ無罪トナルカ又ハ單ニ金刑ノミニ處セラレタルモ如何百五十七  
條ニ依レバ其金額ハ還付スベシト規定セリ是レ別ニ深キ理由アルニ  
アラズ此等ノ場合ニ於テハ被告人ハ未決囚トシテ拘禁セシムルノ罪  
質ニアラズ根本ヨリシテ裁判所ガ取扱ヲ誤レル故ニ其杖葉ノ結果ニ  
依リテ沒收シタル處ノ罰金ヲ還付スルハ自然ノ理ナリ此他百五十八  
條ニモ亦タ保證金ヲ還付スル場合ヲ掲ゲタリ此レ又理由ニ異ナル處  
ナキヲ以テ此ニ贅セズ

以上述タル如ク保釋ハ三條件ヲ要ス乍併保證ヲ立ツル等ノ事ハ被告  
人ニ取リテハ困難ナルコトナキヲ保セズ遂ニ條件ヲ充タヌヲ得ザル  
ガ爲メニ自由ヲ得ザルコトナキニアラザルベシ元來法律ハ被告人ヲ  
待ツニ可成寛大ナルヲ方針トシ彼ノ賞ノ疑ハシキハ重キニ從ヒ罰ノ  
疑ハシキハ輕キニ從フト云ヘル金言ハ何レニ至ルトシテ適用セラレ

ザルナシ仍之被告人ヲ監禁シタルモニ於テ逃亡ノ恐ナク證據湮滅ノ  
虞ナキモ尚ホ之レニ三條件ヲ要スルトセシカ實ニ不幸ナル結果ヲ  
生ゼン故ニ立法者ハ爰ニ注意シ假令ヒ條件具備セザルモ事ニ害ナキ  
限リハ百五十九條ニ依リ責付ヲナシ得ル事ヲ規定セリ然ラバ責付ハ  
保釋ト果シテ如何ナル區別アルヤト云フニ本人ガ出頭スル云々ノ誓  
約ト保證トノ二條件ヲ要セザルコトニアリ而シテ裁判所ハ被告人ヲ親  
族故舊ニ責付スルナリ尚ホ保釋人責付人ヲ呼出スノ手續ハ百五十三  
條百六十條ニ明文アリ就テ見ルベシ

### 第三節 密室監禁

密室監禁ハ豫審判事職權ヲ以テシ又檢事ノ請求ニヨリテ爲スモノト  
ス而シテ其ノ性質ヲ分析セバ左ノ三トナル  
(甲) 一室ノ内ニ幽閉シ他ノ被告人ト同室セシメズ  
未決ノ囚徒ヲシテ獄外ニアル親類朋友又ハ連累ト認メ得ベキモノト

自在ニ面接交通ヲ許スルハ動モスレバ證據ヲ湮滅スルノ虞アリ故ニ  
 被告人ハ相當官吏ノ立會アルニアラザレバ決シテ容易ニ接見スルコ  
 ト能ハズ予輩ハ彼ノ囚徒ガ檻倉ハ惡手段ヲ訓練スル學校ナリト云ヘ  
 ルヲ聞キ深ク其由來スルトコロヲ知ル想フニ彼レ囚徒ハ日常檻倉ノ  
 下ニアツテ何事ヲナスカ必ラズヤ揚々然實踐シタル惡手段ヲ語ルニ  
 アラズンバ得々乎躬行シタル偽計ヲ談スルニアラン其佗法網ヲ脱ス  
 ルノ術罪證ヲ滅スルノ策相互ニ揣摩至ラザルナケン故ニ此ノ理ヲ敷  
 衍スルルハ可成ハ他ノ拘留人トモ群居セシムルコトハ之レヲ避ルナ  
 可トスベキガ如シ然ラバトテ無數ノ拘留人ヲ悉ク別室ニ繋グヤト云  
 フニ決シテ然ル能ハズ何ントナレバ監獄ノ建築ヨリシテ非常ニ廣大  
 ナ極メザルベカラズコレ稅源ノ許ストコロナランヤ亦タ人ハ社交的  
 ノ動物ナレバ集テ群ヲナシ部落ヲナシ社會ヲナスハ何人ト雖脱却ス  
 ベカラザル天賦ノ性トス然ルニ之ヲ一室ニ獨居セシムルガ如キハ頗

ル人性ニ背反ス故ニ多クノ場合ニ於テハ數名ヲ同室ニ入ル、モノナ  
 リ然ルニ密室監禁ハ之レガ例外ニシテ必ズ一名宛ヲ限リ一室ニ幽閉  
 シ決シテ他ト接見交通ヲ許サ、ルナリ

(乙)豫審判事ノ許可ヲ得ルニ非レバ他人ト應接シ又ハ其他ノ物件ヲ授  
 受スルコト能ハズ

(丙)監獄ヨリ給スベキ物品ト雖モ典獄ガ特ニ指命スルモノニアラザレ  
 バ之レヲ給與スルコトヲ得ズ監獄則第三十八條ニ規定セリ

右ノ如キ性質ナルヲ以テ被告人ノ痛苦元ヨリ言語ニ絶ス故ニ密室監  
 禁ハ十日ヲ超過スルコトヲ得ズ而シテ十日間ニ少クモ二回被告人ヲ訊  
 問セザルベカラズコレ八十九條ニ示ストコロトス然レドモ一回ニテ  
 其効驗ナキハ十日毎ニ言渡ヲ更改セバ幾十日タリトモ其監禁ヲ繼  
 續スルコトヲ得ルナリ但シ豫審判事ヲシテ濫リニ密室監禁ヲ命ズル  
 コトナカラシメンガ爲メニ其言渡ヲ更改セシムルハ其旨ヲ裁判長ニ報



告セシムルコトトセリ

要スルニ密室監禁ナルモノハ通常ノ手續ヲ用ユルルハ益々證據湮滅  
 スルヲ以テ万止ムヲ得ザル場合ニ於テ用ユル非常手段ノミ乃チ八十  
 七條ヲ見ルニ事實發見ノ爲メ必要ナリト思料シタルルハ云々トアル  
 ナ以テモコレヲ推定スルヲ得ベシ然リト雖本條ハ單ニ事實發見ノ爲  
 メ必要ナル場合ヲ示シタルノミニシテ如何ナル事件ニ適用スベキヤ  
 ナ示サドルガ故ニ聊カ疑ヒナキニアラズト雖最モ重大ナル事件ニ限  
 ルト判定セザルベカラズ何トナレバ輕微ナル事件ニ對シテ如此キ酷  
 烈ナル待遇ヲ爲セバ社會ガ公平ヲ維持スル道理ニ悖レバナリ  
 以上ノ陳述ニヨリ讀者ハ密室監禁ノ何物タルヲ知了セルナラン既ニ  
 知了シタリトセバ請フ積誠ヲ凝テシテ沈思セヨ抑モ予輩ハ此制度ガ  
 既ニ既ニ舊治刑法ニ於テ存在セルヲ見ル毎ニ竊ニ殘忍刻薄ノ風習ガ  
 壹々タル法典ノ中ヨリ脱却セザルヲ憾ニ以爲ラク他日改正ノ機ニ到

達セバ必ズヤ立法者ハ撤去スルナラント然ルニ新刑事訴訟法ヲ編ク  
 ニ及ンデ依然舊時ノ觀ヲ改メザルニ至ツテ轉々浩嘆セズンバアラズ  
 或ハ云ハク密室監禁元ヨリ忌ムベキ性質タルハ言ヲ待タズト雖社會  
 ノ必要未ダ廢滅ニ歸セシメザルヲ如何セン見ユ頑兇固結ノ罪人ニ向  
 ツテ證據ヲ得ルハ此法ヲ措イテ他ニ何カアランヤトコレ何等ノ言ゾ  
 ヤ論者ハ必要アレバ殘忍ノ陋風陋態ヲ存スルモ尙ホ可トスルカ然ラ  
 バ彼ノ炮烙ノ刑可ナリ斬罪可ナリ苜杖敢テ願ミル所ロニアラズ拷責  
 ノ法又復古セシメテ可ナリ然レドモ若シ然セバ輿論之レヲ何トカ云  
 ハン嗚呼社會ヲシテ野蠻ニ退步セシメントセバ可ナラン苟シクモ如  
 此キ制度ハ善美ナル社會ト兩立スベキモノニアラザルナリ檢事豫審  
 判事ニシテ熟練アラシメバ巧ミニ證據ヲ收集スルニ足レリ何ゾカ、  
 ル手續ニ依頼スルニ足ランヤ且ツ拷問法ト密室監禁トハ其相距ル幾  
 何ゾヤ前者ハ有形ノ苦痛ヲ體驅ノ上ニ加フルニアリ後者ハ無形ノ苦

痛チ心意ノ上ニ與フルニアリ言ヲ換ヘテ云ハ、密室監禁ハ無形ノ拷問ニアラズヤ今ヤ人文益々進歩シ法典彌々改良シ自由ノ大光亭々然トシテ雲ヲ凌ギ天ヲ衝クノ有様ナルニ如此キ嚴酷ナル制度ヲ堂々タル新法典ニ存在セシムルハ何等ノ不體裁ヅヤ是ニ至ツテカ讀者ニ必ラズ明白ナル判斷ヲ誤ル勿レ

第四節 被告人ノ訊問及對質

被告人ノ訊問及對質ニ付テハ九十三條乃至百一條ニ規定スル處ナリ蓋シ被告人ニ對シテ刑ヲ課スルニハ十分審査ヲ經ルニ非ラザレバ能ハザルコトハ元ヨリ言ヲ待タズ被告人訊問ハ正サシク審査ノ端緒トス乍併檢證ヲナシ又ハ證人ヲ訊問スル等急速ヲ要スル場合ニ限リ之レヲ後ニスルヲ得ベシ而シテ訊問ノ順序ハ如何ト云フニ先ヅ被告人ノ氏名年齢職業住所ヨリ犯罪ノ年月日及ビ如何ナル原因ヲ以テ犯罪ヲ爲セシカヲ漸次取調ル者ナリ尤モ訊問ノ度数ニハ制限ナキヲ以テ

豫審判事ハ必要ナル時ハ幾回ニテモナシ得ルナリ

九十四條ニ依ルニ豫審判事ハ被告人ヲシテ其罪ヲ自白セシムルガ爲メ虛言ヲ用ヒ又ハ脅迫ノ言ヲ用ヒ被告人ヲ恐怖セシメテ以テ之レガ自白ヲ促スコト能ハザルコトヲ定ム本條ハ裁判官ヲ警戒シタルモノナリ抑モ裁判官ハ罪ヲ決スルニ唯ダ己レノ良心ニ從ヒ之ヲ斷スルモノナルヲ以テ苟クモ脅迫又ハ虛言等ヲ用ユルガ如キハ其德ニ背ク大ナルモノナリ況ンヤ裁判官ガ詐言ヲ用ユル時ハ被告人ハ之レニ乘リテ又詐言ヲ吐キ彼ノ暴ヲ以テ暴ニ代ルガ如キニ至リテハ何ヲ以テカ真正ノ自白ヲナサシムルヲ得ンヤ予輩嘗テ熟練且ツ堪能ノ判事が被告人ヲ訊問スルヲ見ルニ秋毫ダモ脅迫又ハ詐言ヲ用ズシテ尋求推問ノ順序宜シキヲ得ルヲ以テ被告人ハ一語ハ一語ヨリ窮シ一段一段ヨリ迫リ如何ニシテモ之レガ遁辭ヲ構フル餘地ナキニ至ラシメ或ハ前言ト後句ト符合セザル點ヲ究追シテ巧ニ虛偽ヲ破綻セシムル等百術

茲ニ盡キテ自白セシムルガ如キヲ見ル嗚呼此等ノ自白コソ真正ノ價  
 値アリテ詐術虚言ヲ用ヒタルノ自白何クソノ真正ノ證據力アリヤ  
 且ツ被告人ニ對シテ訊問スルノ顛末ハ何レモ罪ヲ斷ズルノ材料トナ  
 ルヲ以テ書記ハ悉ク之レヲ調書ニ登錄セザルベカラズ錄取終リタル  
 時ハ必ズ之レヲ被告人ニ讀聞カスモノトス凡テ裁判上數多ノ記錄ハ  
 之レヲ被告人ニ讀聞カセルノ必要アルハ他ナシ其錄取セシ通リ相違  
 ナキヤ否ヤヲ慥ムルニアリ仍ツテ被告人ガ之レヲ是認シタル時ニ於  
 テ之レニ署名捺印セシムルモノナリ若シ相違ノ旨ヲ申立ツル時ハ更  
 ニ訊問シテ更改セザルベカラズ但シ署名捺印ノ法式ハ幾回更改スル  
 事必ズ之レヲ行ハザルベカラズ而シテ書記ハ調書ヲ錄取スルニ當リ  
 テハ務メテ問答ノ事柄ヲ有體ニ錄取スルヲ要ス蓋シ錄取ノ誤ハ他日  
 判事心證ノ誤リヲ來タシムルノ大害アレバナリ  
 被告人訊問ハ以下ニ陳アル處ノ證人ノ訊問トハ大イニ其方式ヲ異ニ

ス證人訊問ハ事實發見ノ爲メ必要ヲ感シテ之レヲ訊問スルモノナル  
 ヲ以テ必要ナリトスル箇條ニ付テ訊問スレバ足レリ何トナレバ證人  
 ノ訊問ハ裁判スルニ不充分ナリト思料スル處ノ部分ヲ補フニ過ギザ  
 レバナリ乍併被告人ニ付テハ其事實ノ根本ヨリ枝葉ニ至ルマデ悉皆  
 之レガ陳述ヲナサシメザルベカラズ故ニ其趣自カラ異ナラザルヲ得  
 ザルナリ

右ニ述ブル被告人ノ訊問ナルモノハ被告人ヲ單獨ニ訊問スル場合ヲ  
 云フ蓋シ他ノ被告人又ハ其他ノ者ヲ法廷内ニ入レテ一同ニ訊問スル  
 トキハ或ハ暗合雷同シ或ハ無言ノ間ニ通謀スルガ如キ虞アリテ事實  
 發見上大ナル妨害アルヲ以テ多クノ場合ニ於テハ被告人ヲ單獨ニ訊  
 問シ其口供能ク他ト節合スルヤ否ヲ見テ犯罪ノ證據ヲ探ルモノナリ  
 然レモコレ只通常ノ場合ヲ豫見シタルモノニシテ時トシテハ發見上  
 却テ被告人一同若クハ其内ノ一部分又ハ證人其他ノ者ト對質セシム

ルコトヲ必要トスルコトアリ此場合ニ於テハ豫審判事ハ九十八條ニ依リ之ガ對質ヲ命ズルコトヲ得ルナリ  
 對質ノ必要ヲ示ス爲メ一例ヲ擧グレバ爰ニ豫審判事ニ於テ被告人中人違ヒノモノアルヲ想像シ證人モ亦コレヲ人違ナリト云フガ如キ場合ニ於テハ其者ヲ判事ノ面前ニ召喚シテ證人其他ノ者ニ對質セシムルトキハ直チニ其人違ナルヤ否ヤヲ看破スルコトヲ得ルノ類トス  
 乍併此對質ナルモノハ被告人證人其他ノ者ガ判事ノ面前ニ於テ互ヒニ言語ヲ交ユルモノト輕信スベカラズ元來對質ナルモノハ裁判官ニ於テ各自ノ陳述スル所ヲ見聞シ之レガ證憑ヲ採ル爲メニシテ訴訟關係人互ニ問答辯難スルコトヲ許スベキ性質ノモノニアラザルナリ  
 被告人ニシテ聾啞者ナルトキ及ビ國語ニ通ゼザル場合等ハ如何ニシテ訊問スルカハ百條百一條ヲ緋ケバ一目瞭然タレバ又喋々セザルベシ

第五節 檢 證

上來陳述セシ手續ハ專ラ被告其他ヲ訊問シテ證據ヲ收集スル場合ニ關セリ然ルニ豫審ナルモノハ單リ訊問ノミニ就テ完全ノ證據ヲ得ルト難シ仍ツテ爰ニ檢證處分ノ因テ起ル所以ナリサレドモ凡ソ檢證處分ナルモノハ犯罪アレバ必ズシモ之レヲ要スルニハアラズ豫審判事ニ於テ必要ト認メタル場合ニ限ル則チ百二條ニ於テ必要ナリトスルトキハ云々ノ文字アル亦此意ニ外ナラズ  
 而シテ如何ナル場所ニ臨檢スベキヤ法文ニ指定ナキヲ以テ苟クモ豫審判事ガ必要ト認ムル處ニ任ズルノミ  
 爰ニ一ノ注意スベキハ第八條ニモ規定スル如ク該處分ハ被告人ノ自己ニ利害ノ關係アルヲ以テ自カテ其檢證ニ立會スル事ヲ得ルナリ又檢證ナルモノハ其犯罪ノ場所ニ就テ實見スルヲ以テ眞實ヲ穿ツニ就テハ大ナル利益アルヤ必セリ然レドモ若シ一朝時機ヲ失スルトキ

ハ何ノ効力ヲ奏セザル場合アリ假令ハ大雪ノ夜ニ於テ殺人罪アリ其  
 足跡若クハ殷血ノ斑々タルヲ實檢スルガ如キハ實ニ有力ナル證據ト  
 ナルベケレドモ若シ一步ヲ後レ積雪既ニ融解シタル翌朝ニ至リテハ  
 檢證ノ効更ニ無カルベシ故ニ檢證ハ急速處分中ノ最モ急速ヲ要スル  
 モノナリ

豫審判事檢證ヲナスハ調書ヲ作り他日ノ參照ニ供スベキモノトス  
 且ツ檢證ノ目的ハ犯罪ノ痕跡ヲ實見スルニ在リト雖モ亂リニ有罪ノ  
 證ヲ集ルノミニ偏スベカラズ須ラク公平無私ノ精神ヲ以テ被告人ノ  
 利益トナルベキ事項アレハ力メテ之レヲ採取シ調書中ニ記載スルヲ  
 要ス(百三條)

百七條ニ依レバ其事件錯雜ニシテ其日ニ檢證處分ヲ爲シ遂グルコト  
 能ハザルトキハ其場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ許セ  
 リ此レ則チ證據湮滅ヲ防グノ一手段トス爰ニ所謂看守者トハ巡查憲  
 兵卒ヲ稱スルモノナリ然レドモ國事犯又ハ兇徒嘯集等ノ場合ハ巡查  
 憲兵卒ガ看守スルモ其制止ヲ肯ンセズ多人數闖入スル等ノコトナシ  
 トセザルベシ仍テ明治十四年九月二十日第八十二號布告ヲ以テ斯ル  
 場合ニ於テハ兵力ヲ以テ之レヲ防制スルヲ得ル旨ヲ公布セリ

第六節 家宅搜查

家宅搜查ハ百四條以下ニ規定スル所ナリ先キニ述ベシ檢證ナルモノ  
 ハ犯罪ノ現場ニ臨檢スルモノナレトモ家宅搜查ハ被告人若クハ其他ノ  
 モノ、住居ニ臨檢スルモノナリ而シテ此二者目的トスルトコロハ犯  
 罪ノ證據ヲ採取スル一點ニアレドモ其方法ハ大イニ異ナレリ即チ檢  
 證ハ事實ヲ探知スルニアレドモ搜查ハ犯罪ニ係ル物件ヲ取調ブルニ  
 アルナリ

搜查ハ被告人ノ承諾ヲ得若クハ立會人ヲ要メテ之ヲ爲スベシ概テ搜  
 査ノ起ル場合ハ家宅ニ於テ起レドモ時トシテハ家宅外ニ於テ搜查ヲ

爲スベキ必要アリ假令ハ人ヲ殺害セル者其兇器ヲ身体ニ藏匿セルノ疑アルトハ身體ヲ取調ブルノ必要アルベク之ヲ他ヲ物件ニ包藏セバ其物件ヲ取調メザルヲ得ズ(百五條參看)然ラバ彼ノ強姦罪等ノ場合ニ於テハ女子ノ陰部ヲ檢スルモ可ナルヤ否ヤノ問題アリ消極的ノ論鋒ヲ以テセバ女子ハ男子ト異ナリ陰部ヲ檢セラル、如キハ非常ノ耻辱ニシテ絶對ニ忍ブベガラザルコト、被害者自身モ信ズベク又社會一般モ甚ダ不快ノ感情ヲ發生スベシ凡ソ一方ニ得ルトコロアルモ如此キ令聞名譽ヲ損スルノ劇手段ハ正理ノ許ストコロニアラザルカ如シ然レモ如何セン百四條ニ除外例ヲ設ケザルヲ以テ見レバ必要ト思料セラル、ニ於テハ之ヲ決行セシムル法意ナリト決セザルベカラズ故ニ此等ノ場合ニ當リテハ當路者ニ十分ナル注意ヲ乞フテ止マザルナリ

家宅捜査ハ日出前日没後ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ(七十八條三項參看)此

理由ハ既ニ令狀執行ノ場合ニ講シタルト同一ナレバ爰ニ説カズ而シテ日出日没ハ如何ナル標準ニ依ルカト云フニ太陽ガ地平線ヲ出デタルヲ以テ日出トシ入りタルト以テ日没トスルヲ以テ妥當ナリト信ズルナリ

第七節 物件差押

物件差押トハ則チ犯罪ニ關セシ處ノ物件ヲ官府ニ差押フルコトヲ云フナリ其物件ハ何タルヲ問ハズ苟モ事實發見上必要ナルトハ悉ク之レヲ差押フルコトヲ得ルナリ(百六條參看)何トナレバ犯罪ノ證據ヲ蒐集スルハ社會公益上必要ヨリ生ズルモノナレバ物件ノ種類ニ因テ差別アルノ理ナケレバナリ然レモ凡ソ法律ハ彼ノ一私人ガ保持スベキ營業上ノ秘密ハ之ヲ暴クベカラズ若シ之レヲ暴カンカ營業ノ德義ハ何ヲ以テ守ルベケンヤ仍ツテ證言ヲ拒ムコトヲ得ルモノ、所有スル物件ハ例外ニシテ猥リニ之ヲ差押ヘ又ハ開披スルヲ許サ、ルナリ(百

十四條他ナシ此等ノ物件ハ往々秘スベキ性質ヲ有スレバナリ但シ本人ノ承諾アルハ素ヨリ差支ナシ而シテ法律ハ尙一層ノ注意ヲ加ヘ百十三條ニ於テ驛遞電信等ノ各官署ニ通知シテ豫審判事ハ物品電信郵便物等ヲ受取り開披スルヲ得ルコトヲ規定セリ本條ハ則チ憲法第廿六條ノ例外トス抑モ憲法廿六條ハ吾人人民ニ向テ書信不發ヲ約束セシモノトス左レモ被告人相互ニ往復セル書類ヲ披見シ又ハ電信ヲ押ルハ被告事件ノ摸樣ヲ知ル爲メ最モ便利ナレバ公益上止ヲ得ズ之ヲ侵サ、ルヲ得サレバナリ

豫審判事ハ正當ノ手續ニ依リ物件ヲ差押ヘタルハ必ズ之レガ目錄ヲ作ラザルベカラズ且ツ其物件ヲ護送シ保管スル等ノコトハ裁判所書記之ヲ擔任スルモノトス然レモ之ヲ書記局ニ運搬スルコト能ハザル場合假令ハ奈良ノ大佛又ハ智恩院ノ梵鐘ヲ差押ヘタル場合ノ如キハ之レニ封印ヲ爲スニ止ムルモノナルベシ但シ此等ノ事ハ法律ニ明

文ナキモ斯クセザルヲ得ザルヲ以テナリ

第八節 證人鑑定人

證人トハ犯罪ノ事實ヲ目撃スルカ又ハ其他ノ事情ニ依リテ犯罪ノ摸樣又ハ被告人ノ舉動ヲ熟知スルモノヲ云フ鑑定人ナルモノハ其學術經驗等ニ依リ犯罪ノ性質方法若クハ其犯罪ノ結果等ニ付キ鑑定セシムルモノヲ云フ如此ク證人ト鑑定人トハ大ニ其趣ヲ異ニスルガ故ニ證人ハ犯罪ノ實地ヲ見聞シタルコトヲ必要トスレモ鑑定人ハコノ必要ナク從ツテ證人ハ見聞ノ儘ヲ眞實ニ中述スルノ義務アレモ鑑定人ハ其學術經驗ニ於テ研究シタル結果ヲ報スル義務アルモノナリ右ノ如ク證人鑑定人ハ其趣ヲ異ニスト雖要スルニ此ノ二者ハ共ニ裁判官ノ見聞又ハ考究ノ足ラザル處ヲ補フノ手段ニ過ギサレバ如何ナル被告事件ニ對シテモ此二ツノ手續ハ一概ニ之ヲ爲サ、ルベカラスト斷言スベカラズ若シ裁判官ニ於テ檢證搜查差押等ニ依リ證據既ニ

具備シタルト認定セバ直チニ判決セバ可ナリ最早證人鑑定人等ヲ命ズルノ必要ナキナリ

豫審判事ガ證人鑑定人ヲ命スル第一着ノ所爲ハ呼出テ以テ始マル其呼出方ニ付テハ百十五條ノ規定アリ又其呼出狀ニハ若シ呼出ニ應セザレバ罰金其他ノ制裁ヲ付スル旨ヲ明記スルコト必要ナリトス(百十八條參看)凡ソ證人トナツテ法廷ニ陳述スルガ如キハ國民ノ義務ナリ然ルニ此義務ヲ等閑ニ附シ出廷セザルハ社會ハ決シテ不問ニ措クヲ得ズ又證人ナルモノハ其知り得タル處ヲ眞實ニ陳述スルノ義務アルモノナルヲ以テ好シ出廷スルモ陳述セザルハ之レ又相當ノ制裁ヲ與ヘザルベカラズ然ルニ尙制裁ヲ加ヘタルニモ拘テス出廷セザルハ拘引狀ヲ發スルコトヲ許セリ但シ鑑定人ニ對シテハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ズ其所以ハ證人ハ限定セル有數ノ人ナレバ陳述ヲ聞ク爲メ是非トモ公力ヲ以テ引致スル必要アレハ鑑定人ハ學術經驗ヨリ

要スルモノナルヲ以テ他ニ其人ヲ得ル難キニアラザレバナリ若シ證人トスベキモノ軍人ナルハ如何直チニ呼出テ得ズ先ツ所屬ノ長官又ハ隊長ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達スルコト、ナレリ(第十七條)

證人鑑定人ガ呼出ニ應ジ出廷シタルハ裁判官ハ訊問シ又ハ鑑定セシムル順序ニ立至ルベシ乍併先ツ其前ニ當リ一ノ履行スベキ法式アリ宣誓コレトス蓋シ證人モ人ナリ鑑定人モ人ナリ或ハ虛偽ヲ申述シ又ハ鑑定スルヤ知ル可ラズ裁判官モ人ナリ或ハ證人鑑定人ガ虛偽ヲ盡ク看破スル等得テ望ム可カラズ不知不識誤判ニ陥リ遂ニ其結果ハ裁判權ノ神聖ヲ損フニ至ルベキナリサスレバ訊問ノ要道ハ證人鑑定人ヲシテ正實ヲ述ベシムルニアリ是ヲ以テ裁判官ハ百三十二條ニ從ヒ訊問以前ニ於テ其證人鑑定人ニ良心ニ從ヒ眞實ニ申述シ又ハ鑑定スルコトノ宣誓ヲ爲サシムルコト、ナレリ聞ク歐米各國ニ於テハ天



帝ニ向ツテ宣誓スト然レモ日本ニ於テハ天帝ニ對スルニアラズ單ニ自己ノ良心ニ誓フナリ

我立法者ハ證人鑑定人信實ヲ申述セシムルニハ宣誓ヲ以テ極メテ必要トセルニヨリ爲スト爲サバトハ決シテコレヲ其人ノ隨意ニ任スベキモノニアラズ故ニ強制的ノ性質ヲ有セリ(百廿六條參看)

然ルニ惜哉當時ノ有様ニ徴スレバ宣誓ノ方式タルヤ一箇ノ空式ニ屬スルヤノ憾ミナキ能ハズ他ナシ道德ヲ重シシ節義ヲ守ルノ輩ニ對シテハ其効アルベクモ節義廉耻ヲ重ンゼザルノ徒ニ至リテハ假令嚴格ナル宣誓ノ式ヲ行フモ觀面應報ナキヲ奇貨トシ虛偽ノ陳述ヲナスヲ憚ラザレバナリ或人云ハク宣誓ハ恰モ鬼面ノ如シ良民ハ之ヲ見テ畏懼スルモ不長大膽ノ人物ニ至ツテハ之レヲ笑資トセリト此言少シク酷ナリト雖又宣誓ノ効ナキヲ見ルニ足レリコトニ歐米各國ノ人民ハ概テ宗教心ニ厚キヲ以テ靈妙ナル神ニ誓フノ容易ナラザルノ理ハ能

ク腦底ニ浸染セルガ故ニ幾分ガ其効ヲ奏スルモ我國ノ如キハ宗教心未タ發達セズ從テ宣誓ノ式モ神ニ誓フニアラズシテ唯己レノ良心ニ誓フニ過ギザレバ其効薄弱ナリ況ンヤ今日ノ如ク廉耻地ヲ拂ヒ道義光ヲ失フノ汚穢社會ナルニ於テオヤ豈遺憾ナラズヤ

又次キニ説明ヲ要スベキハ總テノ人ハ證人タルコトヲ得ルヤ否ノ問題是ナリ此答ヘハ百二十三條百二十四條百二十五條規定スル處ナリ然ルニコレニ二箇ノ區別アリ即チ當然證人トナルコトヲ得ザルモノト唯ダ自己ノ意見如何ニ依リテ證人トナラザルモノトコレナリ則チ百二十三條百二十四條ノ各項ハ當然證人ノ資格ナキモノナリ此二箇條ニ記スル處ハ即チ被告事件ニ付キ利害ノ關係アルカ若クハ被告人ト親族主從ノ關係アルカ又ハ無能力者ナルカ嘗ツテ刑罰ニ觸レタルコトアルカ又被告人ニ關係シテ訴ヲ受ケタル等ノ者ナルヲ以テ此等ハ證人トナスモ到底其陳述ヲ信用スルコト能ハズ則チ證人タルノ

信任缺乏セザルヲ以テ此等ハ當然證人ノ資格ナキモノト規定セルナリ又百二十五條各項ニ載スル者ハ本人ノ意志如何ニ依リテ證人タリ或ハ證人タルコトヲ拒ムコトヲ得ルモノナリ法律ハ其人ノ欲スルトコロニ一任セリ元來本條ニ記載セル者ハ身分職業等ニ關シテ人ノ秘密ヲ暗知スルコトモアルベク又人ヨリ信セラレテ秘密ヲ委託セラルコトモアルベシ然ルニ法律ハ強ヒテ此レヲ發カシメントスルハ抑モ非理ナリ若シ法律ハ之ヲ強シカ人民ハ爲ニ其職掌上ノ德義ヲ守ルコト能ハザルニ至ラン先ツ辯護士ニ付テ例センカ元來依頼者ハ辯護士ニ向ツテハ告グベガラザル秘密モ之ヲ告グ現スベカラザル穩微モコレヲ現シ以テ辯護士ニ委託スルモノトス然ルニ亂リニコレヲ漏泄セシカ其結果ヤ直チニ辯護士ガ社會ニ對シテ信用ヲ失フコトナルベク又社會ノ人モ秘密ノ漏泄ヲ畏レテ辯護士ニ依頼スル者其跡ヲ絶ツニ至ラシ果シテ然ラバ人民權利ノ代表者ハ何人ニ仍ツテコレヲ求ムベ

キヤ又人權ヲ伸張スルノ方法何人ニ依リテカ之ヲ求メンカ凡ソ人ニハ不幸ト稱スベキモノ數多アリト雖冤枉ニ屈シ無實ニ服スル程不幸コレヨリ大ナルモノアラシ然ルニコレヲ辯護者ニ委託スルヲ得ザルニ於テハ不幸更ニ大ナリ仍之法律ニ此等ノ者ニ證人トナリテ秘密ヲ漏サシムルコトヲ敢テセズシテ之レヲ拒ムノ自由ヲ與ヘタル所以ナリ又他ノ一面ヨリ者フルモ百二十五條ニ載スル者ニ向ツテ強イテ證人トナツテ陳述スルコトヲ命ズルニ於テハ刑法ト矛盾スルコトトナルベシ何トナレバ此等ノ者ニ向ツテハ同條三百六十條ニ秘密漏告ノ罪ヲ規定シナガラ刑事訴訟法ニ之レガ漏告ヲ強ルノ理由ナクレバナリ

百二十三條百二十四條ニ記載スル者ハ即チ證人トナルニ付テハ絕對的ノ不能ニ屬スルコト前述ノ如シ乍併宜誓ヲ爲サシメズシテ單ニ事實參考ノ爲ニ陳述セシムルハ妨ゲナシ是ニ於テ證人ト事實參考人ト

ハ差異アルコトヲ知ラザルベカラズ而シテ取扱上ニ於テ差異アル點ヲ舉クレバ事實參考人ハ宣誓ヲ要セザレドモ證人ニハ必ラズ之レヲ要スベク亦事實參考人ハ假令裁判所ノ呼出ニ應セズ又ハ陳述ヲ爲サ、ルモ之レニ對シテ別ニ制裁ナシ然レドモ證人ハ制裁アリ又證人ノ陳述ハ裁判官モ之レニ重キヲ置クモ事實參考人ノ陳述ハ左迄重キヲ置カザルベシ

既ニ證人鑑定人出廷シ宣誓シタルハ愈々證人ヲ訊問スルニ着手シ又ハ鑑定人ヲシテ鑑定ニ從事セシム於是カ書記ハ其證人ノ陳述ヲ録取シ又鑑定人ニハ其鑑定書ヲ作ラシムル手順トナル而シテ證人ニ對シテハ百三十一條ニモ規定スル如ク調書ヲ讀聽カス等ノ手續ヲ履行セザル可カラズ

又訊問ノ方法ハ證人ト被告人又ハ數名ノ證人等アルトキハ同時ニ同一ノ法廷ニ於テ訊問スルコトヲ許サズ之レ別ニ深キ理由アルニアラ

ズ是等ヲ同一ノ法廷ニテ訊問セバ其舉動ナリ又ハ言論等ヲ以テ事實ヲ暗合セシメ若クハ包藏シ事實發見上ニ大ナル不都合ヲ生ズルヲ以テトス然シナガラ却テ事實ヲ發見スル上ニ付テ必要ヲ感ズルトキハ特ニ對質ヲ命ズルコトヲ得ベキナリ(百二十七條)又證人等ニ對シテハ詰問スルコトヲ許サズ何トナレバ一ニハ證人ハ其犯者ニアラザレバ遁辭ヲ構フル如キコトハナカルベク二ニハ證人ハ見聞ノ儘ヲ陳述スルニアレバ之レヲ詰問スルノ必要ヲキナリ尤トモ一回ノ訊問ニテ未タ盡ザレバ數次ニ及ブモコハ素ヨリ差支ナシ

以上ハ通常人が證人タルルノ規定ニ過ギズ若シ皇族大臣帝國議會ノ議員ノ如キ證人タルルハ之レヲ法廷ニ召喚スルヲ得ズ元ヨリ皇族ハ皇室ノ一部分ナルヲ以テ勅許アルニアラザレバ之レヲ拘引シ若シクハ召喚スルヲ得ザルコトハ帝國憲法ニ明文ノ存スルトコロタリ故ニ證人トスベキ必要アルニ際シテモ豫審判事ヲシテ輕々召喚セシム可

ラザルハ素ヨリ當然トス其他各大臣或ハ帝國議會ノ議員ノ如キモノ  
ハ或ハ一國ノ大政ニ參與シテ要務ヲ掌リ或ハ國民ヲ代表シテ立法ノ  
樞要ニ與ルヲ以テ亂リニ法廷ニ召喚スベカラザルナリ仍之之レガ證  
言ヲ必要トスルニ於テハ判事其所在ニ就キテ訊問スルコト、セリ  
此佗猶證人鑑定人ニ關シテハ法律上規定スルトコロ少ナカラズト雖  
條文ヲ一見スレバ意味明瞭ナルヲ以テ予輩ハ說述ノ勞ヲ執ラザルベ  
シ

## 第九節 證據

予輩ハ既ニ前數段ニ於テ此證據ヲ收取スルトコロノ各種ノ手續ニ就  
テ詳述セリ然ラバ證據トスベキ物體ハ如何ナル性質ヲ具有スベキモ  
ノナルヤ將テ證據トナルベキ本質ハ如何ナルモノナルヤヲ講究スベ  
キ順序トナレリ元來政府ハ數十ノ裁判所ヲ建テ數百ノ法文ヲ設ケ數  
千ノ官吏ヲ養フハ抑モ何ノ爲ニスルトコロソ唯犯罪ヲ治ムルノ一點

ニ歸局ス果シテ然ラバ其罪アルヤ否ヤヲ斷定スルハ刑事法律ノ骨髓  
ニシテ之レヲ斷定スルニハ如何ナル方法ニ依ルヤト云フニ證據ニ依  
ルノ一途アルノミ讀者ヨ本章ニ就テハ輕々ニ看過スル勿レ  
凡ソ民事ト刑事トヲ問ハズ裁判ノ主眼トスルトコロハ本案事件ヲ證  
明スルノ證據ヲ得テ其事件ノ理非曲直ヲ判別シ適當ノ判決ヲ與フル  
ニアリサルガ故ニ裁判ヲ爲スニハ事實ノ精確ヲ穿ツヲ以テ要道トス  
俗ニ云フ有ノ其儘ヲ知ルニアラザレバ得テナスベカラズ乍併裁判ノ  
出來事タル概テ既往ニ屬スルヲ以テ此レヲ事後ニ觀察シ實際ト少シ  
モ違ハズ知悉セントスルハ爲シ得ベキ事ニアラズ古人云ハク光陰ハ  
百代ノ過客ナリト人苟モ現在ノ儘ニシテ移動ナカラシメバ一旦聞見  
シタル事ハ記憶ヨリ消散セザルベシト雖モ年々歳々移リ去リ移リ來  
テ既往ニ屬スルハ動モスレバ針小ヲ棒大トシ棒大ヲ針小トナスガ  
如キコトナキヲ保セズ既ニ然リ聞見シタル事スラモ如此況ンヤ其實

地ヲ見聞セザルニ於テチヤ試ミニ思ヘ水ニ砂糖ヲ投セバ其水甘ナル  
ベシサレドモ之レニ鹽ヲ混ズルルハ鹹トナル山ハ平地ヨリ高ク水ハ  
低キニ流ルベク三ニ二ヲ加フレバ五トナル如キハ三尺ノ童子モ猶能  
ク之レヲ知ル然レモ多端ノ人事豈如斯單純明白ナランヤ彼ノ神易活  
斷ナリト稱スル觀相ノ術筮竹ノ法スラモ少シモ信ヲ措クニ足ラズ嗚  
呼靈妙不可思議ノ造物主ナラバイザシラズ限リアルノ人智ヲ以テ限  
ナキノ罪事ヲ判定セントスル何ソア實際ト齟齬ナキヲ得ンヤ  
於是カ裁判官判決ヲ下スニハ到底眞實ヲ穿ツコト難タク從テ滿圓完  
全ナル證據ヲ得ル難キヲ以テ己レノ心證ニ照シテ裁判ヲ下スヨリ外  
ナケン心證トハ何ソヤ抑モ心證トハ法學者ノ所謂確信是ナリ確信ト  
ハ何ソヤ確信トハ其裁判事件ヲ以テ斯クアルベシ斯クス可ナリ斯ナ  
ラザルベカラズト確定信認シ一點ノ疑ヲ容レザルモノヲ云フ若夫レ  
夢想ニダモ判事ハ疑訝スルトヨロアルルハ之レヲ以テ確信トスル能

ハズ何ントナレバ怪訝ハ確信ヲ打破スル鐵槌ナレバナリ人或ハ確信  
ハ只裁判官其人ノ心事ニ訴フルニ過ギザルヲ以テ今日ノ確信ハ明日  
ノ不確信トナリ甲者ノ不確信ハ乙者ノ確信トナルガ如キ奇觀ナキヲ  
保セズ是レヲ以テ同一ノ被告ニ對スルモ或ハ有罪トスルモノモアル  
ベク又無罪ト斷スル人モアルベシ結局何レヲ以テ正皓ヲ得タリトス  
ルカ信ズルニ由ナキニ至ルト云フト雖モ若是等ニ遲疑セバ到底裁判  
ハ廢止セザルヲ得ズ天下一日モ裁判ヲ廢スベケンヤ  
要之裁判ハ心證ニ依ルニアラザレバ能ハズトセバ確信ノ重ンズベキ  
既ニ斯クノ如シ然レバ裁判官ハ千思万苦遂ニ確信ヲ得ル能ハザルル  
ハ如何被告事件ヲ放免スルヨリ外ナキナリ然ラバ裁判官ハ如何シテ  
心證ヲ得ルヤ之レヲ得ルノ方法四アリ左ニ述ベン  
第一實驗ニ依リテ確認シタルモノニ基ク

假令ハ人ハ一般虛言スベキモノニアラズトシ又ハ人心ハ善良ナル

コト等ハ聖賢之レヲ唱導スルノミニ止マラズ吾人が日常ニ實驗スルトコロナレバ彼ノ被告人證人鑑定人ノ申立ヲ以テ誠實ナリト確信スルコトヲ得ベシ

第二事實ノ符合ニ基ク

假令ハ被告人ノ云フ處ト證人ノ申立ツル處鑑定人ノ鑑定ト符合セバ最早ヤ其事實ノ如何ヲ確信スルニ於テ最モ充分ナルベシ

第三既ニ發見セル事實ト未ダ發見セザル事實トノ間ニ不可疑關係ノ存スルコト

一例ヲ舉テ證明センニ爰ニ甲ナルモノアリ拙著ノ刑事訴訟法要義ヲ盜取セラレタリトノ届出ヲ爲セリ然ルニ暫時ニシテ乙某アリテ竊盜ノ罪ニ依リ告發セラレ裁判審理中判事ハ家宅搜查ノ必要ヲ感テ之レヲ爲シタルニ先キニ甲者ノ盜取セラレタリト云ヒシ書籍ヲ發見シ而カモ甲者ノ印章押捺シアリトセヨ發見シタル事實ハ現在

ノ被告人ヲ以テ竊盜者ナルコトヲ指セルニ異ナラズ故ニ裁判官ハ之ヲ以テ竊盜ノ所爲アリト確信スルヲ得ベシ

第四識知ニアリ

識知ハ此レヲ明知推知ノ二箇ニ區別スルコトヲ得ベシ明知トハ假令ハ火ヲ見テ赤シトシ水ヲ見テ青シトスルガ如ク五感ノ作用ヲ以テ知ルモノヲ云フ推知トハ明知ヲ以テ識得シタル區域ヲ擴張シ未ダ識得セザル部分マデ推定スルヲ云フ假令ハ加害者ノ負傷セルコトヲ實見シ刀劍ヲ以テシタルトカ又ハ被害者ト互ニ毆打セシニ基囚スル等ヲ推知スルニアリ此レ亦裁判官ニ確信ヲ與フルノ唯一ノ基礎ナリ

上來ニ詳述セシ如ク心證ハ確信ニヨリテ成ルモノトスルガ故ニ裁判官ハ宣告文中ニ證憑充分ナリトス云々ノ文字アリ蓋シ此證憑充分ナリト云々ノ文字ハ裁判官ニ於テ確信シタルヨリ來ルノ結果トス仍之

視之裁判官ハ已レノ確信ニヨルヲ以テ法律ハ有罪タルノ證據ヲ示スベキモノニアラズ又示ス能ハズ故ニ刑事訴訟法ノ九十條ニ凡テ證據ハ判事ノ判斷ニ一任スルコトヲ明示セル所以ナリ是民事裁判ト異ナル點ニシテ讀者ノ注目スベキ處タリ元來民事ト刑事トハ裁判官ガ用ユル處ノ確信ノ區域ニ著シキ廣狹ノ區別アリ抑モ民事ニ於テハ裁判官ハ法廷ノ證據ニ束縛セラル、モノニテ既ニ法定ノ證據アル以上ハ眞實ト相違スルヲ認ムルモ其證據通テ判決セザルベカラズ畢竟民事ハ法律ノ確信ニ依テ裁判スルモノナルヲ以テ裁判官ノ確信スル區域ハ甚ダ狹カラザルヲ得ズ然レモ刑事ハ既ニ本條ニ示ス如ケレバ外形上有罪ノ如キ模様アルモ無罪ト判定スルヲ得ベク又無罪ノ如キ事實アルモ此レヲ有罪ト判定スルヲ得ベク兎ニ角確信ヲ用ユルノ程度ハ廣キナリ然ラバ民事ト刑事トハ何故ニ確信ノ區域ニ附テ廣狹ノ差異アルヤ此レ須ラク一言スベキ處ナリ

凡ソ民事ト刑事トハ其訴訟ノ起ル目的同一ナラズ從ツテ判決ノ證據上ニモ差異ヲ生ズルモノナリ抑モ刑事ニ於テハ被告ノ生命身體自由名譽ニ對シテ刑罰權ヲ適用スルニアリ而シテ生命ヤ身體ヤ自由ヤ名譽ヤ天賦ニシテ人々自カラ此レヲ放棄スルヲ得ザルモノナリ然ルニ罪ナキニ罪アリト自白スルノ被告アリテ其生命身體自由名譽ヲ自カラ毀損スルモハ裁判官ハ直チニ之レニ從ヒ犯罪アリト認定シテ可ナシヤ若シ之レアリト信セバ裁判官ハ人ノ自暴自棄ヲ是認スルモノニシテ到底社會刑罰權ヲ完全ニ活用スルモノニアラザルナリ否寧ロ害用スルモノナリト云フベシ加之ナラズ犯罪ノ情狀ニ至ツテハ千萬無量ニシテ此レヲ實地ニ尋求シテ果ヲ把リテ因ヲ探リ假ヲ見テ眞ヲ知リ微ヨリ大ニ入ルニアラザレバ何ゾ罪ノ有無ヲ判スルヲ得ンヤ裁判官ガ判決ノ神機妙算實ニ此點ニアツテ存ス決シテ立法者ガ區々タル畫一ノ法定ノ證ハ未ダ無數ノ罪科ヲ判定スルノ定規トナスニ足ラ

ザルナリ是レヲ以テ刑事ニ付テハ一ニ裁判官ノ心證ニ一認シテ法律上ニモ其證據ヲ定メザルモノナリ之ニ反シ民事ノ目的ハ人々ノ私益ヲ保護スルニアリ一私人ノ利益ハ一私人恣ニ此レヲ處分スルヲ得ルモノナリ故ニ被告ガ自ラ義務アルコトヲ認メタルカ又ハ外形上ノ證據ヲ具スルキハ事實上ニ偽リアリトスルモ己レノ利益ヲ放棄シテ顧ミザルモノナレバ強ヒテ裁判官ガ干涉シテ未ダ義務ナキモノト判決スルニ及バザルベシ故ニ立法者ハ預ジメ其證據ヲ法律上ニ定ムルトモ決シテ不都合ヲ生ゼザルナリ此等ノ理由ニヨリ民事ニ付テハ差異アルコトヲ悟了スベシ

古昔我國ニ於テハ自白ヲ以テ唯一ノ證據トシ白狀ヲケレバ此レヲ罰スルヲ得ザリキ近世徳川時代ニ至ツテハ就中白狀ヲ以テ斷罪ノ基礎トセリ故ヲ以テ其結果トシテ拷問ノ制ヲ生ゼリ拷問ハ實ニ白狀ヲ導クノ要具タレバナリ然レモ今日ヨリ之レヲ見レバ白狀ヲ以テ無上ノ

證據トスルハ甚ダシキ謬見ニ屬スルモノナリ何トナレバ白狀ナルモノハ常ニ眞實ヲ得ルモノト斷ズベカラザレバナリ君主ノ爲メ又主人ノ爲ニ己レ其罪ヲ負ヒ又ハ父ノ罪ヲ子自カラ負フ等ノ爲ニ僞白スルモノアリ又ハ利益上金錢上ニ於テ反對ノ白狀ヲナスコトアリ加之ナラズ拷問ハ至大ノ苦痛ヲ感ゼシムルモノナレバ遂ニ其痛苦ニ堪ヘズシテ常ニ心ニモナキ事柄ヲ作出スルコト夥多ナルベク或ハ剛腹不屈ノ士ニ至テハ終ニ白狀セズシテ瞑スルノ慘狀モアリタリキ蓋シ白狀ハ證據ノ一材料トスルハ可ナルベシト雖モ證據其物トスルハ不可ナリ現行刑事訴訟法ニ於テハ白狀ヲ以テ證據トセズ惣テ裁判官ノ心證上ニ一任セルハ是レガ爲メトス

九十一條ニ依ルニ豫審判事ナルモノハ檢事若クハ被告人ノ請求ニ依リ又職權ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル證據徵憑ヲ集取スベキコトヲ規定セリ仍ツテ請求アリタル場合ハ必ズ之レニ應ゼザルベ



カラザルヤト云フニ判事既ニ十分ナリト信ゼバ必ズシモ應ズル義務ナカルベシ且ツ其收集スル方法ハ有罪ノ證據ノミニ偏スベキモノニアラズ宜シク被告人ノ利益トナルベキ證據モ之レヲ集ムルニ必要トスルナリ(百三條ノ二項參看)格言ニ云ハク人ハ良民視セラルベシト故ニ判事タルモノハ須テ先ヅ被告ニ對シテ罪人タルコトヲ豫斷セズ無罪タルノ證左アルニ於テハコレヲ採用スルハ當然ノ義務ナリ

刑事訴訟法九十一條ヲ見ルニ證據徵憑ナル文字アリ其他ノ條文中罪證事實參考證據確證等種々ノ用語ヲ散見スルヲ以テ爰ニ併セテ其意味ヲ解釋シ讀者ノ參考ニ便セントス

(一) 證據トハ事實ヲ直接ニ證明スル處ノモノヲ云フ假令ハ被告人ノ申立又ハ證人ノ陳述或ハ被告人自筆ノ偽造證書ノ如キヲ云フ

(二) 徵憑トハ事實ヲ推測スル材料トナルベキモノナリ假令ハ大雪ノ夜ニ盜賊忍入りタルニ其跡被告人ノ足跡ト符合セル等又ハ證書偽造ノ

被告事件ニ關シ其證書トシテ呈供セラレタルモノハ正サシク被告人ノ筆跡ニ類似スルノ類ヲ云フ此等ハ敢テ直接ニ犯罪ヲ證明シタリト云フヲ得ズサレモ所謂確信ヲ與ヘル處ノ事物トナルヲ以テコレヲ稱シテ徵憑ト云フナリ

證據ト徵憑トハ裁判官ニ心證ヲ與フルニ付イテ互ヒニ優劣アリ何トナレバ證據不完全ニシテ徵憑完全ナルトハ徵憑ヲ主眼トシテ事實ヲ判定スルヲ得ベク之レニ反シ徵憑薄弱ナルモ證據明確ナルトハ證據ヲ主眼トシテ心證ヲ儘ムルヲ得シハナリ

(三) 罪證トハ七十二條ノ二項ニ於テ見ルトコロナリ蓋シ此語ノ意味ハ證據トカ徵證トカ其等凡テノ罪ヲ證スル主觀的客觀的ノ事物ヲ汎稱シタルノ語ナルベシ

(四) 事實參考トハ假令ハ依託金費消事件ニ關スル被告人アリ然ルニ該被告ハ平素身分ニ相應セザル大金ヲ浪費シタル等ノ事アリタリトセ

是等ヲ稱シテ事實參考ニ供スベキモノト云フ仍之事實參考ハ證據  
及ヒ微憑ニ比スレハ確信ヲ與フル上ニ付テハ其効力元ヨリ薄弱ナリ  
トス

(五) 證據トハ證據ト微憑トノ二者ヲ合併シタル處ニ意義ヲ有スルモノ  
ナリ

(六) 確證トハ三百一條ノ一項ヲ用ヒタル文字ニシテ證據充分ナリト云  
フ意味ヲ簡約シタル語ナルベシ

豫審判事證據ヲ得ル方法ハ先キニ講述セシ如ク家宅ヲ搜查シ或ハ臨  
檢シ或ハ物件差押又ハ被告人證人ヲ訊問スル等種々アルナリ然リト  
雖モ此等ノ手續ハ裁判官ヲシテ單獨ニ爲サシムベキモノニアラズ即  
シ書記ヲ立會ハシムルヲ要ス蓋シ立會ノ法式ヲ要スル理由ハ若シ不  
正ノ裁判官アラシメバ書記ノ立會ナキヲ奇貨トシ被告人ヲ陷害スル  
ノ意思ヲ以テ無罪ノ證據ハ之レヲ擧ゲズモテ唯ダ有罪ノ證據ノミヲ

擧グルガ如キ弊ヲ拒ガンガ爲メナリ(九十二條)然レモ彼ノ現行犯ノ如  
キ急速ヲ要スルルニ際シテハ必シモ書記ノ立會ヲ要スルトセバ爲メ  
ニ時機ヲ失シ將サニ得ラルベキノ證據モ之レヲ失フノ弊アルヲ以テ  
右ノ場合ハ立會人二名ヲ要メテ其處分ヲナスベキナリ又監獄ニ就テ  
被告人ヲ訊問スルルハ獄吏一名ヲ立會シムルヲ以テ足レリトス而シ  
テ何レノ場合ニ於テモ豫審判事書記立會人ハ共ニ署名捺印シテ公正  
ヲ保證スルモノナリ(九十二條二項)

第二章 豫審終結

上來ニ説明セシ數多ノ手續ニ依リ豫審判事ハ凡テノ證據ヲ採集セバ  
爰ニ其事件ニ對スル豫審ヲ結了セザルベカラズ此レ即チ豫審ノ大段  
落ヲ告グル境界ニシテ其結果ハ種々ニ岐分ス  
而シテ豫審ヲ終結スル前ニ當リテハ百六十一條ニヨリ檢事ノ意見ヲ  
聞クヲ必要トス然レモ裁判官ハ徹頭徹尾不羈獨立ノ性質ヲ保有スル

が故ニ必ズシモ検事ノ意見ニ從フヲ要セザルベク又検事モ社會公益ノ保護者タレバ其意見ヲ述ブルニ當リ取調不充分ニシテ適當ノ終結ヲ下スヲ得ズト思料スル時ハ豫審判事ニ再調ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

豫審終結ノ結果ハ左ノ如シ

第一被告事件ガ其管轄ニアラザルコトヲ見認メタル場合 假令ハ犯罪ノ種類被告人ノ身分等ニ關シ其事件管轄違ナルモ之レヲ檢事ニ移スノ言渡ヲナスモノトス(百六十四條)檢事之レヲ受ケテ管轄裁判所ニ送ルナリ而シテ豫審判事ガ此ノ言渡ヲ指シテ決定ト云フナリ何トナレバ豫審判事ナルモノハ罪ノ有無ヲ判別スルニアラズシテ唯ダ其事件ガ管轄ナルヤ否ヤヲ定メルニ過ギザルヲ以テ之レヲ裁判ト稱セズシテ決定ト云ヒシナランカ

爰ニ注意スベキハ豫審判事ガ一先ヅ豫審ノ終了ヲ告ゲタルモハ最早

裁判官ノ手ヲ離レタルモノナルヲ以テ其以前ニ豫審判事ガ發シタル令狀等ハ爰ニ其効ヲ失フヲ以テ直チニ其被告人ハ放還スベキコトナルベシ然レモ一旦放免スルモハ再度逮捕スベカラザルノ困難アルヲ以テ百六十八條ニ於テ規定スル如ク豫審判事ハ其以前ニ發シタル令狀ノ効ヲ存シ又ハ新タニ令狀ヲ發スルコトヲセリ

第二免訴ノ言渡ヲ爲ス場合 則チ百六十五條ニ列記スル所ノ一ヨリ六迄ノ場合是レトス

第一犯罪ノ證據十分ナラザルトキ

第二被告事件罪トナラザルトキ

第三公訴ノ時効ニ罹リタルトキ

第四確定判決ヲ經タルトキ

第五大赦アリタルトキ

第六法律ニ於テ其罪ヲ全免スルトキ

右ノ場合ニ於テ法律ハ豫審判事ニ無罪ノ言渡ヲ爲セヨト命ゼズシテ免訴スベシト定ムルハ他ナシ免訴ト云ヘル文字ハ罪ノ有罪ヲ決定シタルニアラザレバ異日確タル證據ヲ發見セバ更ニ公訴ヲ起サシムルノ法意ナレバナリ

又タ本條ニ列記セザル場合例ヘバ犯罪後法律ニヨリ其刑ヲ廢止シタルト或ハ被告人死去セル等ノトハ豫審判事ハ免訴ノ決定ヲナスベキヤト云フニ然ラズ何トナレバ此場合ニ於テハ豫審ハ當然終結セラレタルモノナレバ決定ノ言渡ヲ爲スベキ要ナキナリ

又一ノ注意ハ本條ニ放免ノ言渡ヲ爲スベシトノ文字アリ此放免ハ公判ニ於ケル放免トハ其意義ヲ異ニスルコト之レナリ即チ公判ノ放免ハ無罪ヨリ來ルノ結果ナレドモ豫審ノ放免ハ只公訴ヲ免マテ通常自由ノ身體ニ復セシムルト云フニアリ故ニ公判ノ放免ノ如ク未ダ以テ純然潔白ナリト云フヲ得ザルナリナレバ豫審ニ於テ免訴ノ言渡ヲ受

カザルモ未ダ充分ニ已レノ潔白ヲ社會ニ示スニ足ラズトセバ更ニ進シテ止訴シ已レノ無罪ヲ證據立ツルコトヲ得ルヤトイフニ現行法ニ於テハ之ヲ許スノ明文ナケレバ詮方ナカルベシト雖若シ之レヲ立法論トシテ觀察スル時ハ其得失果シテ如何ゾヤ讀者須ラク研究シテ可ナラン

第三區裁判所ニ移スノ言渡 百六十六條百六十七條ニ記載スル所トス其百六十六條ハ檢事豫審ヲ要スルモノトシテ送付セルモ其事件違警罪ナリシトシテ又百六十七條ハ裁判所構成法十六條第三項ニ記載スル所ノ輕罪ナリト思料シタルトナリ何レモ區裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス而シテ違警罪事件ニ付若シ被告人拘留ヲ受ケタル場合又百六十七條ノ場合ニシテ拘留ヲ受ケタル事件罰金ノ刑ニ當ル時ハ之ヲ釋放スルモノトス尤本文ニ云フ釋放トハ如何ナル意義ナルヤト云フニ元來違警罪又ハ罰金ノ刑ニ當ルモノハ其性質上拘留スベキモ

トニアラザルコトハ既ニ屢々陳セシ處ナリ果シテ然ラバ右ノ場合ニ於テハ即チ拘留スベカラザルモノヲ拘留シタルヲ以テ一時自由ノ地位ニ釋キ放ツト云フノ意義ニシテ曩キニ陳ベタル免訴ト混同スベカラズ蓋シ免訴ハ豫審判事ガ犯罪ノ證據ナシトテ之ヲ放免スルモノナルヲ以テ先ヅ被告人ハ法律上ノ責ヲ遁レタリト言フモ可ナリ然レモ釋放ナルモノハ決シテ法律上ノ責ヲ免レタリト言フベカラズ唯ダ拘禁ヲ免スト云フノ意ニ過ギザレバナリ

第四公判ニ移スノ言渡 百六十七條及ヒ百六十八條ニ規定スル所ナリ而シテ其百六十七條ハ輕罪ノ公判ニ付スル場合ニシテ其百六十八條ハ重罪公判ニ移スノ場合ナリ而シテ輕罪公判ニ移スルト重罪公判ニ移ス時トハ餘程其趣キヲ異ニシ輕罪ナレバ引續ヒテ保釋又ハ責付ヲ許スコトモ得ベク又被告人未ダ拘留ヲ受ケザルルハ合狀ヲ發スルコトモ得ルナリ乃チ百六十七條ヲ見ルニ發スルコトヲ得ト記セリ凡

テ律文ニ於テ得ト云ヘル文字ハ確然命令シタルニアラズ其爲スト爲サルトト當局者ノ意ニ一任スルノ意ナリ故ニ本條ニ於テハ豫審判事ハ合狀ヲ發スルコトハ隨意ナリ反之重罪ノ場合ハ必ず發セザルベカラズ百六十八條ニモ發スベシト云フ命令的數字ヲ用ヒタルガ故ナリ仍之被告人ニ對シ保釋責付ヲ許シタルルハ其言渡ヲ取消サ、ルベカラズ蓋重罪事件ハ害惡ノ著大ナルモノナルヲ以テ若シ保釋責付ヲ許シ逃走セシムル等ノ事アリテハ危害ヲ感ズル最モ甚シクレバナリ以上ノ陳述ヲ以テ豫審終結ノ結果ハ四箇ニ分レタルコトヲ了得セリ而シテ此四個ノ處分チナスニ付テモ亦タ之レニ對スルノ理由ナカルベカラズ凡ソ裁判ノ事須臾モ理由ト分離スルベカラザルハ勿論ナレバナリ故ニ刑事訴訟法百六十九條ニ豫審終結ノ決定ニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ付スベシト規定セル所以ナリ而シテ其理由ノ記載方モ或ハ管轄違ノ場合或ハ免訴ノ場合又ハ區裁判所ニ移ス場合ト公

判ニ移ス場合トニヨリ多少差異ナキヲ得ズト雖法文ナク一讀シタラシ  
ニハ明瞭ナルヲ以テ之ヲ贅セズ  
豫審終結ノ決定ハ速カニ檢事及被告人ニ送達スルモノナリ(百七十一  
條)何トナレバ豫審終結ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲シ得ル權利アリ然  
ルニ其決定ノ日時ヲ知ルコト遅キ時ハ不知不識抗告ノ期間ヲ空過シ  
其權利ヲ失フコトノ恐レアルヲ以テトス

尙一箇ノ注意スベキハ豫審終結ノ決定ガ重罪公判ニ付スルノ場合ナ  
ルハ決定文ニ抗告ヲ爲シ得ル事及ビ其期限ヲ記載スベキナリ蓋シ  
重罪ハ鄭重ニ鄭重ヲ加フルノ精神ニ過ギザルベシ而シテ此決定ニ對  
シテ抗告ヲ爲スルハ直チニ其執行ヲ停止スルナリ(百七十四條)何故ニ  
其執行ヲ停止スルカノ理由ハ讀者宜シク抗告ノ部ニ就テ研究セヨ  
百七十五條ヲ見ルニ豫審ニ於テ免訴ノ言渡ヲ受ケ其言渡確定シタル  
ハ假令罪名ヲ變更スルモ同一ノ事件ニ付再ビ訴ヲ受クルコトナキ

旨ヲ規定セリ抑モ確定判決ナルモノハ其効果トシテ再理スルヲ許サ  
ルコトハ既ニ前ニ述ベタル如クナレバ殊更ニ本條ヲ設ケタルハ一  
見無用ノ長文ナルガ如シ乍併退ヒテ之ヲ考フレバ本條ヲ設ケタル理  
由ヲ發見スル難キニアラズ抑モ確定判決ノ効果トシテ再理セザル理  
由ハ本案ノ裁判ニ就テ下シタルモノナリ然ルニ豫審ノ決定ナルモノ  
ハ本案ノ裁判トハ異ナレバ之ニ對シテ確定判決ノ効力アリヤ否ヤニ  
付テハ聊カ疑ナキヲ得ズ是ヲ以テ豫審ノ決定ニ付テモ同シク確定判  
決ノ効力ヲ及ボスベキコトヲ明示シタルニ過ギザルナリ  
乍併本條ノ但書ヲ見ルニ一ノ例外アリ即チ新ナル證據アリタルハ  
再理スルコト是レナリ但シ此場合ニ於テハ直ニ公訴ヲ起スヲ得ズ先  
ヅ新ナル證據ヲ裁判所ニ差出シ裁判所ハ其起訴ヲ許シタル上ナラデ  
ハ公訴ヲ起スヲ得ザルナリ蓋シ此ノ如キ場合ハ豫審ニ於テ一度免訴  
ノ言渡シヲ爲シナガラ其確定判決ノ効ヲ顛覆セシムルモノナレバ事

最も非常ニ屬セリサレバ檢事ノミニ一任セズシテ丁寧ニ其裁判所ヲシテ審査セシムル所以ナリ

以上ノ講述ニヨリ豫審規則ノ大略ヲ説了シ只余ストコロハ現行犯豫審ニ關スル規定アルノミ然レドモコハコレ第三編現行犯ノ部ニ於テ概説セルヲ以テ本編ニ於テハ解セザルベシ讀者之レヲ諒セヨ

第五編 公判

既ニ前編ニ於テ順ニ從ヒ序ヲ追ヒ予ハ豫審規則ノ全部ヲ終了セリ是ヨリ裁判所ハ何如ナル手續キニ進ムベキカ曰ハク豫審ハ犯罪ノ證據十分ナリヤヲ認定スルノ下吟味タリ下吟味ヲ終レバ初メテ犯罪ノ有無ヲ決スル處ノ本吟味ニ移ラザルベカラズ本吟味トハ抑何ツヤ公判コレナリ是レ立法者ハ刑事訴訟法第四編ニ規定セルモノニシテ予ガ順次述ベントスルトコロノモノナリ

公判トハ裁判所ノ法廷ニ於テ行フ所ノ裁判手續キヲ云フ而シテ公判

ハ犯罪ノ有無ヲ決定スル所ニシテ被告人ニ取リテハ權利名譽ノ上ニ非常ノ關係ヲ有スル限界ナリ

而シテ公判ニ付テモ第一着ニ事件ヲ受理シ次ニ審理シ次ニ判決スルノ手續ナリト雖此レヲ區別シテ解スル時ハ左ノ緊要ナル八箇ノ規則トナル請フ之ヲ述ベン

第一 訴權ノ提起アリタルコト

格言ニ曰ク告ゲザレバ理セズト蓋シ此ノ格言ヲ適用セシモノナリ抑モ裁判所ハ訴ヲ起スモノナキニ自ラ是レヲ裁判スルコト能ハズ則チ第百八十四條ニ此ノ原則ヲ明示セル所以トス然レモ此レニ例外アリ則チ附帶犯罪ハ別ニ訴ヲ受ケザルモ裁判官ハ判決スルコトヲ得ルナリ而シテ其附帶犯ノ何物タルハ刑法ニ讓リ是ヲ贅セズ

第二 公判裁判所ハ合議制ニ組織セラル、コト

裁判所構成法ニ依ルルハ地方裁判所ニハ三名控訴院ニ於テハ五名大

審院ニ於テハ七名ノ判事合議シ判決ス乃チ此定數ノ判事列席スルニ  
アラザレバ公判ヲ開クコト能ハズ乍併區裁判所ニ於テハ一名ナリ此  
レ則チ合議制ノ例外ト知ルベシ今例チ地方裁判所ニ假リテ少シク論  
ゼンニ始メ審問ノトキニ三人ノ判事列席シタルモ其後病氣等ノ爲メ  
判事缺席シテ一人若クハ二人ニテ判決言渡チタルモ其言渡ハ  
無効ナリヤ否ヤト云フニ必ず無効ナリトス凡テ判事ノ數ハ少ナキニ  
過グルトキハ勿論多キニ過グルトキト雖モ適法ニ組織セラレタルニ  
非ザレバ常ニ無効ニシテ即チ二百六十九條ニ依リ上告ノ理由トナル  
モノナリ

裁判官ノ數ニ制限アルコト此ノ如シ而シテ尙爰ニ其裁判ヲシテ有効  
ナラシムルニハ檢事及書記ノ立會アルヲ要ス  
然ルニ判事ハ始終其人ノ代ルコトヲ許サズ若シ代ルモハ從前ノ取調  
等ハ總テ無効トナルナリ檢事ハ之レニ反シ其一事件ノ落着スル迄必

ズシモ同一ノ人ニアラザルモ妨ナシ其理由タル他ナシ判事ハ實際ニ  
付テ其有無罪ヲ判別スルモノナルヲ以テ中途ニシテ其人ヲ代ユルニ  
於テハ時ニ或ハ眞實ノ罪情ヲ穿ツ能ハザルニ至ラン而ルニ檢事ハ之  
レニ異ナリ上檢事總長ヨリ下區裁判所ノ檢事ニ至ルマデ階級的ノ系  
統ヲ爲シ一體トナリテ職務ヲ取ルモノナルガ故ニ其人ヲ代フルモ可  
ナレバナリ又書記ニ付テ一言センニ書記ノ缺席モ亦判事ト同シク裁  
判無効ノ原因トナル何トナレバ書記ハ裁判官ノ取調其他ノ模様等ヲ  
直記スルモノナレバ亦列席ノ必要アル明カナリ  
而シテ合議制ハ如何ニシテ之レヲ決スルガト云フニ矢張通常會議法ノ  
原則タル過半數ヲ以テ之レヲ決ス即チ地方裁判所ニ就テ云ハハ二名  
以上ヲ意見ニヨリテ之レヲ判決スルナリ若シ夫レ三名ノ判事各意見  
ヲ異ニスルモハ如何スベキヤ裁判所構成法百二十三條以下ニ規定セ  
ルヲ以テ又此レヲ贊セザルベシ



第三 公判ハ對審ナルコトヲ要ス

對審トハ檢事被告人トモコ出席シテ而シテ裁判官取調ヲ爲スナク云フ而シテ何故ニ對審ヲ要スル歟ト云ハ、原告被告ガ最モ貴重ナル權利ヲ辯護スルニ最モ必要ナレバナリ若シ夫レ被告人ニ一言半句モ辯護ノ自由ヲ與ヘズ又檢事ニ對シテモ社會ノ爲ニ辯護ノ自由ヲ與ヘザレバ專斷獄ヲ決スルモノニアラズシテ何ツ對審ノ必要ナル所以ナリ然ラバ徹頭徹尾對審スルニアラザレバ公判ヲ開廷セザルカト云フニ檢事ハ如何ナル場合ニ於テモ缺席スルコトナシ又若シ缺席スルモハ裁判ヲ開クコト能ハザルモノナレバ犯跡顯著ニシテ疑ヲ容レザルモハ被告人ハ必ズシモ出席ヲ要セザルナリ之レニ仍ツテ缺席シタル場合ニハ概テ不利益ナル缺席裁判ヲ受クト雖モ被告人ノ自得ノ結果ト云フノ外ナケン況ンヤ被告人出廷ヲ以テ是非トモ不可缺ノ要件トセバ犯跡顯著ナルモ裁判所ハ裁判ヲ爲スコト能ハザルノ不利ヲ醸セバナ

リ(第七百七十六條參看)

第四 口頭ヲ以テ取調ブルコト

コレ豫審ノ審理法ト差異アルトコロトス則ハテ豫審ニ於テハ絶ヘテ辯論ナク尋問ノミナレバ其模様ヲ一々書面ニ記載シテ保存スト雖モ公判ハ口頭ニテ推問糾彈シ別ニ書類トシテ保存セズ約シテ云ヘバ豫審ハ調書ヲ作ルモ公判ニ於テハ作ラザルナリ但シ公判廷ニ立會フ書記ハ公判始末書ナルモノヲ作ルモ豫審ノ如ク一切ノ事ヲ詳記スルモノニアラズ

第五 公判ノ對審及ビ判決ハ公開ナルコトヲ要ス

此原則ハ實ニ憲法上ノ明文ヨリ出ツ今此ノ所以ヲ釋スルニ抑モ裁判ハ公明正大ナラザルベカラズ彼レ裁判官タルモノ一己ノ私情ニ誘ハレ或ハ偏頗ノ意見ヲ以テ法ヲ枉ケ律ヲ舞ハスコトアリトセンカ事公私兩益ヲ害ス故ニ裁判ノ公明正大ナルコトヲ欲シ又公明正大ナルコ

トチ世人ニ知ラシメント欲セバ公開手段ヲ以テ最モ必用トス而シテ此ノ公開ニ於テ原被告兩造能ク己レノ辯護權ヲ行使シ毫モ憾ミナキニ至テ始メテ眞箇ノ裁判ト云ツベシ併シナガラ此ノ原則ニハ二個ノ例外アリ

第一、國事犯或ハ外國政府ニ牽連スル事件ハ國家治安ノ繫ル大ナリ仍之其裁判ハ之レヲ公開セズ秘行スルハ政略上止ムヲ得ザルナリ

第二、猥褻姦淫ノ罪ノ如キハ世ノ風俗ヲ害スルヲ以テ又之レヲ公開セズ

此等ハ裁判所構成法ノ百五條乃至百七條ニ其規定アリ然レドモ爰ニ注意ヲ要スルハ公開セズト云フハ只罪ノ審理取調ヲ公開セザルノ謂ニシテ判決ノ言渡即チ宣告ハ必ズ公開ニ於テセザルベカラズ故ニ如何ナル事情ノ其間ニ介入スルモ若シ此ノ言渡ヲ公行セザレバ其裁判

ノ公平無私ナルコトノ擔保ナケレバナリ

第六 判決ノ理由ヲ詳カニスルコト

凡ソ判決トハ如何ナルモノナルヤト云フニ判決ナルモノハ裁判所カ認定シ其事件ニ付決定ヲ與タルモノナリ而シテ裁判言渡ト云フモ判決ト云フモ其意味ニ至テハ秋毫モ異ナル處ナシ唯其名稱ヲ異ニスルノミナルコトヲ記臆スベシ今其判決ノ種類ヲ學問上區別スレバ種々アリ以下ニ之レヲ述フベシ

(甲) 本案判決、附帶判決

本案ノ判決トハ事件其物ニ付テ與ヘタルモノニシテ苟モ此判決アレバ終局スルヲ以テ事件ハ裁判所ノ手ヨリ脱却ス  
附帶ノ判決ナルモノハ本案事件ニ關係シ若クハ附帶シテ生シタル事件ニ與フル所ノモノニシテ今其種類ヲ考フルハ左ノ如シ

(一) 假判ノ場合 假令ハ被告人ノ請求ニヨリ保釋責付ヲ許スノ判

決ノ如シ

(二)豫判ノ場合 假令ハ猥褻姦淫ノ罪ニ付被害者ヨリ告訴シタリトセバ此場合ニ於テ若シ加害者顯ハレテ曰ク告訴セシモノハ則チ余ノ妻ナリト主張セバ須ラク先ツ被告事件ヲ判決スルノ前ニ於テ眞ノ妻ナリシヤ否ヤヲ判決セザル可ラズ此レ等モ又附帶判決ノ一ニ屬ス

(三)忌避若クハ回避ノ申請ニ付テノ判決 此等ノ判決タル本案事件アツテ始メテ生ズル判決ナルガ故ニ附帶判決ノ一ニ屬ス

(乙)一審判決、二審判決

一審ノ判決トハ控訴ヲ爲シ得ル裁判ヲ云ヒ二審ノ判決トハ控訴スルコトヲ許サレズシテ上告スルコトヲ得ル判決ヲ云フ故ニ其場合ヲ例セバ左ノ如シ

區裁判所ニ於テハ違警罪トカ或ハ裁判所構成法第十六條一項二項三

項ニ示ス如キ場合ニハ第一審ノ裁判ヲ與フルヲ以テ之レヲ地方裁判所ニ控訴スルコトヲ得ルノミニシテ直チニ上告スルコトヲ許サズ又控訴院ノ裁判ハ第二審ノ判決ナルヲ以テ唯ダ上告スルコトヲ得ルノミニシテ決シテ控訴スルヲ得ズ

(丙)對席判決、缺席判決

對席判決トハ被告本人若クハ其代人出廷シ辯論シテ以テ判決ヲ與ヘタル場合ヲ云フ

缺席判決トハ被告人自カラ出廷セズ又代人ヲモ出廷セシメズ或ハ呼出狀ヲ發シテ之レヲ召喚シ或ハ豫審終結ノ言渡書ヲ送達シ若クハ第二百二十七條二項ノ手續ヲ爲スト雖モ尙ホ被告人出廷セザルハ裁判所ハ被告人不在ト雖モ法式ニ從ヒ必ズ判決スル場合ヲ云フ此レヲ區別スルノ利益ヲ舉グレバ左ノ如シ

(一)對席判決ニ對シテ控訴ヲ許ズモ故障ノ申立ヲ許サズ然シテ缺席判

決ニ對シテハ控訴故障トモニ起ヌコトヲ得

(二) 對席判決ニ對スル上訴ノ期限ハ其判決ノ言渡アリタル時ノ日ヨリ起算シ缺席判決ニ對シテノ上訴期限ハ其判決アリタル日ヨリ本人ガ知リタル日又ハ本人ノ住所等ニ裁判言渡書ノ到達シタル日ヨリ起算スルモノナリ

(三) 對席判決ハ必ズ其判決書ヲ送達スルコトナシ然レハ缺席判決ハ訴訟關係人ノ申立ニ依リ缺席者ニ對シ判決書ヲ送達スルコトアリ今何故ニ此ノ如キ區別ヲ爲スヤト云フニ對席判決ノ場合ニ於テハ雙方トモニ判決ヲ熟知セルヲ以テ更メテ判決書ヲ送達スルノ必要ナシ然レハ缺席裁判ノ場合ハ之ヲ知ラシムルノ必要アルヲ以テ第二百二十八條ヲ以テ此事ヲ規定セリ

(四) 對席判決ニ依リテ刑ヲ受ケタル場合ト缺席判決ニ對スル場合ハ時効ノ起算點ヲ異ニセリ

判決ノ種類ハ以上ニ列スル如シ而シテ有効完全ナル判決ヲラントセバ其理由ヲ明カニセザルベカラズ彼ノ上告裁判所ニ於テ原裁判所ガ破毀セラル、ハ多クハ理由ノ充分ナラザルニ職由スルナリ元來信賞必罰ハ社會ノヨツテ維持スルトヨロ罪センカ確乎タル理由存セザルヲ得ズ免ゼンカ正當ノ理由存セザルヲ得ズ若夫曖昧摸稜以テ罪ヲ治ルノ手段ハ野蠻專制時代ノ事ノミ理由ヲ明白ニスベキ何ソ嘖々スルヲ要センヤ(第二百三條參看)而シテ其理由トハ裁判所ニ於テ被告ニハ斯々ノ事實アリ故ニ刑法上如何ナル責任アルコト等ヲ認定シタルモノナリ今其理由ヲ區別スレバ

第一 事實上ノ理由

假令バ被告ハ何々ノ詐計ヲ以テ物件ヲ騙取セルト云フ如ク確實ナル憑據ニヨツテ其罪質罪狀ヲ明掲スルニアリ

第二 法律上ノ理由

即チ前例ノ所爲ニ之レテ刑法ニ照シ第三百九十條ニ該當スルト云フ如ク其條文ヲ擧ゲテ刑スルトコロノ根基ヲ明白ニスルニアリ而シテ裁判言渡書ニハ先ヅ事實上ノ理由ヲ擧ゲ法律上ノ理由ニ及ブテ順序トス蓋シ裁判官が被告人ニ對シ刑ヲ言渡ス所以ノモノハ罪ヲ構成スルノ事實アレバナリ其事實アルガ故ニ法律ヲ適用スルニアレバナリサレドモ右二種ノ理由ハ有罪ノ宣告ニノミ對シテ附スベキモノトスベカラズ彼ノ宥恕ニ依リテ免訴スル場合或ハ無罪ノ言渡ヲナス場合モ明示セザルベカラズ(二百三條)

第七 判決書ハ裁判官自ラ之ヲ作ラザルベカラズ

今其判決書ニハ如何ナル事項ヲ記載スルカ二百八條ニ記セリ則チ左ノ如シ

第一被告人ノ身分職業年齢住所氏名或ル場合ニ於テハ其容貌體格等モ亦タ記スルコトアリ

第二犯罪ノ事實又々宥恕減輕等ノ理由アレバ其事實

第三法律ノ適用則チ刑法何條ニ該當スルト云フガ如シ

第四刑名刑期ノ明示

第五判事檢事書記ノ官氏名

第六年月日

第七歛席對席ノ區別

第八故障又ハ控訴ヲ爲シ得ルコト并ニ其期間

第九一切ノ訴訟手續

第八 私訴ハ公訴ト同時ニ判決スベキコト

元來公訴ト云ヒ私訴ト云ヒ齊シク同一ノ事件ニ生ジタルモノナレバ同時ニ判決スルヲ以テ原則トス何トナレバ箇々別々ニ判決スルコトハセバ勢ヒ同一事件ヲ再三トナク取調ベザルベカラズコレ殊更ラ繁雜ヲ増スモノニアラズヤ然レドモ彼ノ私訴ナルモノハ計算上等ノコ

トニ關シ取調上極メテ手敷ヲ要スル等ノコトナシトセズカ、ル場合ニ於テハ一概ニ原則ニ拘泥スルルハ被告人ハ長ク未決ニ拘禁セラル、ノ不幸ヲ見シ故ニ若シ私訴ニ付取調十分ナラザルルハ公判ノ判決ヲ下シタル後其判決ヲ下シ得ルコト、セリ之レ二百條ニ定ムルトコロトス

而シテ判決辯論等ノ順序ハ公訴ノ了リタル後私訴ニ移ルハ當然トス但シ其順序ハ右解釋ノ通りナレドモ本來公私兩訴ハ各々獨立獨行セ、ルモノナルカ故ニ判決ヲ下シタル成績ハ時トシテハ公訴ノニ成立スルコトアルベク又私訴ノニ成立スルコトアルベシ換言スレバ裁判所ハ一面ハ被告ヲ勝トシ他ハ原告ヲ勝トスル如キ場合アルベシ以上ノ規則ハ公判ノ通則中就中必要ノモノトス而シテ判決書出來セバ裁判官ハ最終ノ所爲トシテ判決ヲ言渡ザ、ルベカラズ尤モ判決ノ言渡ハ辯論ノ終リタルル即時ニ之ヲ爲スコトモアリ又ハ次ノ開廷日

ニ爲スコトモアリ而シテ此辯論ニモ二種アリ其一ヲ事實ノ辯論トシ他ノ一ヲ法律上ノ辯論トス其順序モ亦事實ノ辯論ヲ先ニシ法律上ノ辯論ヲ後ニス蓋シ事實アリテ始メテ法律アルコト前ニ一言シタルガ如ケレバナリ

但シ判決書ト公判始末書トハ別物ニシテ決シテ之ヲ同一視スベカラズ判決書トハ裁判其物ヲ宣告スル文書ニシテ言渡ノ際朗讀スルモノナレトモ公判始末書ナルモハ公判廷ニテ履行シタル諸般ノ裁判手續ヲ記載スルモノニシテ判決言渡アリタルヨリ三日内ニ之ヲ整頓シ判事書記署名捺印ス而シテ其効用ハ他日上訴ノルニ當リ有力ナル證據トナルベシ

以上講シ來リタル箇條ハ何レノ裁所判ト雖遵奉スベキ總則トス進メテ各裁判所ノ取扱ニ付講述セン

第一章 區裁判所

區裁判所ハ如何ナル事件ヲ受理スルヤト云フニ二百十二條ニ掲ケル如ク違警罪及ビ裁判所構成法第十六條第二項第三項ノ輕罪事件ヲ受理ス概シテ輕微ナル事件トス而シテ如何ナル時ニ於テ受理スル歟ト云フニ即チ檢事ノ起訴又ハ豫審判事或ハ上級裁判所ノ檢事ヨリ事件ヲ移シタル場合ナリ

元來裁判所ガ判決ヲ下ス點ヨリ云フキハ數千萬圓ノ事件モ却ツテ一厘錢ノ争ヨリ容易ナルモノアリ些微タル違警罪却テ重罪ヲ斷ズルヨリ煩難ナルモノアラシ故ニ裁判ノ管轄ハ判決ノ難易ヲ以テ區別セシニアラズ唯其事件ノ大小輕重ヨリ割出シタルニ過ギザルナリ

區裁判所ハ公訴ヲ受理シタル以上ハ如何ナル手續ヲナスヤト云フニ審理ノ第一着手トシテ被告人ヲ呼出スモノトス且ツ其呼出狀ニハ氏名職業住所出頭ノ時日場所及ビ被告事件ヲ記載シ或ハ代人ヲ出頭セシメテ差支ナキキハ其事ヲモ記入スベシ又々第二百五條ニ依レバ假

令呼出狀ヲ發スルモ書狀到達ヨリ出頭ノ日時マデニハ少ナクトモ二日ノ猶豫ナカレベカラズ此レ他ナシ被告人ノ職業ヲ害セザルト又答辯ノ用意ヲナサシムル爲メナリ蓋シ吾人ガ最モ貴重ナル所ハ名譽ト身體ニアリ今裁判所ヨリ呼出ヲ受クルトセバ此ノ貴重ナル名譽身體ノ上ニ非常ナル迫害ヲ有シ若シ一言ヲ誤レバ名狀スベカラザル苦域ニ呻吟スルニ至ルヤ知ルベカラズ之レヲ防禦スルニハ唯ダ辯護權ヲ充分ニ使用スルニアルノミ辯護權ヲ充分伸張セシニハ須ラク此レニ相當スル用意ヲ爲スダケノ期間ノ猶豫ヲ與ヘザルベカラズ法律ガ人權ヲ保護スル實ニ周到ナルヲ見ルベシ但シ證人ノ呼出ハ二百十七條ニ示ス如ク呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫ヲ與フ元來證人ハ己レニ利害痛痒ヲ感ゼズ只見聞視聽ノ儘ヲ陳述スレハ可ナルニヨリ被告人ニ與フル如キ長時間ヲ與フルノ必要ナケレバナリ

而シテ其呼出ニ應ジテ被告人出頭セシトハ審理ノ順序ハ爰ニ始メテ訊問ヲ始ム尤モ判事カ被告事件ヲ訊問スルノ前ニ於テ檢事ハ被告事件ノ要領ヲ論告セザルベカラズ然ル後チニ被告人其他ノ關係人ニ及ブモノトス判事訊問ノ第一着ハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ヲ問フベシ(二百十八條)又二百十九條ニ曰ク自白ノ場合ニ於テ檢事又ハ民事原告人ノ異議ナキトハ他ノ證據ヲ取調ブルノ必要ナシ然レモ地方裁判所判ニ係ル事件ニ付テハ假令被告人自白スルモ決シテ之レニノミ據リテ判決スル能ハズ必ズ他ノ確實ナル證據ヲ取調ベサルベカラズ蓋シ被告人ノ自白モ往々虛アリテ信ヲ措クニ足ラズ故ニ地方裁判所管轄ノ事件ノ如ク重大ニシテ其利害ノ及ブ所淺小ナラザルニ於テハ須ラク之ヲ慎重ニセザルベカラズ之ニ反シテ區裁判所ノ事件ハ輕微ナルガ故ニ斯ク迄慎重ニセザルモ左迄人民ノ權利ヲ殘傷スルノ恐レナケレバナリ

證據ノ取調終了セバ檢事被告人及ビ辯護人ハ事實及法律ノ適用ニ付辯論ス而シテ事實ノ辯論畢リ法律上ノ辯論モ又終結シタルトキハ爰ニ始メテ判決スルノ場合ニ到着シタルモノニシテ之レヲ言渡セバ爰ニ其事件ハ裁判所ヨリ脫離ス但シ私訴ノ附帶セル場合ハ公訴ノ辯論終リタル後チニ其請求ヲ陳述スルモノトス既ニ判決スルノ場合ニ到着シ若シ其事件カ區裁判所ノ管轄ニ屬セザルモノト思料スルトキハ之ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲナシ又拘留スルノ必用アラバ令狀ヲ發スルコトヲ得ルナリ

## 第二章 地方裁判所

夫レ地方裁判所ノ性質ハ時トシテハ區裁判所ノ控訴ヲ受クルコトアルヲ以テ第二審裁判所タルコトアレモ本然ノ資格ト云フベカラズ則チ本然ノ性質ハ合議制タル第一審裁判所ナリ抑地方裁判所ノ公判ノ手續タルヤ區裁判所ト比スルトキハ少シク異



ナル所アリ即チ第二百十五條以下ノ六箇條ヲ以テ之ヲ規定セリトス  
 蓋シ區裁判所ト地方裁判所トハ公判ノ手續大同小異ニシテ大概區裁  
 判所ノ通りヲ採用シ只其異ナル點ノミヲ右六ヶ條ニ規定シタルニ過  
 キザルナリ蓋シ凡百ノ罪質中地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノヲ以テ  
 重キトス就中重罪ノ如キ最極ノ死刑ヲ加フルモノアリ故ニ地方裁判  
 所ノ手續ハ區裁判所ニ比シテ特殊ナルベキハ當然ナリ讀者乞フ以下  
 ノ講述ニ徴セヨ

第二百三十七條ヲ看ルニ重罪事件ニ對シテハ判事書記ヲ立會ハシメ  
 公判開廷前ニ先ツ被告人ニ對シ事實ノ顛末ト又タ辯護人ヲ撰定セマ  
 ヤ否ヤヲ豫問スルモノトス而シテ此豫問ノ手續タルヤ重罪事件ニ限  
 ルモノニシテ輕罪以下ニ付テハ決シテコレヲ要セズ而シテ判事重罪  
 事件ニ付キ右二箇ノ訊問ヲ爲サ、ルトキハ此レ則チ違法ノ裁判ニシ  
 テ上告破毀ノ原因トナルモノナリ

抑本條ノ規定ハ重罪事件ニ對シテハ最モ慎重ヲ要セシムル主意ニシ  
 テ被告事件ノ要領ヲ豫メ判事ヲシテ密按セシムルノ法意ナルノミナ  
 ラズ其辯護人ヲ撰定セシムルヲ以テ主タル目的ナリトス故ニ若シ被  
 告人ニ於テ未ダ辯護人ヲ撰定セザル旨ヲ申立ツルハ裁判長ハ職權  
 ナ以テ其裁判管轄内ノ辯護士ニ其辯護ヲ命ズルモノトス且ツ命ヲ受  
 ケタル辯護士ハ之レヲ厭ムノ權利ナキモノトス之レ則チ職業上ノ義  
 務トヤ云ハシ其辯護士ハ被告人一人ニ付一人タルヲ要セズ時宜ニユ  
 リテハ數人ヲ撰ブコトヲ得ベク又之レニ反シテハ數人ノ被告人ニ對  
 シテ一人ヲ撰ブコトモ得ベシ又裁判所ノ許可ヲ得レバ辯護士ニアラ  
 ザル者ト雖モ撰定スルコトヲ得ベシ然シテ辯護士ナルモノハ國民權  
 利ノ代表者ナレバ至高至潔ノ精神ヲ以テ飽迄被告人ノ利益ヲ保護セ  
 ザルベカラズト雖モ黃白異同強テ不正ヲ辯護スルノ義務ナキヤ必セ  
 リ故ニ如此場合ニ遭遇セバ刑期ノ範圍罰金ノ多寡情狀ノ酌量等ニ就

キテ其程度ヲ辯護スベキナリ  
二百十六條ニヨレバ區裁判所ノ公判ニ於テハ豫審ヲ經ザル處ノ被告  
事件ニシテ急速ヲ要スルトキニ限り公判ニ着手スル前ニ判事ニ於テ  
檢證處分ヲ爲スノ規定アリ併シナガラ地方裁判所ニ於テハ事實發見  
ノ爲メ重要ナリトスルトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ依リ又ハ  
職權ヲ以テ判事ヲシテ公判開廷ノ前ナルト又タ其既ニ開廷中ナルト  
ヲ問ハズ臨檢ノ處分ヲナシ報告セシムルコトヲ得ルナリ又區裁判所  
ニ於テハ被告本人ノ自白アリタルトキハ直チニ此レニ據ツテ判決スル  
コトヲ得ルモ地方裁判所ニ於テハ假令自白アルモ尙進ンデ其證據ヲ  
搜索收取セザルベカラズ熟々考フルニ凡ソ被告人ニ於テ自白セシ以  
上ハ最早證據ヲ調フルノ必要ナキガ如シ然レドモ動モスレバ狎邪不  
正ノ徒ハ巧ニ不實ノ自白ヲナシ減刑ヲ受ケント企ツルコトナキヲ保  
セズ單ニ自白ニノミ拘泥スルトキハ或ハ云フベカラザルノ弊アラフ

是ニ於テ立法者ハ此點ヲ斟酌シ區裁判所所屬事件ハ輕微ナルヲ以テ  
自白ヲ以テ判決ノ證據トスルコトヲ得ルモ他ハ之ニ依頼スルコトヲ  
得ザルコトハナセルナリ  
又二百四十條ヲ看ルニ被告事件ガ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト見  
認メタルトキハ地方裁判所ハ之ヲ區裁判所ニ移スベキヤ曰ハク否然  
ラバ之ヲ移サズシテ直チニ第二審ノ判決ヲナスベキヤ曰ハク否此場  
合ニハ一審ノ判決ヲナスベキコトヲ規定セリ此規定ハ被告人ニトツ  
テハ最モ利益アリ何トナレバ區裁判所ナレバ合議制ニアラザレバ單  
獨判事ノ意見ニヨリ裁判セラルベシ然ルニ地方裁判所ニテ判決セラ  
ル、ガ故ニ三名ノ判事審議討論以テ適度ノ裁判ヲ受クルノ望ミアレ  
バナリ且ツ被告人ハ覆審ヲ求ムルノ權ヲ失ハザルガ故ニコレニテモ  
猶不満足ナレバ之レガ再調ヲ請求スル途アリ  
之レニ反シ始メ輕罪ナリトナシテ地方裁判所ニ起訴シタル後ニ於テ

檢事ハ其事件ノ重罪ナル旨ヲ以テ追訴セルモハ如何此場合ニ於テハ若シ其事件未ダ豫審ヲ經ザルトキハ之レヲ豫審ニ付セシメ又既ニ豫審ヲ經タルトキハ更ラニ主任判事ヲ命ジ其豫審ノ結果ヲ報セシメヨレニ依リテ判決ヲ與フベキモノナリ

第三章 控訴院

控訴院ハ地方裁判所ニ對スル上級ノ裁判所ナリサレモ此控訴院ナル語中ニ地方裁判所ガ區裁判所ニ對シ第二審ノ判決ヲ爲ス場合モ亦包含スルコトヲ記慮セザルベカラズ控訴院ハ如何ナル性質ヲ有スルヤト云フニ

(甲) 合議裁判所ニシテ五名ノ判事ヲ以テ組織セラレタルモノ

(乙) 第二審ノ裁判所トス

(丙) 區裁判所ノ判決ニ付テハ大審院ノ職務ヲ行フモノトス

則チ區裁判所ヨリ地方裁判所ヲ見ルトキハ控訴院ナリ控訴院ヲ見レ

ハ大審院トナルナリ

控訴院ノ管轄權限ハ如何 裁判所構成法三十七條ニ規定セリ

第一地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付キ爲シタル地方裁判所ノ

判決ニ對スル上告

第三地方裁判所ノ決定及ビ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

今第二項ヲ看ルニ控訴院ハ大審院ノ位置ニ在ルガ如シ抑モ大審院ナルモノハ法律ノ統一ヲ計ルモノナリ然ルニ控訴院ニシテ若シ夫レ大審院ノ如キ職權ヲ有スルトキハ取リモ直サズ全國七個ノ控訴院ハ悉ク大審院ナルヲ以テ到底法律ノ統一ヲ期スルコト得テ望ムベカラズ顧ミテ舊治罪法ヲ見ルニ控訴院ガ大審院ノ權限ヲ有スル事ナカリシ然ルニ現行法ニ依ルモハ全ク是レニ反對ノ規定ナルヲ以テ新舊ノ二法何レカ是ナルヤ非ナルヤノ研究ハ必要ナレモ予ハ是ヲ大審院ノ部

ニ讓ルベシ兎ニ角控訴ナルモノハ本案ノ判決ナルト附帶判決ナルト  
 ナ問ハズ何レノ場合ニ於テモ其一級上等ナル裁判所ニ於テ是ヲ受理  
 スルヲ以テ正則トス故ニ他ノ同等ナル裁判所ガ控訴ヲ受理スルノ權  
 ナキ昭々タリ何ントナレバ控訴ナルモノハ原裁判所ノ判決ニ對シ不  
 充分ナリ又ハ不服ナリトシテ抗撃スルモノナルヲ以テ一層上等ノ裁  
 判所ニ於テ審按スルニアラザレバ到底其不充分ナル處其不服ナル點  
 ナシテ満足セシムルコト能ハザルハ當然ナリ

控訴裁判所ノ手續モ亦タ第一ニ事件ノ受理第二審理第三判決ニ結局  
 スルモノトス

控訴ノ提起者ハ如何 第二百四十二條ニ定ムル如ク檢事又ハ訴訟關  
 係人ヨリスルモノナリ

控訴ノ期限ハ如何 第二百五十二條ニヨレバ判決言渡ノ日ヨリ五日  
 間トセリ而シテ控訴アリタルトキハ其裁判所ハ訴訟關係人ニ呼出狀

ヲ發シ裁判ニ取掛ルベシサレドモ訴訟關係人ハ辯論ノ用意ヲ必要ト  
 スルヲ以テ咄嗟ニ呼出スベカラズ少ナクモ呼出狀ノ送達ト出頭迄  
 ハ二日ノ猶豫ヲ與フルコトヲ第二百五十七條末項ニ示セリ

此他ノ手續ニ就テ裁判官ハ第一審裁判所ガ履行セル手續ヲ守レバ可  
 ナルモノトス

以上陳述シタル手續ニ依リテ被告人ハ有効正當ニ控訴ヲ爲スコトヲ  
 得然ラバ其效果ハ如何曰ク控訴院ハ控訴ヲ理由アルモノトシ第一審  
 裁判所ニ誤アリト見認ムルハ此レヲ取消シテ適法ノ裁判ヲ爲サザ  
 ル可カラズ

又之レニ反シテ控訴ノ原由ナシト認メタル場合ニハ控訴院ハ之レヲ  
 棄却スル所ノ判決ヲナスモノトス然シナカラ第一審ノ裁判所ガ管轄  
 違ヒナルニモ拘ハラズ不注意ニモ其事件ニ付テ判決ヲ與ヘタル如キ  
 場合ハ控訴院ハ如何スベキ歟此等ノ答ヘハ第二百六十二條第二百六

十三條ニアルヲ以テ本文ヲ一讀セバ明瞭ナリト信シ爰ニ贅セズ然ルニ此控訴申立人が期日ニ控訴院ニ出頭セザル等ノ場合ナキニシモアラズ如此場合ハ控訴院ハ第二百六十六條ニ從ヒ缺席判決ヲ以テ其控訴ヲ棄却スルモノトス又々原被両造何レモ控訴セル場合ニ於テ假令ハ其一方ノミ出席シテ他ノ一方缺席シタル場合ハ出頭者ノ辯論ヲ聞キテ矢張缺席判決ヲ下スモノトス而シテ此控訴院ガ下シタル處ノ缺席判決ニ付テハ控訴申立人ハ故障スルノ權利ナキモノトス蓋シ控訴ナルモノハ被告人其他ノ訴訟關係人が己レニ不利益ナル判決ヲ除却セシムルガ爲メニスルモノナレバ飽迄出廷シテ己レノ主旨ヲ貫クコトヲ力メザルベカラズ然ルニ出廷セズシテ其利害ヲ爭ハザルヲ以テ見レバ全ク原判決ニ屈服シタルコトヲ推定スルニ足レリ故ニ裁判所ハ控訴ノ缺席判決ニ故障ヲ許ス等之レヲ保護スルノ謂レナキナリ

一旦控訴ヲ爲シタルハ原裁判ニハ如何ナル効果ヲ及ボスベキカ當然判決ノ執行ヲ停止スルモノトス(二百五十三條)其理由ハ苟モ控訴アリタル以上ハ第一審裁判ヲ抗駁セルモノナルガ故ニ被告人ハ一朝勝ヲ制シ終ニ原判決ガ取り消サル、等ノコトアレバ其刑ヲ執行シタル丈ケノ痛苦ハ到底回復スルヲ得ザルニ至ラン仍テ立法者ハ直チニ判決ノ執行ヲ停止スルトハ規定セルナリ然レドモ右ノ効果ハ民刑二者ニ付テ差異アルコトヲ知ラザルベカラズ彼ノ民事ニ於ケル控訴ハ決シテ執行ヲ停止スルノ効力ナシ蓋シ立法者が民刑二者ニ付テ如此キ差異ヲ設ケシハ彼ノ民事ナルモノハ其訴訟ノ目的物ハ金錢ナリ凡ソ金錢ナルモノハ假令假リニ其判決通りテ執行シタリトテ彼ノ一度執行セバ到底回復スルヲ得ザル刑罰ノ如キ比ニ非ラズ此ニ於テ二者此區別アル所以ナリ

第二百六十五條ニ依ルトキハ主タル控訴アリテ附帶ノ控訴ナキハ假

令ハ被告人又ハ辯護人重禁錮四年ニ處セラルタルヲ不當トシテ控訴シタルト檢事ハ別ニ異論ナキヲ以テ上訴セザリシニ此場合ニ於テ控訴院ハ事實ヲ審按シ四年ノ禁錮ヲ輕シトシ最高點ノ五年ニ處スルノ却ツテ至當ナリト認ムルモ原裁判ヲ變シテ被告人ノ不利益トナスコト能ハザルナリ何故ニ控訴院ハ之レヲ五年ニ處スルノ權利ナキヤト云フニ所謂不告不理ト云ヘル原則ノ適用ニ外ナラズ何ントナレバ刑事ノ原告官ハ檢事ナリ然ルニ此場合ニ於テ檢事ハ一モ訴求シタルニアラズ若シ夫レ檢事ノ起訴セザルニモ拘ラズ之レヲ判決スルトキハ取りモ直サス不告不理タル原則ニ反スレバナリサレバ奸兇ナル被告人等ハ己レニ不利益ノ裁判ノ墮落スルコトナキヲ奇貨トシテ頻リニ控訴シ爲メニ一般ノ裁判事件ヲ延滞セシムルガ如キ結果ヲ生スルガ如シト雖一方ニ檢事ナル大敵アリテ之レニ附帶シテ控訴スル等ノ事アレバ控訴院ハ却テ原判決ヲ取消シ更ラニ重刑ヲ課スルコトヲ得ル

ヲ以テ隱然被告人ノ濫訴ヲ防禦スルコトヲ得ルナリ  
此他控訴ノ事ニ關シテハ猶述ブベキモノアリト雖モ是等ハ上訴ノ部ニ至リテ辯明セン

#### 第四章 大審院

抑モ大審院ハ如何ナル性質ヲ有スルヤト謂フニ

##### 第一合議裁判所トス

七人ノ判事が合議シテ民刑共ニ判決ス

##### 第二最高裁判所トス

裁判所構成法四十三條ヲ見レバ此理由能ク明瞭ナラン

##### 第三終審裁判所トス

故ニ大審院ノ判決ニ向テハ最早ヤ此レヲ攻撃スルノ途ナキモノトス若夫レ未ダ終局ノ判決トナラズ猶上訴ヲ許ストセバ更テニ大審院ノ上ニ層一層至高ノ裁判所ヲ設ケザルヲ得ズ此レ

豈國家經濟ノ許ストニロナラシヤ好シ一步ヲ讓リ之レテ許ストスルモ上訴ノ段階益々多クレバ益々裁判ノ確定ノ期ヲ遷延シ未決拘留ヲ長カラシメ其極底止スルトコロナキニ至ル故ニ立法者ハ大審院判決ハ決シテ誤謬ナキモノト認メ此レヲ以テ終局トハナシタルナリ

第四 法律裁判所トス

法律ノ裁判所トハ事實ニ對スルノ名稱ナリ他ノ裁判所ハ皆事實ノ裁判所ナリ既ニ前ニ述べタル如ク控訴院ハ違警罪ニ付大審院ノ職務ヲ行フ事アレモ本然ノ性質ハ決シテ法律ノ裁判所ト云フベカラズ

顧ミテ舊治罪法ヲ見ルニ控訴院ガ上告ヲ取扱フベキ規定ナカリシ然ルニ新刑事訴訟法ニ於テハ此規定アリ元來大審院ハ少シモ事實上ニ立入ルコトヲ得ズ單ニ原裁判所ガ法律ノ適用ヲ誤リタルヤ否ヤヲ審

按スルモノニシテ所謂法律ノ解釋ヲ統一スル爲メニ設ケタルニ外ナラザルナリサルニ現行法ノ如クセバ此目的ヲ達スル難カルベシ何トナレバ上告ノ判決一途ニ出デザルガ故ニ往々見解ヲ異ニシ同一ノ法律ヲシテ其活用ヲ異ニスルノ類アルベケレバナリ或論者ノ如キハ大審院ハ法律ノ統一ヲ掌ルト云ヘル法則ハ佛國傳來ニ外ナラザレバ今日ニ於テハ此精神ハ打破セラレタルモノトシ捨テ顧ミザレドモ抑モ大審院ハ全國ノ裁判所ニ對シテ一定ノ判決標準ヲ與フルノミニ止マラズ法律ノ不明ヲ説明スルノ能力ヲ有スルモノナレバ此レヲ如何ンク多數ノ裁判所ヲ設クベケンヤ論者又云ハシ違警罪ノ如キ又ハ裁判所構成法十六條二號三號ノ如キ輕微ナル犯罪ノ上告ヲモ亦々悉ク之レヲ大審院ニ於テ管轄スルモノトスルモハ一ニハ非常ナル煩雜ヲ極ムベクニハ如此キ事件ヲ帝國至高裁判所管轄セバ難ク割クニ牛刀ヲ用フルニ類ス故ニ立法者ハ單純ナル理論ニノミ拘泥セズ大ヒニ實

際ノ便益ヲ參酌シ大審院ノ權利ノ一部ヲ割キテ之レヲ控訴院ニ與ヘタルモノニシテ事々シク此レヲ論難スルノ要ナシト云ハシカ然レドモ是レ實ニ事件ノ輕微ト實際ノ便益ノミニ心醉シ法律解釋ノ統一ヲ計ルコトヲ忘却セルノ論ノミ

大審院ハ法律ノ裁判所ト云フ性質ヨリシテ左ノ結果ヲ生ズ

第一構成法四十八條ニアル如ク大審院ガ判決ヲ下セバ其判定ハ

下級ノ裁判所ヲ束縛シ決シテ異議ヲ唱フルコトヲ許サズ

第二同一ナル事件ニ付キ前判決例ト相反スルノ判決ヲ爲シ得ル

コト

之レ實ニ異常稀有ノ事トス然レドモ今日ノ如ク文化迥カニ進ミ悉備ノ法律アリト雖モ廣博ナル法理ヲ解明セントスルヤ蟻錯異同容易ニ正皓ヲ得ルベカラザル場合ナシトセズ今日ノ是明日ノ非トナル又止ムヲ得ザルニ坐ス然リト雖モ舊判例ヲ覆シテ新判例ヲ定ムルガ如キ

ハ異常ナルヲ以テ此場合ニ於テハ大審院ハ刑事ナレバ刑事部ノ總會議ヲ開キ其決定ニ依リテ判決セザルベカヲ又一層重大ナル事件ハ全院總會議ヲ開クコトアルベシ

大審院ノ組織權限ハ如何 曰ハク先キニ述ベタル如ク構成法ノ第四

十三條ニ明文ニヨリテ院長一人ト刑事部民事部各七名ノ判事アリテ

書記課ニ書記長アリ檢事局ニ檢事總長アリ檢事總長ハ全國裁判所ノ

檢事ヲ指揮監督ス而シテ刑事上大審院ノ職權ハ構成法第五十條ト刑

事訴訟法第二百六十八條ニ此規定アリ此等ノ規定ヲ見レバ其管轄自

ラ明ラカナルヲ以テ茲ニ贅セズ而シテ此兩條ハ何レモ大審院ハ常ニ

終審トシテ判決ヲ爲スモノナリ且ツ大審院ガ始テ判決ヲ爲シ直チニ

終審トナル場合モアリ即チ刑法第二編第一章ノ皇室ニ對スル罪其他

國事犯ノ如キコレトス(二百六十九條)

右ニ陳ブル所ノ大審院ナルモノハ法律ノ適用如何ヲ審理スルモノナ



ルヲ以テ從テ上告ヲ受クルニ付テモ自ラ制限アリ則違法ノ原因ナキトキハ上告ヲ受理セザルナリ而シテ違法ノ原因トハ如何ナルモノナルヤト云フニ第二百六十八條ニ說明シテ曰ク法則ヲ適用セザル場合又ハ不當ノ法律ヲ適用シタルモハ法律ニ違背シタルモノトス而シテ其場合ハ細カニ二百六十九條ニ列舉セリ然レモ此等ノ詳細ハ以下ニ詳述スルノ機會アルヲ以テ今暫ク之レヲ畧ス

上告スベキ人ハ誰ナルヤ 曰ク二百四十二條ニヨレバ訴訟關係人及檢察トス又附帶上告ナルモノアリ假令ハ被告人上告スルニ附帶シテ檢察が上告スル等ノ如シ然レモ此附帶上告ナルモノハ檢察ニ限ルニアラズ一般ノ訴訟關係人ヨリ之レヲ爲スコトヲ得ルナリ

上告ノ期限ハ如何 判決言渡ノ日ヨリ三日間ヲ以テ期限トス而シテ此三日間ニ於テ上告ノ申立書ヲ裁判所ニ差出シ更ニ五日內ニ其上告ノ主意書ヲ差出サザルニカラズ而シテ裁判所ハ其上告申立書若クハ

受ケタル時ヨリ二十四時間内ニ相手方ニ送ラザルベカラズ今本條ノ精神ヲ釋スルニ直チニ之ヲ上告裁判所ニ送ラズシテ對手人ニ通知スル理由ハ他ナシ其相手方ハ此ニ對シ相當ノ準備ヲナサザルベカラズ其準備ハ一日モ速カナルヲ要スレバナリ尙ホ檢察が上告スル場合ノ規定ハ二百七十五條ニ明文アリ就テ覽ルベシ

上告裁判所ノ裁判方法如何 曰ク通常裁判所法廷ニ於ル如ク被告人又ハ其他ノ訴訟關係人が互ニ法廷ニ於テ辯論スルヲ得ズ素ヨリ上告ノ主意ヲ一層貫徹セシメントスレバ自ラ出頭シテ陳述スルノ勝レルニ如カザルガ如キ感アレモ然レモ如此キ事情ニ迫リタルトキハ第二百七十九條ニ依リ辯護士ヲ差出スコトヲ得ルナリ

凡ソ上告アリタルモハ上告裁判所ニ於テ素ヨリ其事件ヲ審査スベキモノト認定スルモハ第二百八十條ニ依リ裁判長ハ專任判事ヲ定ムルモノトス抑モ專任判事即チ法律ニ所謂受命判事ナルモノハ訴訟記録

ヲ檢閲シ其報告書ヲ作ルベシサレハ報告書中ニハ自己ノ意見ヲ加ヘテ之レヲ裁判長ニ差出スコトヲ得ズ其理由ハ受命判事ハ其事件ニ付取調ヲ爲シタルモノタルヲ以テ受命判事が意見ヲ加フルルハ隱然其意見ハ他ノ判事ヲ雷同セシムルノ弊ナキヲ保セザレバナリ  
上告判決ノ方法ハ素ヨリ合議ノ制度ナルヲ以テ七名ノ判事が討論審議シタル上ニテ之レガ判決ヲ下スモノナリ而シテ其判決ノ結果ハ二様ノ現象ヲ呈ス

第一ハ上告ヲ棄却スル場合トス例セバ上訴ノ期限ヲ經過シタルモ若クハ二百六十九條ニ記載シタル原因ナカリシモ如キハ原裁判ハ其儘認可セラレ上告棄却トナル

上告ヲ爲スルハ其効果トシテ二百七十二條ニ明文アル如ク拘留及ヒ放免ノ言渡ヲ除ク外ハ判決ノ執行ヲ停止スルモノナリ乍併上告ガ棄却セラル、モハ直チニ原裁判所ノ裁判ヲ執行スルヤ言ヲ待タズ(百八

十五條參看)

第二破毀ノ判決アリタル場合則チ上告ヲ理由アリト大審院ニ於テ見認メタルモハ原判決ヲ破毀スルモノトス而シテ其破毀ノ方法ハ或ハ全部ヲ破毀シ或ハ一部ヲ破毀スルコトアリ一部ヲ破毀スル場合トハ則チ上告ノ一部ハ正當ニシテ他ノ一部ハ不當ナルガ如キ場合ナリ而シテ何レニセヨ原判決ヲ破毀セシモハ素ヨリ訂正セザルベカラズ然ルニ此ノ裁判ヲ訂正スルハ大審院ニ於テスベキヤ原裁判所ニ於テスベキヤ將タ他ノ裁判所ニ於テスベキヤ是レ實ニ上告事件善後ニ於ケル最要問題トス我立法者ハ二百八十六條ヲ以テ原則ヲ示シタリ即チ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲スベシトセリ蓋シ上告事件ヲ覆審セシムルノ意ニ外ナラズ蓋シ大審院ハ何故ニ自カテ裁判ヲ訂正スル局ニ當ラザルカト云フニ屢々述ベシ如ク大審院ハ事實ヲ取調ブルノ權ナシ是ニ於テ大審院ハ其事件ヲ他裁判所へ移スノ止ムヲ得ザ

ルナリ然ルニ此事件ハ何故ニ原裁判所ニ差戻サ、ルヤト問ハ、元來  
 原裁判所ノ判決ハ破毀ニ屬シ被告人其他ニ對シ幾分カ裁判ノ信用ヲ  
 缺ケルヲ以テトス  
 上來ニ説明セシ通り破毀事件ハ他ノ裁判所ニ移シテ覆審セシムルモ  
 ノナレモ原裁判所ノ裁判ガ唯ダ單純ニ法律ノ適用ヲ誤レルガ如キ場  
 合ハ破毀ノ點法律上ニ存スルノミニシテ事實當否ノ上ニ付テハ非難  
 ナキヲ以テ之レヲ他ノ裁判所ニ移シテ態々覆審ヲ求ムルノ必要ナキ  
 ヲ以テ上告裁判所ハ直チニ判決スルコトヲ必要トス而シテ又法律ニ  
 背キ公訴ヲ受理シタル場合ニ於テモ上告裁判所ハ是レヲ他ノ裁判所  
 ニ移サズシテ自ラ判決ス其所以ハ此場合ハ即チ原裁判所ガ罰スベカ  
 ラザルモノニ對シテ刑罰ヲ加ヘタルモノナルヲ以テ之レヲ他ノ裁判  
 所ニ移シテ再審セシムルノ必要ナク只ダ其刑罰ヲ取消スヲ以テ足レ  
 バナリ

然レバ右ニ反シ原裁判所ガ法律ニ背キ公訴ヲ受理セザリシ場合ハ如  
 何ノ日ク二百八十六條ニ從ヒ之レヲ他ノ裁判所ニ移サ、ルベカラズ  
 何ントナレバ未ダ其事件ニ付テハ少シモ事實ニ付テ取調ヘタルコト  
 ナキヲ以テナリ  
 又二百八十八條ニ依ルニ公判ノ手續ハ規定ニ背キタルモ其後ノ手續  
 ニ利害ノ關係ヲ及ボサ、ルルハ上告裁判所ハ唯ダ其手續ノミヲ破毀  
 スルコトヲ規定セリ  
 今一例ヲ舉ゲテ説明センニ假令ハ證人ヲ呼出スニハ二日ノ猶豫ヲ與  
 フベキニモ拘ラズ裁判所ハ之レヲ與ヘズシテ直チニ呼出シ取調ヲ爲  
 シタルトキハ則チ裁判所ハ手續ニ背キタルナリ是ニ於テ乎上告セシ  
 ト假定センカ上告裁判所ハ其違法ノ手續ヲ破毀スルノミナリ何ント  
 ナレバ證人ノ呼出シニ猶豫ヲ與ヘザリシトテ此レガ爲メ其後ノ公判  
 ノ手續ニ差シタル利害ヲ及ボサ、レバナリ蓋シ本條ノ精神ハ違法ノ

取扱ニシテ訴訟關係人ノ權利上ニ利害ノ關係アリトセバ上告裁判所ハ宜シク之レヲ破毀シ他ノ裁判所ヲシテ覆審セシムベキモノトスレドモ併シナガラ右例示ノ場合ハ被告人權利ノ上ニ秋毫モ損害ナシ故ニ其煩ヲ省カン爲メ唯ダ之レヲ破毀スルニ止メシナリ  
又二百八十九條ニ依レバ一部分ニ對シ上告シタル場合ト雖モ他ノ部分ニ關係アルトハ其他ノ部分モ併セテ破毀スベキモノトセリ  
果シテ然ラバ大審院ハ上告ヲ破毀シタル場合ニハ之レヲ他ノ裁判所ニ移サ、ルヲ得ザルモノトスレバ他ノ裁判所トハ如何ナル裁判所ヲ云フカト云フニ二百九十條ハ答ヘテ此場合ニハ原判決ヲ爲シタル裁判所ニ近接セル同等ノ裁判所ニ移スベシトセリ例之ハ京都地方裁判所ノ判決ヲ破毀セルトハ之レヲ大津地方裁判所ニ移スノ類ナリ今何故ニ原判決ヲ爲シタル裁判所ニ戻サ、ルヤト云フニ抑モ前裁判所ハ大審院ニ於テ破毀セラル、如キ判決ヲ爲サ、ルガ故ニ最早ヤ訴訟關

係人ニ對シテ信用乏シキヲ以テ他ノ裁判所ニ移スノ止ムヲ得ザルナリ其他大審院ハ三百四條ニ依リテ再審ノ訴ヲ受理スル權限アリ而シテ再審ノ訴ヲ受クルトハ三百五條ニ基キ大審院ハ檢事ノ請求ニ依リ直チニ專任判事ヲ命シ其取調タル結果ヲ報告セシムルモノナリ其報告ニ憑リ再審ノ訴ハ理由アリト認メタルトハ矢張原裁判ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ同等ナル裁判所ニ移スモノナリ然ルニ此ノ再審ノ訴ナルモノハ獨リ生存者ノミナラズ時ニ或ハ死者ノ親族ヨリ再審ノ訴ヲ爲スコトアリ此場合ニ於テハ死者其人ニ對シテ取調ヲ爲スコトハ到底ナシ能ハザルノ事ナレドモ若シ正當ノ理由アリトセバ前判決ヲ破毀スベキナリ

再審ノ訴ニヨリ前判決破毀セバ幸福ハ眞ニ幸福ナルニ相違ナキモ凡ソ人々一旦有罪ノ確定判決ヲ受ケシ汚名ハ永ク朋友知己間ニ印刻サレ容易ニ雪クヲ得ザルカ故ニタトヒ再審ノ訴ヲ前判決破毀セテ

レタリトスルモ即時ニ無垢ノ身ニ復歸セシコトヲ知ラシムルコト難シ仍テ三百九條ヲ設ケ憐ムベキ者ノ名譽ヲ回復スル爲メ其判決文ヲ揭示スベキコトヲ命ゼリ而シテ其揭示方法ニ至テハ別段ノ規定ナケレバ裁判所通常ノ揭示法ニヨレバ可ナラン

以上ハ大審院ニ普通ナル訴訟手續ヲ講述シタルモノトス然レドモ刑事訴訟法第七篇ニハ大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續ノ規定アリ仍テ少シク此ヲ講述スベシ

抑モ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件トハ皇室ニ關スル罪及ヒ國事ニ關スル罪トス元ヨリ我朝建國以來列聖相踵キ臣ハ忠人ハ順ナリ誰レカ敢テ鼎ノ輕重ヲ問フモノアランヤサリナガラ天下百歳ノ後或ハ狂愚暗昧ノ徒皇室ニ危害ヲ加ヘントスル事ナキヲ保セズ果シテ然ランニハ國家ノ秩序ト安寧ノ上ニ於テ其關係スルトコロ淺少ニアラズ然リ而シテ刑法第二篇第二章ニ規定スル國事ニ關スル罪ノ如キハ推新

後ノ歴史ニ於テモ往々散見スルトコロ而シテ此等ハ何レモ國家ノ安危ノ繫ルトコロナリ何ソゾ輕々易々ニ此レヲ治ムベケンヤ然ラバ此等ノ犯罪ハ何レノ裁判所ノ管轄ニ歸セシムルヲ以テ適當トスベキカ曰ハク帝國至高ノ地歩ヲ占ムル大審院ヲ以テスルヲ穩當トス立法者ガ刑事訴訟法第七篇ヲ規定スル實ニ偶然ニアラザルナリ

右ノ如クナレバ其裁判手續ノ如キモ通常ニ比シ大ニ丁寧ヲ加ヘザルヲ得ズ讀者以下ノ講述ニ就テ玩味セヨ

元來大審院特別權限ニ屬スル犯罪ニ就テハ普通ノ場合ニ於ケルガ如ク區裁判所又ハ地方裁判所檢事起訴權ヲ行フヲ得ズ必ズ檢事總長此ヲ行フベキ旨ヲ規定セリ一人ノ檢事總長ニテハ十分ニ證據ヲ收集スルヲ得ズ仍テ第三百十條ニヨレバ搜查ノ權ハ專ラ檢事總長ニ委テズシテ區裁判所及ヒ地方裁判所檢事ニモ此ヲ命ゼリ尤モ此等ハ單ニ搜查權ヲ有スルノミナラズ其以上ノ手續ハ總テ檢事總長ニ讓ルハ元ヨ

リ論ヲ待タズサリナガラ彼ノ急速ノ扱ヒヲ要スル現行犯ノ如キハ三百十一條ニヨレバ地方裁判所檢事區裁判所ノ檢事司法警察官ハ通常ノ手續ニ從ヒ豫審處分ヲナスベキコトヲ命ゼリ然レドモ通常ノ手續ニ從ヘバ如此キノ場合ハ必ラズ豫審判事ニ報告スベキモノナレハ此場合ハ通常ノ豫審判事ニテモ處分權ナケレバ通知スルノ必要ナシトス尙ホ三百十二條ニヨレバ假豫審處分ヲナシタル場合ハ地方裁判所檢事ヨリ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ檢事總長ニ送致スベキコトトセリ

而シテ檢事總長ハ起訴スベキモノト認メタルハ三百十三條ノ規定ニ從ヒ大審院長ニ向テ豫審判事ヲ命ズベキコトヲ請求ス院長ハ一人ノ判事ニ豫審處分ヲ命ズベシ其受命判事取調ノ結果ヲ報告シタルハ終ニ大審院ハ三百十五條ニヨリテ合議シ判決スルノ運ビトナルナリ然レドモ直ニ公判ヲ開クニアラズ先ヅ公判ニ附スベキヤ否ヤヲ決定

シ若シ公判ニ附スベキモノトセバ是ヨリ通常ノ手續ニ從ヒ裁判スベク(三百十六條參看)若シ權限ニアラズトシ又ハ免訴スベキモノト決定シタルハ三百十五條二項三項ノ規定ヲ適用スベキナリ

第六編 上訴 附故障

以上ニテ公判規則ノ大略ヲ修了ス今ヤ一步ヲ轉シテ上訴ノ事ヲ講究セントス凡ソ刑罰ナルモノハ國家ノ保安ヲ維持スル處ノ綱紀ナリ寬嚴宜キヲ得ズ裁判其處ヲ得ズ無辜ヲシテ獄窓ニ呻吟セシメ有罪ヲシテ脱網セシムルカ如キコトアラバ保安ヲ維持スルノ刑罰反ツテ公安ヲ害スルノ兇器トナルベキヲ保セズ嗚呼裁判官タルモノ懼レテ慎マザルベケンヤ然レハ裁判官亦人ノミ紛錯極リナキノ罪情ヲ判斷スル上ニ付テ豈多少ノ誤ナキヲ得ンヤ既ニ誤ヲ免カレザルモノトセバ須ラク此レヲ救正シ刑罰ヲシテ其處ヲ得セシムルノ方法ヲ開カザルヲ得ズ然ラバ如何セバ可ナルカ曰ク其裁判ヲ攻撃シテ新判決ヲ與ヘン

事ヲ請求セシムルニ若カズ上訴ノ制度ヲ設ケタル意ニ此レガ爲ナリ  
 上訴ヲ爲スベキ人如何 凡ソ上訴ヲ爲シ得ベキ人ハ二百四十二條二  
 百四十三條ニ示セリ今此ノ二箇條ニ示ストコロノモノヲ分析スレバ  
 左ノ如シ

一 檢事

二 被告人

三 被告人ノ法律上ノ代理人

四 民事原告人

五 民事擔當人

六 辯護人

抑モ檢事ナルモノハ社會ノ代理官ニシテ殊ニ公安ヲ保護スルノ職務  
 ヲ掌ルモノナルヲ以テ苟シクモ不當ナル裁判ナルハ直ニ上訴シテ  
 而シテ裁判權ノ公平ヲ維持スルノ義務ヲ有ス故ニ被告人ノ刑寬大ニ  
 失スルトカ若クハ有罪者ナルニモ拘ハラズ裁判官ニ於テ之レニ無罪  
 ノ言渡ヲ爲シタルハ此ニ對シ上訴シテ社會ノ刑罰權ノ運用ヲシテ  
 十全セシメザルベカラズ然レモ他ノ一方ヨリ觀察スレバ判事が無罪

ニ對シ有罪ヲ宣告シタルカ又ハ重ク罰スル等ノ場合ニ於テハ其入ノ  
 不幸ハ勿論到底其裁判ハ人民ノ信用ヲ失ヒ終ニハ社會ノ公安ヲ害ス  
 ルヲ以テ檢事ハ一ニハ被告人ノ利益ノ爲メニ一ニハ公安保護ノ爲メ  
 ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ベキノ明文アリ

此他被告人ガ上訴スルハ素ヨリ其處ニシテ苟シクモ不當ナル裁判ニ  
 對シ服従スルノ義務ナキハ當然ナルヲ以テ上訴ノ權アル今爰ニ喋々  
 スルヲ待タズ然ラバ被告人ガ利益ノ裁判ヲ受ケタル場合假令ハ免訴  
 又ハ無罪等ノ裁判ヲ受ケタルハ之ニ對シテ上訴スルコトヲ得ルヤ  
 否ヤ曰ハク此場合ニハ決シテ上訴スルコトヲ得ズ二百七十條ニ示セ  
 リ格言ニ曰ク利益ナケレバ訴權ナシト本條ハ則チ此格言ノ適用ナリ  
 辯護人ガ上訴ヲ爲シ得ルハ如何ナル理由ナルヤ抑モ辯護人ハ飽マデ  
 モ被告人ヲ保護セザルベカラザルノ義務アリ又法律上ノ代理人ハ總  
 テノ事ニ付キ被告人ヲ代表スルモノナリ故ニ此等ノ者ニ辯護權ヲ與

ヘタルハ實ニ至當ノコト、ス但シ二百四十四條ニ依ルニ法律上ノ代理人ハ本人ガ不服ナルニモ拘ハラズ上訴スルコトヲ得ベケレドモ辯護人ハ二百四十三條ノ但書ニヨレバ被告人ノ依頼セザル上訴ヲ爲スコトヲ得ズ今二者ニ就テ其區別アル所以ヲ釋スルニ辯護人ハ一時被告人ノ委託ヲ受テテ代理スルモノナレバ依頼セザル點迄モ進行スルヲ得ズ之レニ反シ法律上ノ代理人ハ苟モ法律ヲ以テ定メタルモノニシテ無能力者ヲ保護スルモノナレバ其權利ノ廣狹同日ノ論ニアラズ故ニ獨立シテ上訴ヲ爲シ得ルコト、ハナセルナリ

民事原告人民事擔當人ハ素ヨリ上訴スルノ權アリ併シナガラ其區域タルヤ乃チ唯ダ贓物ノ返還損害ノ賠償ノミニ付テ上訴スルノ權アルノミナリ其他ニ及ボスヲ得ザルナリ

上訴トハ如何ナルモノヲ云フカ左ノ如シ

第一豫審中ニ豫審判事ノ爲シタル決定ニ對シ又ハ豫審終結ノ決

定ニ對スル抗告

第二第一審ノ判決ニ對スル控訴

第三第二審ノ判決ニ對スル上告

第四非常上告

第五再審

上訴ノ種類ハ則チ以上ノ五種トス而シテ上訴ノ道モ此順序ヲ追フベク假令ハ控訴ヲ爲サズ一躍シテ上告ヲナス等ノコトハナスヲ得ズコレ二百六十七條ニ規定スルトコロトス而シテ此種類中控訴上告等ノ如キハ裁判ヲ攻撃スル普通手段ナルヲ以テ學者之レヲ稱シテ通常の上訴法ト稱シ抗告非常上告再審等ハコレヲナスノ場合殆ンド法律ニ限定セラレタルガ故ニ裁判ヲ攻撃スル普通手段ニアラズ故ニ之レヲ非常の上訴法ト稱セリ

上訴ノ期限 凡ソ上訴セントセバ法定ノ期間ニ於テセザルヲ得ズ若



期限ヲ經過セバ判決確定スルヲ以テ上訴權失却ノ原因トナル故ニ  
 其ノ期限ハ訴訟關係人權利ノ得喪ニ關係スルモノナルヲ以テ法律ハ  
 充分ナル注意ヲ與ヘン爲メ即チ裁判宣告文ニ上訴ヲ爲シ得ルコト及  
 ビ其期間等ヲ明記スベキコトヲ規定セリ  
 抑モ此ノ上訴期間ヲ設ケタル所以ハ元ヨリ上訴權ヲ運用スルニ付テ  
 必要ナル材料ノ準備時間ヲ與ヘル爲メ又此ノ時間中ニ反復熟慮シ豫  
 期ノ目的ヲ達セシムルガ爲メトハイヘ其時間餘リ長キニ涉ルトキハ  
 裁判ノ確定ヲ遷延シ未決拘留ヲ長カラシムル等ノ弊アルニヨリ控訴  
 ハ五日上告抗告等ハ三日ノ期限ニ制限セリ  
 先キニ述ベシ通り一般ノ原則ヨリ論ズル時ハ上訴期限ヲ經過シタル  
 事ハ其訴權ヲ失フヤ素ヨリ當然ナリ然ルニ今爰ニ二ツノ例外アリ  
 其一ハ百七十三條二百七條ニ明文アル如ク豫審終結ノ決定書若クハ  
 公判ノ對席判決ニハ上訴ヲ爲シ得ルコト并ニ其期限ヲ示シ又缺席判

決書ニハ故障ヲ爲シ得ル可キコト等ヲ明記セザルベカラズ然ルニ若  
 シ其言渡ナク又記入ナキ事ハ其期限經過スルモ少シモ上訴權ヲ失ハ  
 ザルナリ其二ハ二百四十七條ニ規定スル如ク非常ノ天災等ノ爲メニ  
 上訴期限ヲ經過スルコトアリ此等ノ場合ハ止ムヲ得ザルノ事由ニヨ  
 リ經過セシコトヲ證明スルニ於テハ期限後ト雖モ上訴スルコトヲ得  
 ルナリ  
 然レバ上訴期間ナルモノハ如何ニ起算スベキヤト云フニ此レ又一定  
 ニ論ズルコトヲ得ズ先ヅ第一ニ對席判決ト缺席判決トヲ區別セザル  
 ベカラズ  
 對席判決ハ言渡アリタル日ヲ以テ起算點トス  
 缺席判決ハ其判決書が被告人ノ處ニ到達シタル日ヲ以テ起算點トス  
 此他豫審終結ノ決定ニ對スル上訴ノ如キハ決定書ノ到達シタル日ヨ  
 リ起算スルコトナレリ

此等ノ規定ハ素ヨリ正當ナル規定ナリ乃チ對席判決ノ場合ハ其時直  
 ナニ其言渡ヲ知ルヲ以テ同時ニ上訴期間モ進行ヲ始ムベケレドモ缺  
 席判決ノ場合ハ之レニ反スレバナリ  
 又附帶上訴ハ法律ニ定メタル期限以後ト雖モ上訴ノ判決アルマデハ  
 何時ニテモ之レヲ爲シ得ルモノナリ何故ニ附帶上訴ハ期間經過後ナ  
 ルニモ拘ハラズ其上訴ノ判決アラザル以前ハ何時ニテモ之レヲ爲シ  
 得ルヤト云フニ凡ソ附帶上訴ナルモノハ主タル上訴アリテ而シテ之  
 レニ伴隨シテ生ズルモノナルヲ以テ裁判事務ノ濫帶ヲ醸スベキ理由  
 ナクレバ附帶上訴ハ何時ニテモ主上訴ノ判決アルマデハ之レヲ許ス  
 所以ナリ

而シテ此附帶上訴ハ果シテ如何ナル利益アルヤト云フニ檢事ガナス  
 場合ニ付一例ヲ舉ゲテ之レヲ示サン爰ニ或被告人ニ對シ裁判所ハ重  
 禁錮一年ノ刑ヲ言渡セリ被告人之レニ服セズシテ上訴セリ此場合ニ

於テ檢事ガ附帶ノ上告ヲ爲サルハ其上訴ヲ受理シタル裁判所ハ  
 如何ニ重キ情狀アルモ被告人ニ對シ一年ヨリ重キ刑ニ科スルコト能  
 ハズ何トナラバ素ト被告人ガ上訴シタル所以タルヤ原裁判ハ正當ヲ  
 失シタルヲ理由トシテ上訴シタルモノナレバ則チ原告ノ地位タル  
 檢事ノ訴求ナシ檢事ノ訴求ナキニ刑ヲ加重スルハ所謂ル訴ヘナキニ  
 刑ヲ課シタルモノナレバナリ然レモ檢事ハ一ケ年ノ重禁錮ハ輕キニ  
 失スルヲ以テ更ニ相當ノ刑ヲ科セヨトノ主意ヲ以テ附帶上訴セシト  
 ハ上訴裁判所ハ更ニ重キ刑ヲ科スルコトヲ得ベキナリ則チ檢事ガ附  
 帶上告ヲ爲シタルガ爲メニ反ツテ犯罪ト平衡ヲ得タル刑ヲ課スルヲ  
 得タルハ取りモ直サズ檢事ガ附帶上告ヲ爲シタルノ賜ニアラズシテ  
 何ツヤ  
 上訴ノ効力 一タヒ上訴スルハ其上訴ノ爲メニ裁判ノ執行又ハ決  
 定ノ執行ヲ停止スルモノアリ又タ停止セザルモノアリ然レドモ今原

則ヨリ論ズレバ停止スルヲ以テ至當トス其停止セザルモノハ例外タルニ過ギズ而シテ上訴ノ爲メニ原裁判ノ執行ヲ停止スル場合ヲ法律ニ照セバ百七十四條百八十七條二百五十三條二百七十二條等トス又此ノ例外即チ停止セザル場合ハ百七十四條ノ但書及ビ二百七十二條ノ拘留及ビ放免ノ言渡ニ對スル上告等ノ場合はナリ此等ノ場合ハ何故ニ停止ノ効力ヲ及ボサ、ルヤト云フニ別ニ深キ理由アルニアラズ則チ此等ニモ尙ホ必ズ之レヲ停止スレモノトスルハ人民自由ノ權ヲ侵害スルノ恐アルヲ以テ此レヲ例外トナセシニ過ギズ以上ニテ畧ホ上訴ニ關スル總論ヲ了ヘリ以下進メテ通常上訴ノ細別ニ入り講述セシ

## 第一章 控訴

法律學ノ非常ノ進歩ヲ爲シタルモノハ今日ニアリ且ツ尙ホ進歩ヲナシツ、アルトハイヘ法律學大體ノ模範ハ却テ輓明發明シタルモノノ鈔

ナク遠ク二千有余年ノ昔羅馬法律及ビ同國法學者此レヲ示セリ彼ノ有名ナル十二銅標トイヒ又西曆六世紀ノ末路ニ當テ當時羅馬ニ君臨シタル「ヂヤスチニア」帝ガ編纂セシ「パンデクト」ト云ヒ其他前後輩出シタル諸學者ノ著書ト云ヒ此等ガ後世ニ及ボシタル遺跡光澤ハ則チ歐洲中英國ヲ除クノ外各國ノ法律ノ精神基礎トハナレリ則チ此ノ控訴ナルモノモ輓近之レヲ發明セシニ非ズ業已ニ羅馬ノ法律ニ之レガ規定ヲ存セリ而シテ方今控訴ヲ設ケタル主意ハ裁判ノ誤謬ヲ防グニアリ然レモ始メ羅馬ニ此規定アリシハ其目的爰ニアラズシテ只ダ政略上裁判官ノ權利ヲ挫折スルヲ以テ其目的トセリ下リテ歐米ノ各國ニ於テモ類々此ノ制度ヲ用ヒタルモ何レモ純然タル誤判ヲ救フテ目的トナセシモノニ非ズ幾分カ羅馬ノ如ク政略上ノ理由ヲ混淆セリ乍去行政學者ハ司法行政分立ノ原則ヲ憲法上ニ示スノ必要アリト論シ又實ニ立分セザルベカラザルノ大勢ヲ呈シ又實ニ各國ノ憲章ニ

此レヲ認メタル今日ニ至リテハ控訴ヲ設ケタルノ理由モ亦タ單純トナリ秋毫モ政治上ノ理由ヲ混同スルガ如キコトナキニ至レリ然リ而シテ本來此ノ控訴ナルモノハ同一ノ事件ヲ同一ノ手續ニ依リテ再調ヲ爲スモノナルヲ以テ深ク實際ヲ穿ツルハ裁判ノ迅速ヲ妨グルノ憂アリ故ニ或人ハ曰ク元來第一審ノ裁判ニ誤謬アルガ爲メ不得止控訴ノ權ヲ與ヘザルベカラズ是レ他ナシ一審裁判官ノ不熟練不適當ナルガ故トス故ニ始メヨリ老練適當ノ裁判官ノミヲ以テ裁判所ヲ構成セシナラバ一審ニテ事足ル何ゾ控訴ノ如キ複雑ナル制度ヲ用フルノ必要アラザト併ナガラ此論ノ如キハ机上ノ空論ニシテ實際ニ行フベキモノニアラズ何トナラバ如何ニ裁判官ヲ精選スルモ鬼神ニアラザルノ裁判官時ニ或ハ誤ナキヲ得ザレバナリ又曰ク控訴ノ制度ヲ設クルハ第一審裁判ノ缺典ヲ補ヒ誤判ノ弊ヲ正スコトハ或ハ出來得ルナラザラ然レモ一利アラバ一害ノ之レニ伴フ

ハ數ノ免レザル處ナリ乃チ控訴ヲ許スルハ爲メニ他ノ裁判ヲ遅延ナラシメ其余波濺ナラザルノ租稅ヲ以テ人民ヲ未決ニ養ハザルベカラザルニ至ル之レニ因ツテ考フルハ寧ロ利少ナクシテ害多キニハアラザルカ加之ナラズ立法者ガ右ノ制度ヲ設ケ置クヲ以テ奸黠ナル徒ハ只ダ目前ノ安樂ヲ貪ボランガ爲メニ理モ非モナク濫リニ控訴シテ服刑ノ日ヲ延ハサンコトヲ企圖セリ乃チ此等ハ皆チ其裁判ノ費用ト手續ヲ煩ハスノ源因トナルベシト然レモ此論旨モ到底採用スルヲ得ズ素ヨリ此控訴ヲ設クルトキハ費用ト手續ノ上ニ關係スル處少ナカラザレモ人權ヲ重ンテ裁判ヲ正サント欲スルハ幾分ノ手續ト費用ハ犠牲ニ供セザルヲ得ズ立法者ガ控訴ヲ設ケタルハ實ニ止ムヲ得ザルナリ

控訴ハ如何ナル判決ニ對シ爲シ得ベキヤ 曰ハク本案ニ關係スル第一審ノ判決ニ對シテ爲スコトヲ得(二百五十條)

右ノ原則ニヨレバ本案ニ關係スル場合ナレモ本案ニ關係セザル處ノ判決ニテモ又控訴ヲ許スコトアリ(二百五十條末文參照)而シテ此控訴ヲ申立ツルニハ凡テ已レニ利害ノ關係ヲ有スルモノハ之レヲ爲スコトヲ得ルナリ且ツ此控訴ヲナスノ區域ハ別段ニ制限ナケレバ判決ノ一部分ニ對シ或ハ全部ニ對シ控訴スルコトヲ得乍去時トシテハ此控訴ヲ爲スモノ其控訴ノ限界ヲ示サ、ル場合アリ此等ノ場合ニ於テハ裁判所ハ如何ナル判定ヲ爲スヤト云フニ則ハテ判決ノ全部ニ付テ控訴シタルモノト見做スナリ(二百五十一條參看)

控訴ノ期限 凡ソ控訴スルノ期限ハ二百五十二條ニ規定スル如ク五日間ヲ以テ限リトセリ此ノ期限ハ別ニ學問上ヨリ割出シタルモノニアラズ只ダ立法者カ適當ナリト信ズル時間ヲ規定シタルニ過キズ然テハ其起算點ハ如何ト云フニ即チ裁判ノ言渡アリタル日ヨリ算出ス併シナガラ爰ニ一ツノ注意スベキアリ即チ期限ノ最終ノ日ガ裁判所

ノ休暇日ニ當ルモ一日ノ猶豫ヲ與ヘタリ此レ別ニ深キ理由アルニアラズ唯ダ休暇ナルトキハ裁判官ガ事務ヲ執ラザルヲ以テナリ蓋シ被告ニ取リテハ一日ノ日子モ貴重ナルモノナレバ被告ノ利益ニ規定シタルヲ知ルベシ(十五條參看)

先キニ述フル如ク控訴ヲ爲スニ期限アリ故ニ其期限ヲ經過シタルモハ最早控訴スル能ハズ併シ若シモ訴訟關係人ノ一人カ控訴中ニ附帶ノ控訴ヲ爲サントセハ期限ヲ經過スル後モ之レヲ許セリ假定ハ訴訟關係人ハ五人アリトセンカ其内ノ一人カ控訴シ置ケハ其判決アル迄他ノ四人ハ何時ニテモ附帶控訴スルヲ得ベキナリ  
之レヲ駁スルモノ曰ク若シ其裁判ニ對シ不服アラバ五日ノ期限内ニ控訴ヲナスベキ筈トス然テバ前例ノ場合ニ於テハ唯一人不服ヲ鳴ラシタルノミ他ハ其裁判ヲ正當トシテ一旦承服シタルニアラズヤ既ニ承服シタルニモ拘ハラズ猶期限後控訴權ヲ利用セシムルハ抑モ何故

グヤト此説タル一應ノ理由ナキニシモアヲザレハ附帶ノ控訴ナルモ  
ノハ強チ本按ノ判決ヲ攻撃スルニアヲズシテ却テ多クハ己レノ權利  
ヲ全フセントスル場合ニ爲スモノ多シ請フ一例ヲ舉ゲテ之レヲ説明  
セシ爰ニ重禁錮六ヶ月ニ處セラレシ被告人アリ被告人ハ以爲テク此  
刑ニ満足セザルヲ得ズト左レハ檢事ハ此ノ刑ノ輕キニ失スルト爲シ  
控訴ヲ爲シタリトセヨ若シ此控訴ニシテ通過セバ被告人ハ一層重刑  
ニ處セラレザルヲ得ズ是ニ於テ檢事ノ控訴ニ反對シ己レヲ保護スル  
ノ意ヲ以テ止ヲ得ズ附帶ノ控訴ヲ起スニ至ルモノトス如此キ場合ニ  
於テ強チ論者ノ言フ如ク期限經過シタル後ハ附帶控訴モ爲シ能ハザ  
ルモノト規定スルハ少シク酷ナリ是レ立法者ガ二百五十九條ヲ設ク  
所以トス

前ニモ説明シタル如ク控訴ノ期限間ハ五日トス併シ彼ノ缺席判決ヲ  
受ケタルモノハ控訴ヲ爲シ得ルハ勿論此レニ對シテ故障スル處ノ權

アリ蓋シ本然ノ順序ヨリ論セバ故障期限經過シ了リタル後ニアラザ  
レハ控訴ヲ爲スヲ得ザルガ如シ然ルニ二百五十二條二項ノ規定ハ之  
レニ反ス其故何ソヤ此レ被告人ノ便宜ヲ計リシニ外ナラズ則チ被  
告人ハ以爲テ故障ノ道ニヨリ對抗スルモ到底缺席判決ヲ覆ヘスノ  
望ミナキトセバ寧ロ初ヨリ控訴ヲ起スノ速ニ辨スルニ若カズ故テニ  
故障ノ期限ノ經過ヲ待ツ必要ナケレバナリ

天災又ハ止ムヲ得ザル處ノ事變ニ依リテ控訴期限ノ經過セル場合ハ  
先キニ説明セシ如ク必竟被告人ノ怠慢ヨリ生シタルニアラザルヲ以  
テ此場合ニ於テハ止ムヲ得ス具サニ其原因ヲ裁判所ニ申立テ、其控  
訴ノ受理ヲ請求セザルヲ得ス(二百四十七條)然ラバ何レノ裁判所ヘ其  
請求ヲ爲スカト云ハ、原判決ヲ受ケタル第一審裁判所ニ願出スベキ  
モノナリ然ルニ原裁判所ニ於テハ尙ホ失權ナリトノ判決ヲ與ヘタル  
事ハ如何被告人ハ飽マテ己レノ權利ヲ伸張スル爲メ原裁判所ノ決定

ニ對シ抗告ヲ爲シ控訴權ノ回復ヲ計ルコトヲ得ルナリ

第二章 上告

上告ノ性質 上告トハ何ツヤ曰ハク地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ビ第八十七條ニ規定シタル管轄違ヒ又ハ公訴受理スベカラザル處ノ申立ヲ却下シタル言渡ニ對シテ之レヲ爲スモノトス一言ニ言ハ、第二審ノ判決ニ對シテ爲ス處ノ攻撃方法トス然ラバ區裁判所ノ上告ハ何レノ裁判所ニ申立ツルカト云ハ、即チ控訴院ニ於テ之レヲ管轄ス今上告ノ性質ヲ分拆セバ左ノ如シ

第一事實ノ調査ヲ請求スルニ非スシテ法律ノ判定ヲ請求スルニアリ故ニ大審院ハ第三審ト云フベキモノニ非ラズ  
第二上告ハ判決ノ性質ヲ帶ヒタルモノニ對シテ爲スヲ得故ニ判決ノ性質ヲ帶ヒザル彼ノ諸般手續ノ決定ノ如キハ前數回ニ於テ屢々述ベタル如ク抗告ト云ヘル上訴方法ニ依頼スルノ

ニ上告ヲ爲スベキモノニ非ラズ

上告ヲ爲シ得ル人 上告ヲ爲シ得ル權利ヲ有スル者ハ其事件ニ付テ利害ノ關係ヲ有スルモノ即チ被告人ハ素ヨリ檢事民事原告人及ヒ民事擔當人辯護人等ナリ而シテ被告人ノ法律上代理人ハ本人ノ權利ヲ保護スルモノナレバ是レ亦タ上告ヲ爲スヲ得二百四十二條、二百四十三條、二百四十四條參看

上告ノ原因ハ如何 曰ク上告ハ原裁判ガ法律ニ違背シタルヤ否ヤヲ判決スルニアルヲ以テ主タル上告ト附帶ノ上告トニ論ナク其所謂法律ニ違背シタル所ノ原因ナルモノヲ法律ニ明示シ上告者ヲシテ憑據スル處アラシメザルヲ得ズコレ二百六十九條ノ設ケアル所以トス本條ニ依レバ都合十個ノ場合ヲ列記セリト雖モ理論ニヨリテ違法ノ原因ナルモノヲ推斷スルヲ得バ第一越權第二法式違第三法律ノ誤解若クハ誤用ニ歸着ス然ルニ法律ガ特ニ此レヲ分載シタル所以ハ斯ク

漠然ト規定スルルハ複雑多端ナル事件往々上告ノ範圍ニ入ルヤ否ヤニ付疑義ノ生センコトヲ恐レ立法者ハ之レヲ叮嚀ニ區別シテ十個トセルニ過ギズ乍併此場合ハ先キニ述ベタル三個ノ原則ヨリ胚胎セルコトヲ記憶セザルベカラズ

以下進メテ法律ニ規定セシ場合ニ付テ解釋セシ

第一、規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシト

法律ニ從ツテ組織シタル裁判所ニアラザレバ之レヲ裁判所ト云フヲ得ズ既ニ裁判所ト見ルヲ得ザレバ其下シタル裁判モ從ツテ真正ナル裁判ト云フコトヲ得ズ故ニ之ニ對シ上訴シテ其裁判ヲ覆スコトヲ許スハ當然トス

第二、法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル刑事裁判ニ干與シタルルル

裁判官ガ職務ノ執行ヨリ除斥セラレトハ則チ其刑事ヲシテ裁判ニ

干與セシムレバ或ハ不公平ニ陥リ或ハ理ヲ非ニ枉クル等ノ嫌疑アルヲ以テトス然ラバ斯クノ如キ嫌疑者ガ其裁判ニ關係シタリトセバ其裁判ハ不正不當ノ裁判タルノ疑ヲシテ益々固カラシム故ニ上訴シテ其裁判ヲ覆スコトヲ許スハ當然トス

第三、刑事忌避セラレ其忌避ノ申請ヲ理由アルト認メタルニ拘ハズ裁判ニ參與シタルル

凡ソ訴訟關係人ガ其刑事ヲ忌避スルルハ刑事タルモノハ宜シク其徳義ヲ重シヨ其事件ニ與ルコトヲ避ケザルヲ得ズ然ルニ之レニ拘ラズ干與スルルハ前項ニ説明シタルト同一ノ理由ナルヲ以テ元ヨリ上告ノ原因トナルハ當然トス

第四、裁判所ニ於テ其管轄又ハ管轄違ヒテ不當ニ認メタルル

裁判管轄ノ事ニ付テハ予輩之レヲ第二編ニ説明ス故ニ述ブルノ必要ナシ而シテ此右ノ裁判管轄ノ事タル重要ナリ若シ夫レ裁判所ハ公ケ



ノ秩序ヲ守ラズシテ不當ナル認定ヲ下シタリトセバ私益ニ至テハ冤ニ角ニ公益ノ上ヨリ論斷シテ大ナル不都合アリトス仍之訴訟關係人ヲシテ上告ヲ利用シテ之レヲ破毀シ正當ノ管轄ニ仍ラシムルコトハ當然トス

第五法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セザルトキ

公訴ヲ受理スベカラザル場合ハ百六十五條ニ規定ス本條ニ付テ一例ヲ舉グレバ大赦ノ恩命ヲ受ケタルモノニ付テ公訴ヲ受理スル如キ場合ハ則チ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルモノニシテ之レニ反シテ未ダ大赦ノ恩典ヲ受ケザルニ裁判官ハ刑ノ消滅アリトシ其公訴ヲ受理セザル場合ノ如キハ則チ法律ニ背キ公訴ヲ受理セザル場合ナリ元來受理スヘカラザル事件ヲ受理シタルキハ則チ善良ナル人民ヲ傷ケタルモノニシテ受理スヘキ事件ヲ受理セザレバ則チ法律ノ効用ヲ滅殺シタルモノトス二ツナガラ畢竟違法ニ屬ス上告ノ原因トナルハ明白ナリ

第六法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聞カザリシトキ

檢事ハ公權ノ代理者ナレバ公判ハ素ヨリ豫審ト雖モ法律ハ多ク檢事ノ意見ヲ聞クヘキコトヲ裁判官ニ命セリ素ヨリ裁判官ハ己レノ良心ニ從ヒ不羈獨立ノ意見ヲ以テ裁判スル權利アルヲ以テ檢事ノ意見ニ反對シテ裁判ヲ下スハ自由ナリ然レモ檢事ノ一言一句ハ苟クモ公權ノ代理者タル資格ヲ以テ陳辯スルモノナレバ裁判官タルモノ豈之レヲ輕忽視スベケンヤ宜シク法律ノ命令ヲ奉テ其意見ヲ聞カザルヲ得ズ然ルニ此場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聞カザリシキハ判事ハ法律ヲ蔑如シタルモノニシテ違法タル言ヲ待タズ上告ノ理由トナルコトハ當然ナリ

第七裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サズ又ハ職權ヲ以テ判決スベキ場合ヲ除クノ外請求ヲ受ケザル事件ニ付裁判ヲ爲シ

タルトキ

解スル者云ハク本項ニ云フ請求ヲ受ケザル事件トハ例ヘバ爰ニ窃盜罪ノ控訴アリタリトセンニ裁判官之レヲ放棄シテ敢テ判決ヲ下サ、ル等ノ如シトサレドモ斯ノ如キ場合ハ逆モ上告破毀等ノ制裁ニ止マラズ裁判官ハ刑事ノ制裁ヲ受クベキモノナレバ元ヨリ包含セザルベシ然ラバ本項ニ云フ請求ヲ受ケタル事件ニ付テ判決ヲ爲サ、ル場合トハ如何ナル場合ヲ云フヤト請フ一例ヲ擧ゲン

公判辯論中被告人ハ數種ノ請求ヲ爲セリ然ルニ裁判官ハ其中ノ二三ニ就テハ判決セシモ他ノ請求ニ付テハ判決セザル等ノ場合ヲ云フモノナラン又請求ヲ受ケザル事件ニ付判決ヲ爲シタル事件トハ所謂不告不理ノ原則ニ背キシモノニシテ此等ヲ名ケテ越權ノ處分ト云フ故ニ二ツナガラ上告ノ原因トナルヤ當然ナリ然レトモ彼ノ附帶事件ニ於テハ檢事ノ訴求ナシト雖審理ニ着手スルヲ得ルヲ以テ此場合ニハ

越權ニアラズ仍テ上告ノ原因トスルヲ得ザルナリ

第八判決ヲ公行セズ又ハ公開ヲ禁ズル言渡ナクシテ辯論ヲ公ケニセザリントキ

裁判ノ公開ト判決ノ公行トハ裁判ノ公平ナルコトヲ保證スル手段ナリ仍テ裁判官ハ亂リニ裁判ノ公開ヲ禁ズルヲ得ズ若シ夫レ此レヲ公開セズシテ而シテ與ヘタルノ裁判ナルハ此レニ對シテ信用ナシ此レ上告ノ原因タル所以トス但シ彼ノ事公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ルト云フ如キ場合ハ公開スルヨリハ反ツテセザルヲ以テ得策トスルヲ以テ如此キ場合ハ敢テ之レヲ公開セザルモ上告ノ原因トナラザルナリ

第九裁判ニ理由ヲ付セズ又ハ其理由ノ齟齬アルハ凡ソ裁判々決ニハ事實上ノ理由ト法律上ノ理由トヲ記載セザルベカラザルコトハ屢々詳論セシトコロナリ即チ裁判官ハ被告人ニ對シテ先ツ被告が罪跡情狀トナ明記シ次ニ法律ノ適用ヲ示サバ大審院ハ之

レヲ破毀スル權ナシ再言スレバ事實上ノ理由ト法律上ノ理由ト相待  
ツテ初メテ完全ノ言渡トス故ニ苟クモ刑ノ言渡ニシテ事實ト法律ノ  
正條ト相適合セル以上ハ原裁判ヲ認可スルノ外ハ如何トモスル能ハ  
ズ然ルニ裁判官ハ動モスレバ其理由ヲ脱洩スルノ場合ナシトセス又  
判決文ノ書キ方ニ依リテハ理由ヲ付シタル如キ觀アレモ文旨空漠ト  
シテ根據ナキガ如ク見ユル等ノ場合モアリ又此判決ニ付シタル理由  
ハ動モスレバ事實ト法律ト齟齬スルガ如キコトモアリ兎ニ角惣テ此  
等ノ場合ハ原判決ニ幾分ノ粗漏迷誤アルヲ以テ上告ノ原因トナルハ  
當然トス

第十擬律ノ錯誤アルトキ

擬律トハ裁判官ガ法律ヲ按シテ而シテ此レテ事實ニ適用スルコトヲ  
云フ故ニ一考スレバ財ヲ盜メハ竊盜ノ刑ヲ科シ妻ヲ姦セバ有夫姦ノ  
刑ヲ科セバ事足ル擬律ノ錯誤得テ生セザルガ如シ然レドモ複雜繁難

ノ所爲ヲ決スルニ當リ簡單ナル法文ヲ以テ之レニ適用セントセバ如  
何ニ經驗ニ富ミタルノ裁判官ト雖モ豈又迷誤ナシトセンヤ今日多ク  
上告ノ爲メ裁判ガ破ル、ハ擬律ノ錯誤ヨリ來ルナリ

以上列述シタル十個ノ場合ハ即チ上告ノ原因トナルナリ然ラハ此ノ  
以外ニハ上告スルヲ得ザルカ換言セバ上告スルヲ得ベキ場合ハ右ノ  
十個ニ制限セラル、ヤ否ヤト云フニアリ此問題ニ付テハ學者間ニモ  
多少ノ議論アリ

或人曰ク元來二百六十九條ハ制限的文法ニアラズ即チ示例的文法ト  
ス若シ之レヲ以テ制限的文法ト斷定スルハ大ナル不都合ヲ生ス假  
令ハ區裁判所ノ公判ニテハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ハ少ナクモ二  
日ノ猶豫ヲ與ヘザルベカラス然ルニ裁判所ハ不當ニモ此ノ猶豫ヲ與  
ヘザリシ場合ニ於テハ被告人ハ己レノ利害ニ關係アルヲ以テ裁判所  
ニ異議ヲ申立ツル可シ然レモ若シ裁判所ニ於テ此異議ヲ採用セザル

此ハ被告人ハ如何ニシテ己レノ失ヒタル利益ヲ回復スベキカ依テ如  
此キ場合ニ於テハ本條十個ノ場合ニ適中セザレモ宜シク上告ヲ許サ  
ルヘカラズ畢竟スルニ二百六十九條ハ唯タ其例ヲ示シタルモノニ  
シテ決シテ上告スル場合ヲ十個ニ制限シタルニアラズト乍併此論據  
タルヤ稍ヤ廣漠ニ失スルノ嫌アリ若シ夫レ論者ノ說ニ從ハソカ被告  
人ニ利益ナル場合ハ彼レ此レヲ問ハズ何レモ上告ノ原因トナルカ如  
キ結果ヲ來スニ至ラン勢ヒ如此クナルハ甚ダシク裁判ノ延滞ヲ醸  
スル弊ヲ生セン論者ハ二百十五條ノ場合ヲ引用シ二日ノ猶豫ヲ與ヘ  
ザルヲ以テ利益ヲ害スルニ至ルト喋々スレモ此ノ引例ノ如キハ左迄  
被告人ノ利益ヲ傷ケタリト云フベカラズ故ニ予輩ノ見ル處ニヨレバ  
二百六十九條ハ制限的日文ニシテ此以外ニ上告スルノ理由ナキモノ  
ト解釋スルヲ以テ妥當ナリト信ス熟ラ法律ヲ案スルニ上告ヲ許シタ  
ルノ大原則ハ二百六十八條トス而シテ本條ニヨレバ法律ニ違背シタ

ル裁判ナルハ上告ヲナスコトヲ得トアリ而シテ立法者ハ法律ニ違  
背シタル云々ノ文字ハ未ダ其場合ヲ盡サ、ルモノトシ次條ニ於テ此  
レヲ明白ニ限定シ訴訟關係人ヲシテ儼如トシテ憑ル處アラシメタリ  
立法者ハ以爲ラク二百六十九條ニ列スル十個ノ場合ハアラユル違法  
ノ場合ヲ網羅セリト信シタルコト明白ナレバ本條ヲ以テ示例的ニア  
ラズト斷定セザルヲ得ズ  
二百七十條ニ依レバ被告人が免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ  
ハ裁判所が被告人ノ利益ノ爲メニ設タル規定ニ背キ又ハ土地ノ管轄  
違アリト雖決シテ上告ヲ許サザル、コトヲ規定ス其故何ヤ曰ク彼  
ノ利益ナクレバ訴權ナシト云ヘル羅馬法以來ノ大原則ヲ此處ニ適用  
シタルニ過ギズ他ナシ苟シクモ被告人が免訴トナリ若シクハ無罪ノ  
言渡ヲ受ケタルハ少シク裁判所が方式ニ背キタリトモ之ニ對シテ  
不服ヲ鳴ラシ何ノ利益カアル凡ソ控訴ノ仍ツテ生ズル所以ハ被告人

が利益ヲ回護スル場合ニ生ズ果シテ然ラバ回護スベキ利益ナケレバ所謂勞シテ功ナキモノニシテ如何ンゾ上告權ノ生ズル理由アラシヤ尙又一ツノ注意スベキハ二百六十九條ノ十個ノ原因ハ素ヨリ公訴ニ於ル上告ノ原由トナルモノナリ乍併若シ此等ノ原因私訴ノ判決ニ存在セバ如何曰ク違法ノ裁判ヲ攻撃シ其改正ヲ望ム點ニ於テ彼二者軒輕スルトコロアラズ故ニ私訴ニ於テモ上告ノ原因トナルベシ以上ニテ通常上訴ヲ説了セルヲ以テ以下ニハ非常上訴ノ細別ニ入ルベシ

第三章 抗告

抗告ナルモノハ舊治罪法ニ無カリシテ現行刑事訴訟法ニ於テ始メテ制定シタルモノトス抑抗告ハ刑事訴訟法二百九十三條以下ニ規定セル如ク法律上特別ニ許サレタル場合ニ裁判所又ハ豫審判事ノ爲シタル手續又ハ決定ニ對シテ不服ヲ述ブル所ノ一ノ方法ナリ再言セバ其

性質ハ本案事件ノ判決ニ至ル各種ノ手續ニ付テノ判定ニ對スルモノニシテ其事件ハ未ダ裁判所ノ手ヲ脱セザル場合ニ起ルモノトス故ニ前段ニ述ベタル所ノ控訴トハ大ヒニ其性質ヲ異ニス請フ其差異ヲ列叙セシ

- 第一、控訴ハ本案ノ第一審又ハ他ノ判決ニ對シテ爲スモノナレドモ抗告ハ本案ノ判決外ノ種々ナル手續ノ決定ニ對シテ爲スモノトス
  - 第二、控訴ハ一般ニ許サル、モノナレドモ抗告ハ只法律ガ許與シタル場合ニ爲シ得ルノミ
  - 第三、控訴ニ對シテ與ヘタル判決ハ更ラニ上告ヲナスコトヲ得レドモ抗告ニ對シテ與ヘタル決定ハ上告ヲナスヲ得ズ
  - 第四、控訴ノ裁判ハ口頭辯論ニヨリ之ヲ爲スモ抗告ノ裁判ハ書類ニヨリテ之レヲナス
- 以上トス而シテ右第二ノ差異ニ於テ示スガ如ケレバ抗告ヲ許ス場合

ハ刑事訴訟法ニ散見スルモノ左ノ如シ

第一○忌避ノ申立ヲ棄却シタルノ決定(四十二條)

第二○證人又ハ鑑定人ガ故ナク出頭セザルヲ以テ罰金其他ノ刑ヲ受ク

ルノ決定(百十八條、百九十條、百三十六條)

第三○證人又ハ鑑定人ガ宣誓ヲ拒ムカ又ハ宣誓セザルモ陳述ヲ肯セザ

ル場合ニ於テ罰金ノ刑ヲ受クベキ決定(百二十六條、百三十八條)

第四○重罪ノ公判ニ附スル豫審終結ノ決定(第七十二條)

第五○控訴院ニ於テ控訴期間ヲ過ギタリトシテ棄却スルノ決定(二百五

十五條)

第六○原裁判所ニ於テ期限ノ經過ニ依リ上告ヲ棄却シタルノ決定(第二

百七十六條)

第七○刑ノ言渡ヲ受ケタル其ノ言渡ニ對シテ疑義ノ存スル時又ハ刑ノ

執行ニ付キ異議アル時此ノ申立ニ對シテ爲シタル決定(三百二十

二條)

以上七個ノ場合アリトス而シテ右第二ノ場合若クハ第三ノ場合等ハ  
舊治罪法ニ於テハ少シモ攻撃スルノ途ナカリシナリ然ルニ現行法律  
ハ抗告ナル手段ヲ設ケテ之ヲ許セリ是レ則チ現行法ガ一ノ改良ヲナ  
シタルガ如シ蓋シ豫審處分ハ素ヨリ未決中ナルヲ以テ可成早ク事件  
ノ落着スルコトヲ目的トセザルベカラズ故ニ豫審ヲ早ク終結セント  
スルノ目的ヨリ言ハ、抗告ヲ許サ、ルノ勝ルニ若カズト雖彼ノ豫審  
判事ノ誤リヲ正シ人民ノ權利ヲ充分擴張セシメントスル方ヨリ論ズ  
レバ抗告ヲ許スノ正當ナルヲ信ズルナリ

然ラバ訴訟關係人ノ權利ヲ保護スルニ偏シテ論スレバ豫審ニ於ケル  
百般ノ處分ニ對シテ抗告ヲ許スベキ論結ヲ生ズベシト雖元來豫審處  
分ナルモノハ他ノ處分ト異ニシテ實ニ臨機急速ヲ要スル場合甚ダ多  
シ故ニ又濫リニ擴充スベカラザレバ舊法ニ於テハ豫審終結前種々ナ

ル處分ニ對シ故障ヲ爲シテ攻撃スルコトヲ許セシモ現行法ハ悉ク此  
 レヲ削除セリ此レ刑事訴訟法立法者ガ用心ノ如何ヲ見ルニ足レリ  
 抗告ヲナス手續及期限 抗告ヲ爲サント思フルハ其申立書ヲ裁判所  
 ノ決定ニ對シ爲ス場合ハ其裁判所へ出スベク又豫審判事ノ決定ニ對  
 シテナスルハ豫審判事ニ差出サ、ル可ラズ  
 右抗告ヲ受理シタル裁判所又豫審判事ハ其申立ハ理由アリト認定シ  
 タルルハ其決定ヲ更正スルヲ當然トス之レニ反シテ被告人ノ抗告ハ  
 謂ハレナキモノト認定シタル場合ハ此レニ意見ヲ付シテ而シテ抗告  
 申立書ヲ抗告裁判所ニ送ラザル可カラズ  
 此等ハ二百九十六條ニ示ス處ノモノトス元ヨリ抗告ハ被告ノ利益ヲ  
 保護スル爲メナレバ別ニ抗告裁判所迄出デズシテ直チニ原裁判所ニ  
 テ之レヲ得ルルルハ便且ツ速ナルベシ故ヲ以テ裁判官ハ抗告ノ主旨ヲ  
 審査シ申立至當ナリトセバ決定ノ誤ヲ改ムルニ吝ナル可ラズ然レモ

若シモ裁判官ハ誤謬ナシト決定セバ其理由ヲ開陳シ抗告裁判所ニ書  
 類ヲ送致セザルベカラズ仍之抗告裁判所ナルモノモ原裁判所ノ決定  
 シタル理由ノ如何ヲ明瞭ニスルコトヲ得テ極メテ公平ナル判決ヲ下  
 スコトヲ得ベキナリ

然ラバ抗告裁判所トハ如何ナル裁判所ナルカト云フニ二百九十二條  
 ニ示ス如ク直近上級裁判所ナリ一例ヲ擧ゲテ説明スレバ京都地方裁  
 判所ノ決定ニ對シテノ抗告ハ則大坂控訴院ニ爲スガ如キ是レナリ  
 抗告ノ期限ハ二百九十五條ニヨリバ即チ三日間トス而シテ其起算點  
 ハ決定書ノ送達シタル日ヨリ起算スルコトナレリ  
 抗告ノ効果 抗告ノ申立アレバ原判決ノ執行ヲ停止スルヤ否ヤ停止  
 スル明文アル場合モアリ或ハナキ場合モアリテ一定セズ其停止スル  
 コトヲ明示セル法文ハ左ノ如シ

第一 證人鑑定人が呼出ニ應ゼザルルニ罰金ノ刑ヲ言渡スノ決

定ニ對スルノ抗告(百十八條參看)

第二 宣誓ヲ肯ンゼザルニ依リテ罰金ノ刑ヲ言渡シタル決定ニ對スル抗告(百二十六條參看)

第三 豫審終結ノ決定ニ對スル抗告(百七十四條參看)

以上ノ場合トス元來原則ヨリ論定スルハ抗告ハ非常的上訴ニシテ通常ノ上訴ニアラザレバ當然裁判執行ヲ停止スベキモノニアラザルナリサレドモ右引叙ノ場合中第一第二ノ場合ノ如キハ眞箇ノ裁判ト云フベカラズ寧ロ豫審判事ノ權内ニ屬スル一種ノ取締處分トモ云フベキモノナレバ嚴格ニコレテ執行スルハ少シク穩當ヲ缺クガ如シ故ニ抗告アレバ其執行ヲ停止スル所以トス又第三ノ場合ノ如キハ抗告アルニモ拘ハラズ原裁判ヲ執行スルハ甚シキ不都合ヲ生ズルコトアルガ故ナリ例ヘバ被告事件ハ免訴ノ決定ヲ受ケタルモ檢事コレニ對シテ重罪公判ニ付スベキモノナリト抗告セル場合ニ於テ尙ホ原裁判

ヲ執行シ之レヲ放免セシカ若シ檢事ノ抗告通過セバ再ビ被告人ヲ逮捕スルノ困難モアルベク又檢事ノ抗告セルヲ知ルガ故ニ出來得ベキ丈ケハ證據ノ湮滅ヲ謀ルベシ是等ノ不都合アルヲ以テ不得止法律ハ此ノ如キ例外ヲ設ケタルモノトス而シテ彼ノ例外ハ擴張スベカラザルノ原則アレバ此他ニハ裁判ノ執行ヲ停止スル場合ナキト知ルベシ然レモ如此ク論定セバ奇怪ナル結果ヲ呈スル場合アリ一例ヲ舉グレバ判事が回避ノ申立ヲナセリ然ルニ裁判所ハ此申請ヲ棄却スルノ決定ヲナセリトセヨ裁判官ハ飽迄己レノ職務ヲ重シ抗告スルヤ必セリ此場合ニ於テ法律ニ明文ナキノ故ヲ以テ強テ其裁判ニ列席セシメンカ裁判官ハ中心甚ダ疚トスルモノアラン好シ裁判官ハ襟度寛大ニシテ假リニ列席スルニセヨ若シモ判事ノ抗告正當ニシテ通過スルハ其判事ノ列席シタル間ノ取調ハ始メヨリ其審理ヲ仕直ザルヲ得ザル事トナル此レ寔ニ不都合ナリトス



右ノ如キ不都合ノ結果ヲ生ズルト雖此レ法律ノ不備ノミ執法官タル  
抗告裁判所ハ右ノ不都合ヲ知ルモ又如何トモナス能ハザル可シ  
抗告裁判所ニ於テ抗告ヲ受理シテ裁判ヲ與ヘタルモ矢張不利益ナル  
トハ又之レニ對シテ抗告スルコト得ルヤ否ヤ換言スレバ抗告ヲ再ビ  
スルコトヲ得ルヤ否ヤ二百九十四條第二項ハ答ヘテ曰ク再ビスルヲ  
得ズト此レ全ク抗告ノ濫用ヲ拒クノ法意ニ外ナラザルナリ  
併シナガラ本條ハ絶對的ニ之レヲ解スルヲ得ズ熟テ本條ヲ按スルニ  
抗告裁判所ノ判決ニ對シテハ抗告申立人ヨリ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ  
得ズト云フニアリ仍テ反對推理法ヲ用ユルトハ抗告申立人以外ノ訴  
訟關係人ハ抗告裁判所ノ判決ニ對シ更ニ抗告ヲ爲スヲ得ルト云フニ  
歸着スベケレバナリ

而シテ此抗告裁判所ガ抗告ヲ理由アリト認メタルトハ三百條ニ從ヒ  
原裁判ヲ取消シテ更ニ相當ナル裁判ヲ與フルモノナリ併シナガラ抗  
告ノ理由ナシト認メタル場合ハ二百九十九條ニ從ヒ其抗告ヲ棄却ス  
此レ即チ抗告ノ最終ノ結果トス

第四章 非常上告

非常上告ノ性質 非常上告ノコトハ載セテ二百九十二條ニアリ本條  
ノ主旨ヲ略言スレバ上訴期限後違法ノ裁判ヲ訂正セシムルノ方法ヲ  
與フルニアリテ法律上錯誤存スルトキ確定判決ノ効力ヲ打破スル場  
合ノ一ナリ今皮想上ヨリ之レヲ觀察スレバ既ニ控訴抗告ノ途アリ上  
告ノ方法アリテ雪冤ノ門戸モ大ヒニ開ケタリト云フベシ然レモ一方  
ヨリ考フルトキハ脆弱ナル人情上訴ノ拒絶法ニ憑ラズ時ニ或ハ冤枉  
ヲ甘受スルモノナキニアラズ殊ニ人事ノ紛亂錯雜ハ文明ト共ニ比例  
的ノ進歩ヲ爲スモノナルガ故ニ裁判官ハ如何ニ良心ニ訴ヘ謹厚慎重  
以テ適當ノ刑ヲ課セントスルモ或ハ得ベカラズ故ニ被告人ハ之レニ  
屈セズ臆セズ上訴スルモ原裁判ニ打勝ツヲ得ズ空シク迷誤ノ雲霧ニ

覆ハル等實ニ筆舌ノ能ク盡シ能ハザル場合アラン於是歟各國至ルト  
シテ非常上告ノ法ヲ設ケタリ我刑事訴訟法ニ此規定ヲ設ケタル亦此  
理由ニ外ナラズ讀者乞フ再思セヨ

二百九十二條ニ依ルニ即チ法律ニ於テ罰セザル事項ニ對シ刑ヲ言渡  
シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ法定ノ期間内ニ  
上訴スルモノナクシテ其判決確定シタルルハ第一審ニ於テ又ハ第二  
審ニ於テシタルトテ問ハズ其事件ニ付上告ヲ受クル權アル裁判所檢  
事ハ職權ヲ以テ又ハ司法大臣ノ命ニ依リ何時ニテモ上告ヲ爲スコト  
ヲ得ルナリ依之即チ非常上告ナルモノハ確定シタル裁判ニ對シテ爲  
スコトハ一ノ必要ナル條件トス

非常上告アリタルルハ上告裁判所ハ非常上告ヲナス理由アリト認ム  
ルルハ此レテ他ノ裁判所ニ移スコトナク直チニ此レガ裁判ヲ下スモ  
ノナリ要スルニ非常上告ナルモノハ法律ノ適用ヲ誤リタルルニ於テ

爲スモノニシテ事實ノ覆審ヲ必要トセザルヲ以テナリ  
非常上告ノ手續ニ付テハ別ニ規定スル處ナキヲ以テ檢事ハ唯々通常  
上告ノ手續ヲ採用スルハ足レリトス

然レドモ爰ニ注意スベキ要點アリ則チ此ノ非常上告ナルモノハ如  
何ナル理由ヲ以テ之レヲ設ケタルヤト云フニ則チ被告人ノ利益ノ爲  
メニ設ケタルモノナリ故ニ被告人ノ不利益ナル場合假令ハ或ル犯罪  
ニ付テハ必ず重罪ヲ科スルノ必要アルコトモ拘ハラズ之レニ輕罪ヲ科  
シタルトセバ社會ハ懲戒ノ目的ヲ達スル能ハズ又十分ニ已レガ被リ  
タル損害ヲ償フニ至ラザルベシト雖如此キ場合ニハ決シテ非常上告  
ヲ許サズ何トナレバ此等ハ社會公權ノ代理者タル裁判官檢事ノ過失  
ノ爲ニ其損害ハ社會が負擔セザルベカラザレバナリ  
爰ニ學者ノ參考ニ便セシ爲メニ通常上告ト非常上告トノ區別ヲ以下  
ニ掲記セシ

非常上告通常上告ノ區別ハ左ノ如シ

- (一) 非常上告ハ上告裁判所ノ檢察ガ獨リ爲シ得ベキモノナレモ通常上告ハ總テノ訴訟關係人之レヲ爲シ得ベキナリ
- (二) 非常上告ナルモノハ判決確定後之レヲ爲スベキモノトス然ルニ通常上告ハ確定セザル第二審ノ判決ニ對シ爲シ得ルナリ
- (三) 非常上告ハ判決確定セシ後何時ニテモ爲スモノナレバ其期限ヲ定ムルヲ得ズサレドモ上告ハ則チ第二審ノ裁判アリタルト又ハ判決書ノ送達アリタル日ヨリ起算シ三日ノ期限内ニナスベキモノトス

第五章 再審

再審ノ性質 再審ハ事實上ノ錯誤存スル場合ニ於テ其確定シタル判決ニ對シテ破毀ヲ求ムル處ノ訴ナリ

蓋確定判決ナルモノハ非常ノ勢力ヲ有スルモノニシテ決シテ容易ク之ヲ動かスベキニアラザル事ハ既ニ公訴權用盡ノ部ニ於テ之ヲ詳論

セリ然レモ非常上告ヲ設ケタル理由ト同ク被告ハ不當ノ裁判ニ對抗スル上訴方法アレバコレヲ利用スルニセヨ社會ノ凡百無數ノ事實ハ假令裁判官ハ如何ニ熱血ヲ注グモ遂ニ五里霧中ニ彷徨セシメ黑白混淆シテ被告人ノ不利益ニモ確定スルガ如キナキヲ保セズ事情如此ナレバ實ニ被告人ノ地位憐ムベシ然ルニ之ヲ顧ミズシテ放任セシテ乎法律ハ人ヲ保護スルノ道ニ悖ラン此ヲ救正スルノ方法トシテ非常上告ノ法式ニヨランカ否決シテ爲シ能ハズ何トナレバ彼レハ法律ノ錯誤ヲ救正スルニアリ事實ノ錯誤ハ得テ關スル處ニアラズ仍テ立法者ハ爰ニ再審ノ制度ヲ設ケテ以テ事實ノ誤判ヲ釐正スルノ方法トナセリ故ニ讀者ヨ須テク非常上告ハ法律上ノ錯誤ヲ正スニアリテ再審ハ事實上ノ錯誤ヲ正スニアルコトヲ忘ル勿レ要スルニ此二者ハ共ニ被告人ノ利益ヲ保護スル點ハ一ナレモ其因ツテ來ルトモロ相同カラザルナリ

然ルガ故ニ假令ハ強盜被告事件ナルヲ裁判官誤テ竊盜罪ナリト判決セシトキハ檢事ハ再審ノ訴ヲ起シ得ルヤ曰ク如斯場合ハ決シテ再審ノ原因トナラザルナリ其故如何曰ク如斯場合ハ必竟判事檢事ノ誤謬ヨリ來ルモノナレバ其制裁ノ不足ヨリシテ社會ハ十分ニ自懲他戒ノ目的ヲ達シ得ザルニセヨ其損失ハ社會自身ニ於テ之ヲ負ハザルベカラズ此ヲ被告人ニ販セシメントスルハ既得ノ利益ヲ害スル實ニ酷ナリト云ハザルベカラズ格言ニ云ハズヤ重キニ失スルヨリハ寧ロ輕キニ失セヨト故ニ少シク輕キニ失セリトシテ直ニ再審スルガ如キハ條理ノ許サレトコロナリ仍之被告人ノ不利益ナル場合ニノミ再審ヲ許スベキナリ

右ニ述ブル如ク再審ノ訴ハ被告人ノタメニ利益ヲ保護シ名譽ヲ回復セシムル處ノ手段ナリ而シテ名譽ナルモノハ其人ノ生存中ナルト死亡後ナルトヲ問ハズ常ニ貴重スベキモノトス故ニ再審ノ訴ハ被告人

死亡後ト雖親族ノ者之ニ代リテナシ得ベキヤ必然ナリ  
再審ノ訴ヲナシ得ベキ人 三百二條ニ明示ス則左ノ如シ

第一刑ノ言渡ヲナシタル裁判所ノ檢事

第二刑ノ言渡ヲナシタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事

第三刑ノ言渡ヲナシタル裁判所ヲ管轄スル上告裁判所ノ檢事

但司法大臣ノ命ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲナスベシ

第四刑ノ言渡ヲ受ケタルモノ

第五刑ノ言渡ヲ受ケタルモノ死去シタル時ハ其親族

再審ノ訴ヲ爲シ得ル場合ハ左ノ如シ

(一)人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ言渡アリタルモ其殺サレタリト見認ラレ

シモノ犯罪後生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタル時

此場合ニ於テハ素ヨリ裁判官ハ事實ヲ誤認シテ不當ニモ無罪者ヲシ

テ刑ニ苦シメタル事明カナルヲ以テ再審ノ訴ヲ許スベキヤ當然ナリ

(二) 同一ノ事件ニ付共犯ニアラズシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受タルモノアリタルトキ

此場合ハ意味明白ナレバ別ニ説明スルノ要ナシ

(三) 犯罪アル以前ニ作りタル公正證書ヲ以テ當時其場所ニアラザル事ヲ證明シタルトキ

右ハ公正證書ガ反對ノ證據アリタル場合ヲ豫見シタルモノナリ假令ハ被告ハ明治廿五年七月廿二日箱館ニ於テ罪ヲ犯シタリト云フノ故ヲ以テ刑ヲ受ケタリ然ルニ本人ハ曾ツテ同年同月同日ハ長崎ニ在留セシ事ヲ證明スルニ足ルベキ證書アリ其證書ハ公證人ノ作りタル公正證書ニシテ而カモ被告ハ對手者ト契約ノ爲メ當日公證人役場ニ出頭シタル事迄ヲ明記セル如キトキトス

此ノ如キ場合ハ被告人ノ爲メニ無罪ナルコトヲ證明スルノ効力アリ何トナレハ公正證書ナルモノハ實ニ十分ノ効力アルモノニシテ偽造

變造ノ訴ヘアルニアラザレハ日付ハ勿論總テノ部分ハ確實ナルモノト認定セラル仍之本例箱館裁判所ノ判セシ事實ヲ打消スノ材料トスルニ足レルヲ以テ再審ノ訴ヲ許スニアルナリ

爰ニ注意スベキハ犯罪以前ニ作りタル公正證書ニ限り再審ヲ申立ツル材料トナルベシト雖モ若シ犯罪以後ニ作りタル證書ナルハ如何同一ニ効力アルヤ曰ハク或ハ云ハン日付ノ後ナルモノハ殊更ニ再審ヲ申立ツルガ爲メ作りタルヤノ嫌ヒアレバ再審ヲ申立ツルノ材料トナスニ足ラズト然レドモ余輩ヲ以テ見レバ公正證書ニシテ確實ナレバ十分ノ信用ヲ措クニ足ルベク日付ノ前後ニヨリ證明ノ効力ニ強弱アルノ理ナシ故ニ再審ヲ申立ツル原因トナルヤ疑ヲ入レズ

(四) 被告人ヲ陷害シタル罪ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアルトシ假令ハ證人が惡意ヲ以テ無實ノ事ヲ申立タル爲メニ被告人ハ刑余ノ人トナレリ然ルニ後日ニヨリ證人ハ全ク虛偽ノ陳述ヲ爲シテ被告人

ヲ陷害シタルモノナリトノ證據漸々備ハリ證人ハ刑法二百二十條ノ刑ヲ受ケ其裁判確定シタリトセバ即チ前裁判ハ事實ヲ誤認シタルコト明白ナルヲ以テ再審ノ原因トナルナリ

(五)公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アル場合ヲ證明シタルトキ

此項ニ付テハ少ク疑點アリ他ナシ此項ニ云フ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明スル處ノ公正證書トハ則チ訴訟記録調製以前ニ作リタルモノヲ指シタルモノナルヤ將タ其以後ニ作リタルモノモ包含スルヤ又ハ態々偽造タルコト又ハ錯誤タルコトヲ證明スル爲ニ作リタルモノナルヤ否ヤト云フコトコレナリ然レドモ法文ヲ見ルニ少シモ此等ノ場合ニ付テ指定ノ意味ヲ示サズ只廣汎ノ意味ヲ示セルヲ以テ何レモ効力アリト斷定スベキガ如シ而シテ其訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アリタルトキハ何故ニ再審ノ原因トナルヤト云フニ他ナシ訴訟

記録ナルモノハ裁判ノ寫眞トモ云テベキモノナレバ不完全ナル記録ノ存スルハ正シク不完全ナル裁判ヲナシタルモノト推定セラル、ヲ以テナリ

(六)判決ノ憑據トナリタル民事上ノ判決他ノ確定トナリタル判決ヲ以

テ廢棄若クハ破毀セラレタルトキ

刑事ヲ判決スルニ當リ民事ノ判決ヲ根據トスル場合決シテ少ナシトセズ然ルニ民事ノ判決其物が錯誤ナリシニヨリ他ノ確定判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタルトキノ如キハ從ツテ刑事判決ノ憑據ハ全ク錯誤ナルガ故ニ更ラニ適法ノ裁判ヲ求ムル爲メ再審ヲ許スハ素ヨリ當然ナリ

而シテ此第六ノ場合タル舊治罪法ニナクシテ刑事訴訟法ニ創定セシモノトス蓋シ此ノ如キ場合ハ從來ヨリ續々事實ノ上ニ見レタルヲ以テ立法者ハ大イニ顧ミル處アリテ本法ニ於テ之ヲ規定セシナラン

以上六個ノ場合ハ第三百一條ニ於テ此レガ規定ヲナセルモノトス終  
 リニ臨ミ一二ノ陳述スベキハ凡ソ再審ノ訴ナルモノハ事實ノ錯誤ヲ  
 申立テ確定判決ヲ打破スルニアリ果シテ然ラバ事實ノ錯誤ナルコト  
 ナ發見スルニハ刑ノ執行中ニ於テシ又執行後ニ於テスルコトアリテ  
 一定ナラズ故ニ法律ニ於テハ豫シメ再審ヲ申立ツル期間ヲ定ムルヲ  
 得ズ

又刑ノ消滅シタル場合就中大赦ニ依リテ刑ノ消滅シタル場合ノ如キ  
 モ一旦確定判決ヲ受ケタル以上ハ嘗テ刑辟ニ觸レタルノ汚名ハ十分  
 ニ雪グヲ得ズ故ニ此ノ場合ニ於テモ再審ノ訴ヲ起シテ晴天白日ノ身  
 タルコトヲ得ベキナリ(第三百三條參看)

再審ノ効力 再審ノ訴ヲ起シタルキハ上告裁判所ハ如何ナル處置ヲ  
 ナスヤト云フニ再審ノ原由存在セズト認定スルキハ之レヲ棄却スル  
 ニ止マルモノナリ之レニ反シ若シ原由アリト認メタルキハ原裁判ヲ

破毀シテ公私兩訴ニ付テ更ニ裁判スル旨ヲ言渡シ而シテ其事件ハ第  
 三百七條ニ從ヒ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移付スルモノトス  
 而シテ再審ヲ爲シタルキト雖原裁判ニハ何ノ影響ヲ及ボサズ仍之原  
 裁判ハ執行ヲ停止セザルナリ元來再審ナルモノハ非常上訴ノ一トス  
 而シテ非常上訴ナルモノハ原裁判ノ執行ヲ停止セザルヲ以テ原則ト  
 スルガ故ニ此効果ヲ生ズルハ別ニ異シムニ足ラズ然レドモ如此論斷  
 スルトキハ大ナル不都合ヲ生ズルコトナシトセズ假令ハ死刑ノ裁判  
 ヲ受クタルモノ再審ノ申立ヲナセリトセヨ其黑白是非ヲ判定スルニ  
 ハ相當ノ時間ヲ要スルニアラザレバ能ハズ然ルニ尙原裁判ノ執行ハ  
 停止セズトセバ好シ異日再審ニ勝テ取ルモ身ハ泉下ノ鬼トナリシテ  
 如何センコレ大ナル不都合ニアラズヤサリトテ再審ノ訴ヲ起シタル  
 キハ盡ク原裁判ノ執行ハ之レヲ停止セザルベカラズトセバ是レ亦却  
 テ不都合ナリ熟々考フルニ再審ナルモノハ實ニ稀有ノ事ニシテ千百

ノ中時ニ是レアルノミニシテ是レガ爲メ確定判決ヲ動カス等ノ場合ハ殆ンド異常トセザルベカラズ然ルニ是レヲ根基トシテ刑ノ執行ヲ停止スル如キハ堂々タル確定判決ノ効力ヲ減損スルノ嫌アリ故ニ予輩ノ所見ニ依レバ前例ノ如キ萬不得止ノ場合ヲ限定シテ執行ヲ停止セシメ其他ハ停止セザルコト、セバ頗ル宜シキニ適シタルモノト信ズルナリ然ルニ立法者ハ前例ノ如キ場合ニ於テ少シモ特別ノ規定ヲ設ケザリシハ或ハ推叩ノ不足ニ源因シタルカ將々他ニ見ル處アリテ然ルカ讀者ノ判定ニ任セントス

以上説キ來ツテ再審ノ規定ヲ説了シ併セテ上訴ノ全体ヲモ説了セリ然ルニ純然上訴部中ニハ包含セシムベカラズト雖甚ダ似タルモノアリ故障是レトス仍ツテ予輩ハ刑事訴訟法編纂ノ順序ニヨラズ特トニ本編ノ終リニ説クコト、セリ

第六章 故障

故障トハ如何ナルモノナルヤト云フニ缺席判決ヲ受ケタル者ヨリ其缺席判決ノ取消ヲ原裁判所ニ請求スル所ノ方法ヲ云フ

凡ソ裁判所ニ於テハ正當ノ手續ヲ行ヒ被告人ハ勿論民事原告人證人鑑定人等ヲモ出廷セシメ原被双方ニ遺憾ナク辯護權ヲ行ハシメ然ル後ヲ判定ヲ下ダスベキ法則ヲ採用セリ然ルニ動モスレバ訴訟關係人ハ怠慢又ハ故意ヨリシテ裁判所ニ出廷セザル場合ナシトセズ此ノ如キ場合ニ於テハ裁判所ハ曠然トシテ其裁判手續ヲ停止スベキヤ否ヤト云フニ元ヨリ缺席者ニ對シテ十分ノ情供證據備ハラザルニ於テハ停止セザルヲ得ザルモ苟クモ其證據ニシテ十分ナリト斷定セラル、ニ於テハ何ヲ苦ンデカ遲疑スルトエロアラソヤ須ラク進ンデ裁判シテ可ナリ斯ノ如キ場合ニ於テ下ス處ノ裁判ヲ稱シテ缺席判決トハ云フナリ但シ彼ノ訴訟關係人が缺席シタルニ拘ラズ出頭スルモ徒ラニ緘黙シテ一言モ答辯セザル場合ニ對シテ爲スモノモ同ク缺席判決



ノ中ニ屬ス然リ然ラバ此判決ハ彼ノ片言獄ヲ斷スルモノナレバ缺席者ノ爲メニ多少ノ不利益ナル裁判ヲ與フルノ止ムヲ得ザルコト素ヨリ論ナシト雖コレ自カラ招ク處ノミ彼ノ惡因アレバ惡果ヲ來タスハ因果ノ定理ナルノミサレバ缺席判決ヲ受ケタルモノニ對シテハ何等ノ恩惠何等ノ抗辯ヲモ與フルコトナク其裁判ニ從服セシムベキモノナルヤト問フニ蓋シ人ハ假令不善惡行アリト雖モ可成之ガ刑ヲ逆レ目前ノ安樂ヲ貪ラントスルハ人情ノ常ナリ從容自若トシテ刑ニ就クガ如キハ豈普通人情ノナシ能フコトナラシヤ彼ノ缺席判決ヲ受クル者モ此結果タルニ外ナラズ故ニ立法者ハ此等缺席者ニ對シテ嚴格ナル理論ヲ用弗ズ大イニ人情ヲ參酌シ故障ト云ヘル門戸ヲ開ヒテ其不利益ナルノ判決ヲ取消シ得ルノ恩典ヲ定メタルナリ

二百三十條ニ依ルニ故障ヲ申立テントスルモノハ缺席判決ヲ爲シタル裁判所ニ其申立書ヲ差出スベキコト、セリ且ツ其故障申立ノ期限

ハ二百二十九條ニヨレバ三日トシ其起算點ハ區裁判所及ビ地方裁判所ノ缺席判決ノ送達アリタル日ヨリ起算スルモノトセリ然レハ禁錮ノ刑ヲ言渡シタル缺席判決ニ對シテハ第一裁告人自カラ判決ノ送達ヲ受ケタル日第二判決執行ニ依リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヨリ起算スルモノナリ假令ハ附加ノ罰金ノ徵收ニ接シタル日始メテ其刑ノ言渡アリタル事ヲ知リタル日ノ如シ

故障ハ彼ノ上告又ハ再審ノ如ク一定ノ原因ヲ明示スル能ハズ唯ダ缺席ヲ爲シ若クハ答辯ヲ爲サザルノ一條件ヲ備フレバ則チ原因トナルナリ

故障ノ申立ヲナシ得ル權アルモノハ被告人民事原告人民事擔當人は是レナリ然ラバ檢事ハ如何ト云フニ決シテ故障ヲ爲スノ權ナシ何トナレバ檢事ハ如何ナル場合ト雖モ缺席スルコトナキヲ以テナリ

民事原告人カ故障ヲナス場合トハ公訴私訴并ヒ起リタル場合ニ於テ

私訴ノ判決アル際缺席シタルガ如キ時トス故ニ其故障權ノ及ブ範圍  
モ只私訴ノ判決ニ付テ及ブノミニシテ公訴ノ判決ニ對シテ及ブノ理  
ナシ

民事原告人ハ缺席判決ニ對シテ故障スル場合ハ被告人公訴ノ判決ニ  
對スルノミニシテ私訴ノ判決ニ對シテハ故障ヲナスヲ得ザルカ否カ  
ノ問題アリ論者曰ク抑私訴ナルモノハ公訴ニ附帶シテ始メテ起スコ  
トヲ得ルモノナレバ公私兩訴ハ寔トニ主從ノ關係アリテ徹頭徹尾從  
ハ主ニ從フノ原則ニヨリ支配セラレザルヲ得ズ故ニ公訴ト其ニ判決  
アリタル場合ニ於テ其公訴ニ付テ故障アレバ私訴モ亦附從シ故障ヲ  
申立ツルコトヲ得ベケレモ公訴ニ付テ故障ナケレバ私訴ニ付テ獨立  
シテナシ得ルノ權利ナシト予輩以爲ラク論者ノ說未タ可ナラズト論  
者ハ公訴私訴ハ主タリ從タリノ關係アリト論シ須臾モ獨立スベカラ  
ズト云フモコレ全ク公訴私訴兩權提起前ニ付テ云フベキノミ苟クモ

一旦裁判所ニ提起セシ以上ハ公訴私訴ハ相獨立獨存セルガ故ニ私訴  
ノミニ付テ其裁判ニ故障スルモ何ノ妨カアル若シ夫レ論者ノ說クト  
コロニ從ヘバ私訴ニ付テ故障ヲサントスルモ公訴ニ故障起ラズン  
ハ轉シテ通常ノ手續ニ從ヒ民事裁判所ニ裁判ヲ請求スルカ然ラズン  
ハ空シク缺席判決ヲ甘受スルヨリ外ナケン何レニシテモ不利益ノ地  
ニ陥ラザルベカラズ是レ豈法律ノ精神ナランヤ故ニ曰ク論者ノ說ハ  
不可ナリト

故障ノ申立ヲナシタルハ裁判所ハ此レニ對シテ判決ヲ與ヘサルベ  
カラズ其判決ヲ爲スニ付テハ之レカ訴訟關係人ヲ呼出サ、ルベカラ  
ズ(二百三十一條參看)而シテ故障ヲ受理スベキモノト認メタルハ前  
判決ハ當然消滅スルモノナルヲ以テ更ニ相當ノ手續ヲ經テ裁判ヲ與  
ヘザルベカラズ此レニ反シテ故障ハ其理由ナシト認メタルハ判決  
文ヲ作りテ之レヲ棄却セザルベカラズ

二百三十三條ニ仍ルニ故障申立人カ更ニ開キタル公判廷ニ於テ再度  
 缺席スルルハ最早之レニ對シテ故障スルコトヲ得ズ即チ故障ハ最初  
 ノ一回ニ限ルモノトス何トナレバ幾回タルヲ問ハズ決席シタラニ  
 ハ故障ヲ許ストセバ彼ノ奸黠ナル被告人ハ判決ノ模様ヲ窺ヒ特更ニ  
 缺席シテ故障ヲ申立テ一般ノ裁判所事件ヲ遷延セシムル等ノ弊風ヲ  
 生スルニ至レバナリ  
 故障ヲ爲ス場合方式手續等ハ控訴院地方裁判所區裁判所共決シテ異  
 ナル處ナシ但シ一ノ注意ハ大審院ニ上告シタルニ付テ代言人ノ缺席  
 ニヨリ爲シタル判決ニ對シテハ決シテ故障ヲ許サズ二百八十四條ニ  
 明文アリ何故ニ右ノ如キ場合ニ於テ故障ヲ許サ、ルヤト云フニ抑モ  
 大審院ハ終審ノ裁判所ナレバ一旦判決ヲ下シタル以上ハ最早ヤ更改  
 ヲ求ムル道ナキモノトスレバナリ

第七編 執行

前數編ニ於テ總テ治罪手續ヲ講了セリ然レモ苟クモ獄ヲ斷シタル以  
 上ハ必ズ之ニ對スル刑ノ執行ヲナサ、ルベカラズ蓋シ物始アレバ又  
 タ終ナクシテバアテズ執行ハ實ニ最終ノ所爲ナリ於爰刑事訴訟法モ之  
 ヲ最終ニ於テ規定セルハ事理ノ當然ヲ得タルモノトス  
 執行ハ何人ノ任ナルヤ抑モ刑ノ執行ハ確定シタル判決ニ付テスル  
 ハ勿論ナリ乍併裁判ノ種類ノ内ニハ確定ヲ待タズシテ直ニ執行スベ  
 キモノモアリ即チ彼ノ豫判又ハ裁判所ノ下シタル各種ノ手續ニ對ス  
 ル處ノ決定ノ如キモ是トス而シテ確定ヲ待テ執行スルモノト否テザ  
 ルモノトニ論ナク其ノ執行ハ何人ノ任務ナルカト云へバ元來治罪手  
 續ノ大要タル豫メ先ヅ罪人ナルモノヲ捜査シ而テ後起訴シ而メ公判  
 シテ有罪無罪ヲ決定スルモノナリコノ中ニテ捜査ト起訴トヲ司トル  
 者ハ同一ノ官吏ニ於テスルモ差支ナシ否ナ同一ノ官吏ニ於テ之ヲ爲  
 サ、ルベカラズ何トナレバコノ捜査ト起訴トハ密接シテ臨機活潑ノ

處分ヲ要スレバナリ然ルニ公判ニ至ツテハ決シテ之ヲ同一ノ官吏ニ任スベキモノニアラズ其故如何トナラバ凡ソ罪ノ有無ヲ判決スルニハ公明正大ノ心ヲ以テ少シモ偏倚スル處ナク少シモ拘泥スル處ナク少シモ豫斷スル處ナク眞實ヲ洞觀スルヲ要ス然ルニ其事件ヲ搜查シ起訴シタルモノヲシテ公判ノ任ヲ兼テシメシカ管テ犯罪者トセシ腦髓ハ先入主トナリ決シテ回復スベカラズ到底偏頗不當ノ處分ニ陥ルハ理ノ見易キトコロトス是故ニ自カラ訴ヘ自カラ理スル制度ハ今ヤ既ニ滌除シテ其跟跡ヲ見ズ故ニ我カ刑事訴訟法ニ於テモ管轄ノ官吏ヲ區別セルハ讀者ノ知ルトコロトス然ラバ執行ノ處分ハ何人ニ任シテ可ナルカト云フニ是亦タ活潑ノ處分ヲ要スルヲ以テ其事ヲ搜查シ起訴シタルモノト同一ノ人ニ於テ之レカ任ニ當ラシムヲ以テ可トス乃チ構成法第六條ニ裁判所ノ決定及ビ裁判ノ執行ハ檢事ニ於テ掌ルモノトハナセル所以ナリトス

既ニ講シタル如ク刑ハ裁判確定後執行スルヲ原則トス其所以ハ元來刑ハ一度之レヲ執行スルニハ到底回復シ得ザルモノナレバ判決ノ確定ヲ待ツベキハ當然ナレバナリ然レモ之レニ例外ノ場合アリ刑法第十三條死刑ノ如キ是レトス又罰金科料ノ如キハ刑法二十七條及ビ三十條ニ依ルニ裁判確定後直チニ執行スルニアラズシテ幾分ノ猶豫ヲ與ヘタリ

沒收或ハ追徴或ハ訴訟費用ヲ徵收スル等モ皆檢事ニ於テ之レカ命令ヲ下シ是レヲ取立ツルノ事務ヲ監督スルモノトス乍併檢事ハ是等ノ命令ヲ發スルモ實際之レカ徵收ノ任ニ當ルモノハ警察署若クハ執達吏若クハ監獄吏員ニ於テ之レヲ行フモノナリ

尙此外ニ裁判執行ニ關シテ講述ス可キハ檢事が發シタル逮捕狀ナルモノガ拘留狀ト同一ナル効力ヲ有スルト云フコト是レナリコレ實ニ第三百十九條第二項ニ規定スル處ナリ元來令狀ナルモノハ豫審判事

ニ於テ發ス可キモノニテ他ノ官吏ガ發ス可キ性質ノモノニアラズ故  
ニ檢事ヲシテ豫審判事ガ發スル拘留狀ト同一ノ權力ヲ有スルカ如キ  
逮捕狀ヲ發セシムルハ一面ヨリ見レバ實ニ非常ナル權利ヲ檢事ニ  
與ヘタル如キ觀アリ然レモ只便宜上ヨリ設ケタルモノニシテ若シ逮  
捕狀ヲシテ單ニ被告人ヲ逮捕スルニ止マラシメバヨシ逮捕スルモ拘  
留スルノ効力ナク從テ十分ナル運動ヲナシ得ザルヲ以テ如此ナシタ  
ルナリ要スルニ罪人ヲシテ亂リニ法網ヲ脱セシメザラヌコトヲ期シ  
タルニ外ナラス此他詳細ナル事ハ三百十七條以下三百二十三條迄ニ  
明文アルヲ以テ今爰ニ之レカ講述ヲ省ク

第一章 復 權

復権ノ何物タルコトハ刑法講義ノ範圍ニ入ルベキヲ以テ唯ダ爰ニ其  
大畧ヲ講セシニ抑モ復権タルモノハ一旦褫奪セラレタル公權ヲ回復  
スルコトニシテ刑法第六十三條ノ期間ヲ經過シタルキニ於テ司法大

臣ニ對シテ之レヲ請求スルモノナリ而シテ第三百二十五條ニ依ルニ  
復権ノ願書ノ外ニ尙ホ種々ナル書類ヲ要ス即チ同條第一項乃至第五  
項是トス但シ其願書ハ司法大臣ニ直チニ出スニアラズ現在地ノ地方  
裁判所檢事ニ差出スモノトス檢事之レヲ受理セバ被告人ノ摸樣ヲ詳  
細取調ベ自己ノ意見ヲ具シテ之レヲ檢事長ニ出シ檢事長ハ意見ヲ具  
シテ司法大臣ニ出シ司法大臣ハ上奏シテ之レヲ定メザル可カラズ蓋  
シ復権ナルモノハ一旦剝奪セラレタルノ公權ヲ回復スルモノナリ恰  
モ犯罪以前ノ正當ナル人ニ歸スルモノナリ蓋シ吾人々類ニ對シ公權  
ヲ與フルガ如キハ決シテ裁判官又ハ檢事ニ於テ爲シ得ベキモノニア  
ラズ之レヲ陛下ニ上奏スルガ如キハ實ニ正當ト云フベシ陛下ニ於テ  
此レヲ裁可セラレタルキハ其書類ヲ司法大臣ヨリ檢事長ニ送り檢事  
長ハ管轄檢事ニ送り其檢事ハ其騰本ヲ本人ニ下付スコレニ反シテ復  
権ノ裁可ヲ得サルキハ司法大臣ヨリ檢事長ニ通知シ檢事長ヨリ檢事

特赦

ニ通知スルモノトス

第二章 特赦

特赦ノ何物タルコトハ刑法講義ノ範圍ニ屬スルヲ以テ唯タ其ノ手續  
 ノ一班ヲ講述セシニ第三百三十一條ニ依レバコレガ申立ヲ爲スモノ  
 ハ檢事若クハ監獄署長ニ限ルナリ而シテ其意見書ハ之レヲ司法大臣  
 ニ差出シ大臣ハ之レヲ陛下ニ上奏シ其上奏ノ結果即チ陛下ニ於テ御  
 裁可アリタルハ三百三十四條ニ依リ之レヲ處分シ又タ若シ特赦ノ  
 申立裁可セラレザルハ司法大臣ハ三百三十三條ニ依リ刑ノ言渡ヲ  
 爲シタル裁判所ノ檢事ニ其事ヲ通知スルモノナリ而シテ三百三十二條  
 ニ依ルニ特赦ノ申立ヲ爲シ得ルモノハ單ニ檢事監獄署長ノミナラズ  
 司法大臣モ亦申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ又特赦ハ刑ノ執行ヲ  
 停止セザルヲ以テ原則トスレモ死刑ハ之レヲ例外ニ置ケリ此他特赦  
 ノ事ニ付テハ講述スベキ點ナキニアラザレモ法文ヲ一讀セバ明ラカ

ナルヲ以テ解釋ノ勞ヲ執ラザルベシ終ニ臨ンデ余ハ讀者ノ注意ヲ起  
 サシカ爲メニ何故ニ復權特赦ニ付テハ此法律ハ其手續ヲ示シタルヤ  
 否ヤノ事ヲ説明スベシ則チ彼ノ刑ヲ受ケ終リ若クハ時効等ニ依リ  
 刑ノ消滅シタル等ノ場合ハ裁判所ハ之レヲ放免スルノミニテ事足ル  
 ベシ別ニ手續ヲ規定スルノ要ナキナリ然レモ以上ノ二者ハコレヲ規  
 定セザレバ區々ノ手續トナルノ不都合アルヲ以テトス  
 又刑事訴訟法ノ終リニ五ヶ條ノ附則アリ此附則ナルモノハ舊治罪法  
 ト本法トノ關係ノ全後策ヲ定メタルモノニシテ發布ノ一時ハ必要ノ  
 箇條ナレモ別ニ學科トシテハ講述スベキモノニアラザレバ爰ニ贅セ  
 ズ

刑事訴訟法要義大尾

明治二十五年十一月三日印刷

明治二十五年十一月十日出版

(定價金六十五錢)

京都市上京區千本通水上ル  
福島町一番戸

著者兼發行者

西垣改 上木爲吉

京都市下京區室町通綾小路下ル  
白樂天町三十三番戸

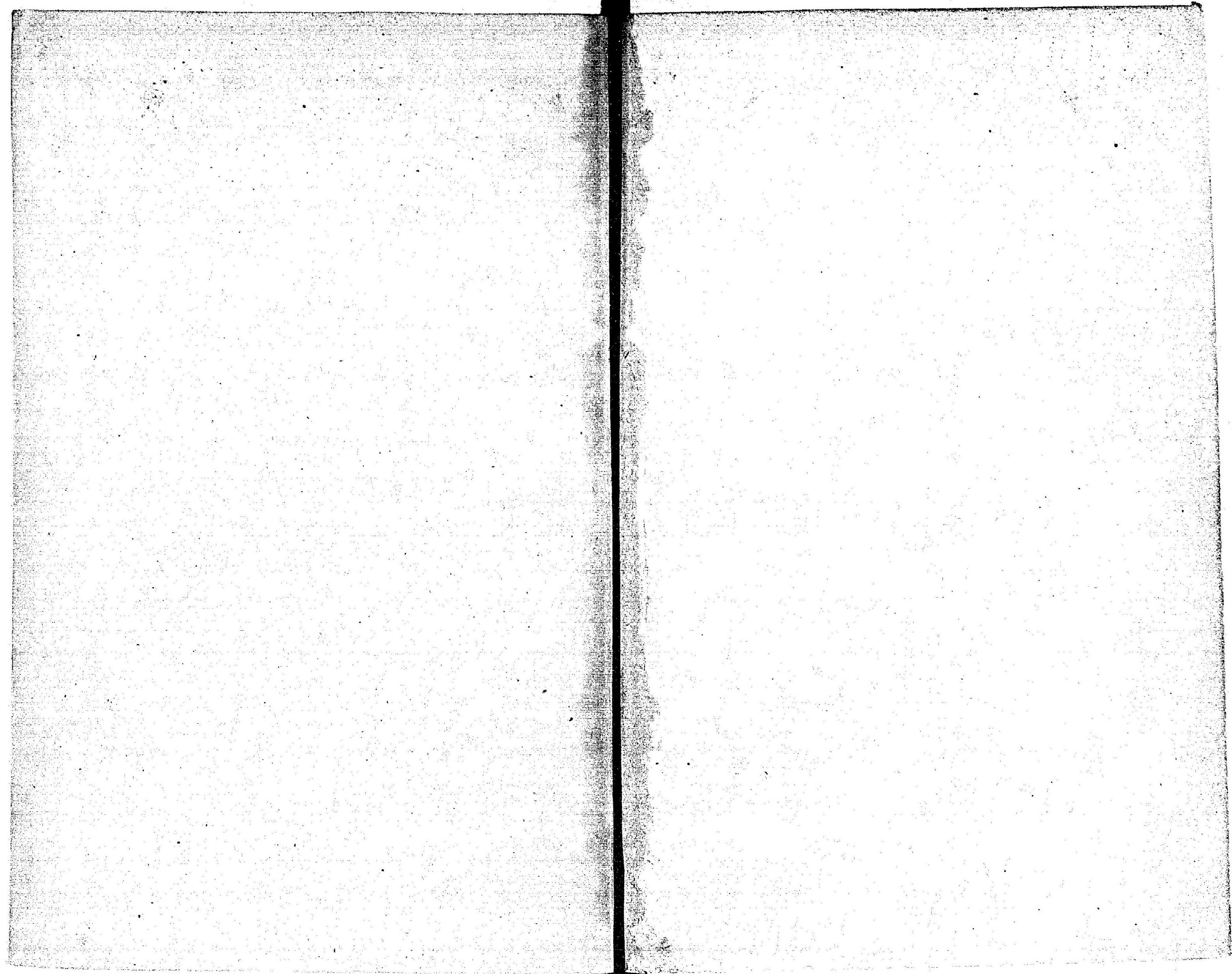
印刷者

小谷義一

同所

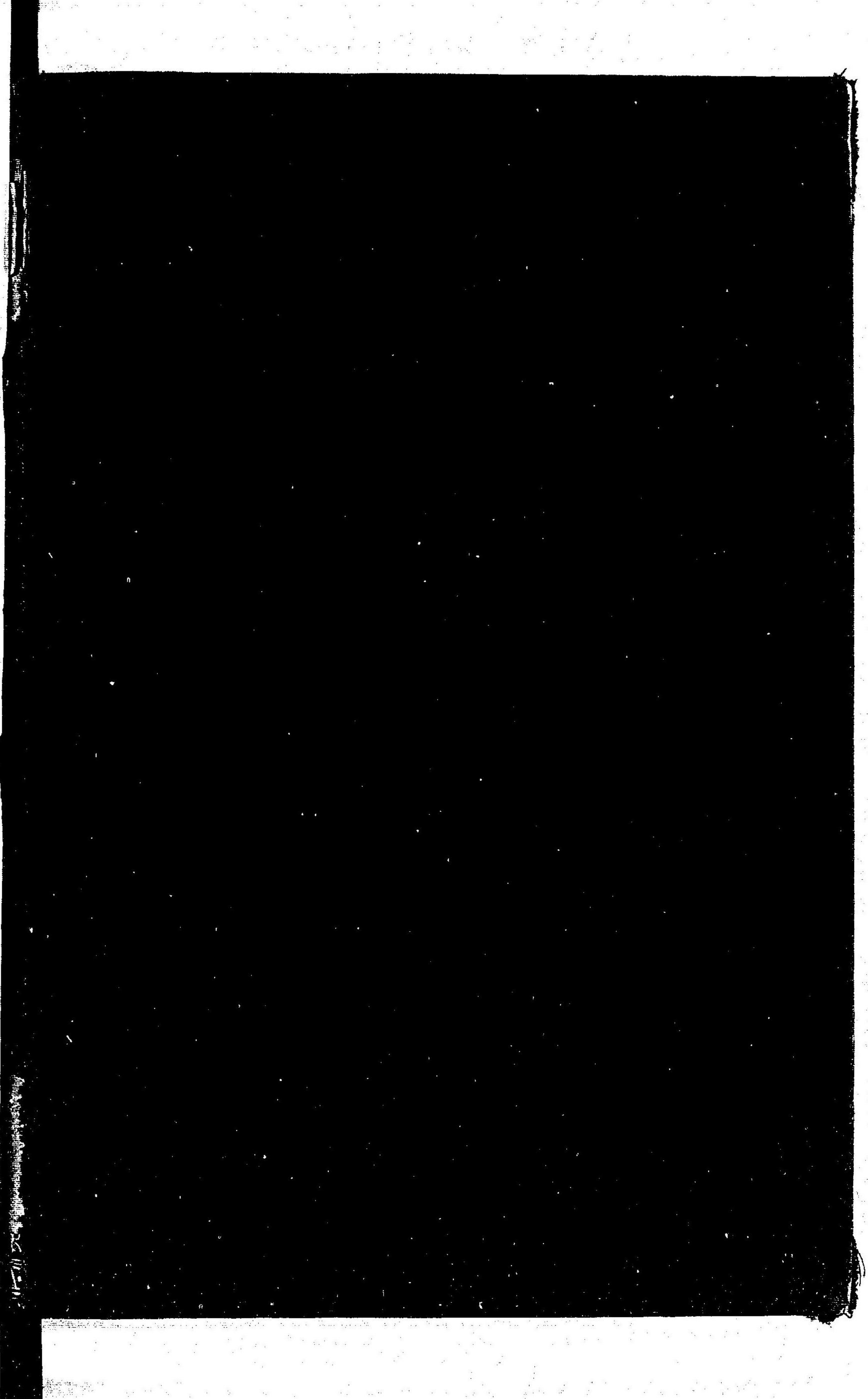
印刷所

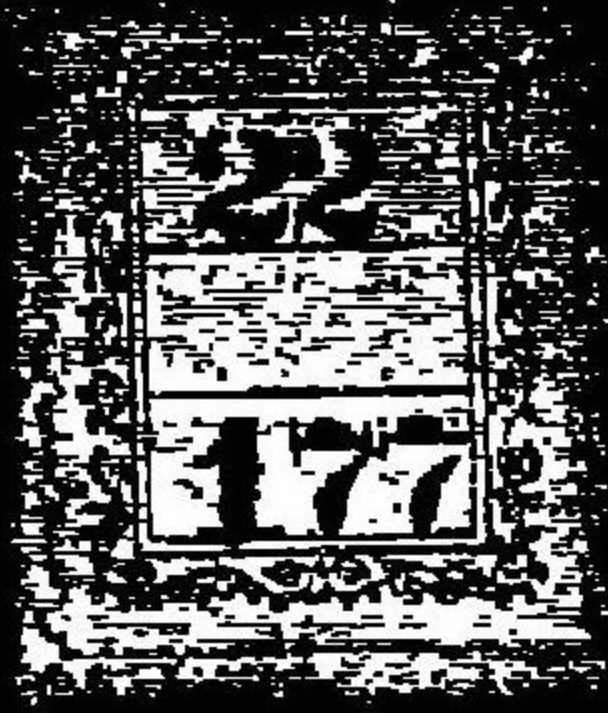
博成堂





22  
177





036725-000-8

22-177

刑事訴訟法要義

西垣 為吉 / 著

M25

BBS-0152

圖書

